

40th

3 Network vision of CEMA.

日本塗装機械工業会40周年



CEMA 40th Anniversary



塗装産業の発展の推進役としての役割を果たします。

ビジョン: 塗装ネットワーク、もの作りネットワーク、グローバルネットワーク

CEMA 21世紀ビジョン

CEMA は、塗装技術を通じて新しい価値を創造し、その活動をグローバルに展開します。

CEMA は、塗装技術を追求し、作業環境の改善と地球環境の保全に尽力します。

CEMA および会員各社は、相互の信頼関係を深め、共生と共栄を自らの手で切り拓きます。

TABLE OF CONTENTS

■ 巻頭言	3
■ 祝辞	5
■ 工業会に期待する	11
■ 将来への提言	13
■ 工業会の活動	19
■ 活動中期計画	20
■ 部会活動紹介	22
■ シンポジウム	23
■ 対外活動の歴史	35
■ 出版	37
■ ホームページ	38
■ 会員紹介	39
■ 年表	73
■ 出荷統計	83
■ 編集後記	86



巻頭言 Introduction

塗装産業の発展の推進役としての役割を果たします

日本塗装機械工業会
会長 木下 真生



会長 木下 真生

皆さま、このたび日本塗装機械工業会 (CEMA) が創立40周年を迎えるにあたりひと言ご挨拶申し上げます。

塗装機械メーカーおよび“塗装産業”の有志会社19社により、『塗装をとおして、ものづくり産業、さらには世の発展に貢献していく』としてCEMAが結成されたのが1976年。そこから幾多の変遷を経て今年めでたく40周年を迎えることになりました。この間、活発な活動を推進しつつ貢献されてきた会員会社およびその社員の皆さまのご努力やご苦労は、この40周年記念誌をご覧くださいと各段落の端々からにじみ出ているものと思います。

塗装機械はもちろんのこと塗装業界全体の発展と進歩のために、それぞれの会社のトップやリーダーそして社員の皆さま方が自己の会社の利害・得失のみに捉われず、高い見地から業界の真の発展を願い自分たちが身を置いている“塗装業界”に大きな誇りを持ち生きがいを感じCEMAを牽引しまた後押ししてくださったからこそ、40周年という節目を迎えることができたということであると思います。また任意団体という難しい枠組みの中で、この様にしっかりした骨格をもつCEMAとして誕生させてくださった先達の方々、諸先輩の皆さま、さらには日々煩雑な業務を縁の下の力持ちで支えてこられた歴代の理事、専務理事、各部会の皆さま方におかれましても、僭越ながらCEMA会員全員を代表して心から御礼を申し上げると同時に敬意を表させていただくものであります。

『塗装なくして物づくりなし』

これは私が、CEMA会長の任にある4年を通して実感させられた感想であります。世の中のほぼ全てと言っていいほどのあらゆる物は、最終的に『塗装』、『コーティング』、『フィニッシング』といった工程を経て初めて製品・商品になる、といっても過言ではないと思います。

40周年の大きな節目を越えたCEMAの先には、さらに様々な試練や挑戦が待ち受けていることでしょう。それらを乗り越えつつCEMAをよりいっそう社会的に意味ある団体へと皆で協力して大きく育てていく、そしてこの40周年という輝かしい歴史の上にさらなる輝かしい歴史を繋いでいく、そんな期待を皆さまに託しつつ簡単ではございますが私のご挨拶とさせていただきます。

祝辞 Congratulations

祝辞 Congratulations

お祝いの言葉

日本パウダーコーティング協同組合
理事長

渡邊 忠彦



この度は日本塗装機械工業会が創立 40 周年を迎えられたことを日本パウダーコーティング協同組合として心よりお慶び申し上げます。

我々の組合は 1983 年設立の「日本粉体塗装協同組合」から 33 年目（認可後は 21 年目）と協会として貴工業会は先達ですが、事務受託をしております「粉体塗装研究会」は今年 41 年目とほぼ同じ時期に設立され、環境に優しい粉体塗装の発展に向けて貴工業会のご指導・ご鞭撻を受けながら共に進んで参りました歴史がございます。

この 10 年を振り返ってみますと、2005 年に粉体塗料の生産量が初めて 3 万トンを超え、その後も塗装・塗料の分野は順調に拡大基調が続きました。しかしながら、2009 年のリーマンショックにより粉体塗料生産量が 2.6 万トンまで落ち込み、全産業同様に塗装・塗料の分野も暗い年となりました。その後東北大地震があり伸びつつあった需要が停滞した時期もありましたが、2012 年末から始まったアベノミクスによりリーマン前の状況、それ以上に回復をしました。しかし、現在はその効果も薄れほぼ停滞と言って良い状況です。とは言っても、粉体塗装は環境に優しい塗装方法です。各種環境規制で規制が厳しくなればなるほどこの塗装方法は増えて行くものと考えます。

我々の組合に加入されている粉体塗装機関係企業 7 社、貴工業会と共に協賛しています国際工業塗装推進会議等を通じて今後も共に工業塗装の発展に向けて頑張る所存でございます。

最後に、日本塗装機械工業会創立 40 周年にあたり、今後益々貴工業会が発展される様祈念しお祝いの言葉と致します。

お祝いの言葉

関西工業塗装協同組合
理事長

大内田 昭次



日本塗装機械工業会 設立 40 周年おめでとうございます。

我々業界に於いて個々の問題に直面するたび日本塗装機械工業会の会員各社の塗装機械、塗装設備を使用する事で VOC 排出等のあらゆる分野の改善が可能になり合理化生産性の向上ができました。我々塗装業界に塗料費の削減、3 K 職場環境の改善、人材不足による自動塗装機の活用、環境問題に於いて工業会会員各社の高度な機械設備を使用なくしては企業の存続発展が望めないと思います。

今後、我々業界もユーザー各社の品質、価格また人材不足の環境問題等に於いても今まで以上にレベルアップが求められており、今後ますます日本塗装機械工業会への機械設備の更なる発展を期待いたします。

お祝いの言葉

一般社団法人 色材協会
会長

橋本和明



日本塗装機械工業会 (CEMA) が創立 40 周年を迎えられたことに対し、心からお喜び申し上げますとともに、記念誌の発刊をお祝い申し上げます。

CEMA は 1976 年 8 月、国内の塗装機器メーカー 19 社によって塗装機械の普及と向上および塗装業界の健全な発展を目的に創立され、ここにめでたく 40 周年を迎えられました。設立以来、塗装技術の活性化に邁進されるとともに、VOC 排出抑制への取組み、塗装技術の核となる技術情報を集約化してそれらをグローバルに展開するなど、多くの活動にご尽力されておりますことに、深く敬意を表する次第であります。

さて、リーマンショック以降、世界的な金融危機の拡大により、我が国の景気は急速に悪化し、かつて経験したことのない経済環境を迎えており、大変厳しい状態が続いております。このような中、CEMA は 66 社と発展して産業界からの信用と信頼を獲得し、その業績は広く認められています。CEMA の皆様におかれましては、引き続き、活力と創意にあふれる事業に積極的にチャレンジしていただき、魅力ある塗装業界づくりはもとより色材の一つであります塗料の発展のためにもご尽力賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、CEMA の今後益々のご発展と会員皆様のご健勝、ご活躍を祈念申し上げます、お祝いの詞といたします。

お祝いの言葉

日本塗装技術協会
会長

工藤 一 秋



日本塗装機械工業会の設立 40 周年を心よりお慶び申し上げます。

私ども日本塗装技術協会は先だって 50 年目を迎え、その折に、私は年表作成の目的で過去の記録に目を通しました。そこで痛感したのは、協会活動というものは山あり谷ありで、決して平坦な道ではない、ということです。それだけに、このたび貴会が 40 周年を迎えられたことは、御同慶の至りに存じます。

その後私は、先代今井会長の後を継いで当協会の会長を拝命しましたが、今つくづく感じますのは、この「後を継ぐ」ということの難しさです。この言葉は、ともすると既存の活動の継続で満足してしまいかねない危うさを孕みます。協会の健全な運営にとって真に必要なもの、それは精神を継ぐことだと思います。これさえあれば、代を経て新しいエンジンが搭載され、新しい燃料が注ぎ込まれて、次の一歩をしっかりと踏み出すことができます。先日、たまたま貴会の技術部会に参加させていただく機会を得ましたが、そこで感じたのは、常に次を求めるといふ貴会のスピリットでした。その折に、今回ご出版予定の塗装用語辞典について、限られた時間を使っていかに準備を進めてこられたかということも伺い、委員の皆様の熱意がひしひしと伝わってまいりました。この点で、貴会はまさによいエンジン、よい燃料を積んでおられ、前述の話は釈迦に説法かと存じます。当協会は、「年齢」だけ見れば貴会よりも少しだけ先輩なのかも知れませんが、ホームページを通じた会員サービスや、国際化への対応など、貴会に見習うべきことが多々あると思っております。

今後の貴会のますますのご発展を祈念いたしますとともに、ともに塗装に関わる当協会へのいっそうのご指導ご支援をお願い、お祝いの言葉とさせていただきます。

お祝いの言葉

日本工業塗装協同組合連合会
会長

川西克司



この度、日本塗装機械工業会 (CEMA) が創立 40 周年をお迎えになられたことを心からお慶び申し上げます。

この 10 年を振り返りますと、貴工業会は私ども日本工塗連と「工業塗装高度化協議会」を発足させ、VOC 削減活動に取り組み、その積極的な努力が評価され、環境省などから表彰を受けました。また塗装業界関係者を総合的に集約するための「工業塗装高度化協議会」は幾多の会議、地方セミナーを重ねて、現在は IPCO 国際工業塗装高度化推進会議の名のもと、幅広く塗装の高度化に関心を持つ有志の会議体にて発展させ、塗装技術のコアとなる技術情報を提供する、一方で技術シンポジウムや先端表面技術展への出展等「最先端技術情報の提供やグローバルな展開活動」もおこなうなど、貴工業会の塗装産業における功績は顕著のものがあり、敬意を表する次第です。

今後も永年の経験を生かし、塗装産業のイメージチェンジ、イメージアップを図りながら、更に塗装産業が魅力ある業界に発展していく道を構築するようご尽力頂けると信じております。私たちが微力ながらご支援申し上げますことをお約束し、貴工業会創立 40 周年のお祝いの言葉に代えさせていただきます。

お祝いの言葉

一般社団法人 日本塗装工業会
会長

乃 一 稔



日本塗装機械工業会が設立 40 周年を迎えられ、「CEMA40 周年記念誌」が発行されますことを心よりお慶び申し上げます。

貴会は昭和 51 年 8 月に設立されて以来、塗装機械・設備の技術向上に取り組み、会員数の拡大とともに今日の地位を築かれたことに対してあらためて敬意を表します。貴会が取り組まれてこられた塗装技術や環境保全の取り組みは、我々施工事業者の団体として深く恩恵を受けており、心より感謝申し上げます。

さて、私たち日塗装では、1.「お客様へ『感謝』する・お客様から『感謝』される」、2.「お客様に『感動』を与える」、3.「仕事を通じて世の中へ『貢献』する」の「新 3K 職場」を提唱しております。全国の経営者、従業員が「新 3K 職場」で働いているという認識を一つにできれば、建設業界、塗装業界には明るい未来が開けてくるのではと考えます。新しい世代に塗装業を希望あふれる業界として繋ぎ、関わる全ての方が「新 3K 職場」で誇りを持って生き生きとできるような業界発展のための事業や諸課題への取り組みを展開してまいります。今後とも、貴会の蓄積された研究開発力に期待申し上げるとともに、私どもの良きパートナーとしてご指導、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

この 40 周年を契機とされ、貴会のますますのご発展と役員並びに会員各位の更なるご隆盛を記念し、お祝いの言葉と致します。

お祝いの言葉

一般社団法人 日本塗料工業会
会 長

石 野 博



このたび、日本塗装機械工業会が設立 40 周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。
貴工業会は、塗装及び塗装技術が商品価値を高める重要な役割を担っているという認識のもと、常に高度化を目指した塗装機械・設備の振興及び普及促進を着実に進めることによって、今日の地位を築かれて参りました。また、人健康・地球環境問題の社会的重要性が増す中で、VOC 排出抑制を始めとする環境・安全の多くの課題に取り組み、業界の健全な発展に努力されて来られました。更に加えて、最近での国内外の技術情報の交流活動を活発に行うことによって、塗料産業はもちろんのこと、国内外の自動車産業や一般工業製品等各種基幹産業の成長・発展に多大な貢献を果たされております。これもひとえに、現会長木下真生様並びに歴代会長及び役員をはじめ塗装機械に携わる会員皆様方が、将来を見通して常に時代のニーズを先取りし、貴工業会の運営活動を通して、業界全体の強固な基盤を築かれたことの賜物であり、改めて敬意を表する次第です。
貴工業会が、これまでの 40 年の経験を礎として、今後とも時代の要請変化に迅速に対応され、次の 10 年に向けて更なる技術の向上・飛躍を目指し、塗料産業の発展、ひいては我が国のあらゆる産業の成長のために一層のご尽力されることを期待して、お祝いの言葉とさせていただきます。

設立 40 周年を祝して

日本塗料商業組合
理 事 長

野 田 明



この度は日本塗装機械工業会が設立 40 周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。
貴工業会が 1976 年に設立されて以来、これまでさまざまな取り組みや活動により、塗装機械の普及と向上及び塗装業界の健全な発展のために大きな役割を果たされてこられましたことに対し、深く敬意を表するものがあります。ご承知のように、塗装・塗料業界は最大の VOC 排出業界であり、塗料販売業者の団体である当組合でも VOC 削減を社会的責任として捉え、諸施策を展開しておりますが、貴工業会におかれても塗装の VOC 削減活動に積極的に取り組み、日本工業塗装協同組合連合会と共同で発足させた工業塗装高度化協議会が 2011 年に環境省から VOC 対策功労者表彰を受けるなど、その功績はまことに大きく、改めて敬意を表する次第であります。
日本の塗装技術は世界でも高いレベルであると伺っております。その技術をグローバルに展開するためにも、作業性、仕上り性や塗着効率の向上など塗装機械のさらなる開発・改良が重要であると思っております。当組合も塗装機械の販売を通じ、貴業界発展のために微力ではありますが協力させていただければ幸甚に存じます。
貴工業会が更なる 50 年・100 年に向けて、会員様一同の結束のもと、ますます発展されることを祈念して、ご祝辞とさせていただきます。

設立 40 周年を祝して

一般社団法人 日本表面処理機材工業会
会 長

奥 野 和 義



この度は、日本塗装機械工業会の設立 40 周年を迎えられるにあたり、謹んでお慶び申し上げます。
貴工業会の 10 年史を拝読させて頂きましたところ、VOC の環境問題がクローズアップされ、その対応に行政・業界が一体となり削減活動に鋭意取り組まれ大きな成果を挙げられました点が記憶に残りました。私ども表面処理機材工業会も、同様の環境排出基準厳格化に伴います汚染物質の削減や代替技術活動は大きな課題であり、関連事業として取り組んでまいりました。日本経済に目を移しますと高度成長期のものづくりの発展とバブル崩壊後の減速、IT バブルやリーマンショックの世界情勢からの大きなうねりにもまれながら、設立当初の塗装業界の発展・振興に貢献するという貴工業会のスピリッツが微塵も揺らぎのない軌跡として今日まで継承され、更に会員増強・事業拡大と発展されていることは、大いに喜ばしいことです。本年は、円高・株安・資源安となり、初めてのマイナス金利時代に突入しました。先の見えない時代で、直近の情勢では景気の減速と判断されています。このような逆風の時に知恵を出し、イノベーションを引き起こすかが問われます。貴工業会の高度先進技術が開花しますよう期待します。
最後になりましたが貴工業会が次の 50 周年、100 周年に向けて益々発展しその功績が先の記念号に深く刻み込まれますよう心より祈念申し上げ、お祝いの詞とさせていただきます。

日本塗装機械工業会設立 40 周年に寄せて

一般社団法人 表面技術協会
会 長

渡 部 修 一



日本塗装機械工業会が設立されてから 40 周年をお迎えになり、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
貴工業会の設立は昭和 51 年(1976 年)の 8 月であったとお聞きしています。当時、塗装機械の普及と性能向上を図り、塗装業界の健全な発展を目的として国内有数の塗装機械メーカーの代表者らが発起人となって設立されました。その後は、2006 年の大気汚染防止法施行に伴い、VOC 排出抑制へ向けて精力的に活動を展開されてこられました。さらには、国際工業塗装高度化推進会議を設立されて、我が国における塗装技術のコアとなる技術情報を広く提供するなどの支援も継続してこられました。このように、塗装技術の育成、技術普及に鋭意当たられた貴工業会皆様のご見識とご努力に敬意を表します。
ただ、昨今の関連業界を取り巻く環境は、円高不況から始まったデフレ経済の影響を受け厳しい状況にあるのではないかと推察します。しかし、今後長きにわたり活況を呈するためには、関連する研究者・技術者が意欲と能力を高揚し、新たな技術に挑戦することなしに道が開けることはありません。表面技術協会においても、塗装を含む各種の表面技術のベーシックサイエンスの確立と深化、新技術の開発と技術普及、および次世代研究者・技術者の育成に注力し、我が国の表面技術の基盤構築に努める所存でおります。今後とも貴工業会のより一層のお力添えをお願い申し上げます。
最後になりますが、日本塗装機械工業会のさらなるご発展を心より祈念いたします。

工業会に期待する

工業会に期待する

株式会社 塗料報知新聞社

代表取締役社長 有馬 弘 純

日本塗装機械工業会が結成 40 周年を迎えられ、多くの事業を積み重ねてこられましたことに対し、心よりお祝い申し上げます。

40 年前の昭和 50 年代を、「戦後 70 年 塗料工業の変遷を回顧する」(『塗料報知』連載企画)には、「石油化学は成熟期に社会は列島改造論が本格化し成長 高品質化を目指す塗料技術 カチオン電着塗装への移行 加水分解型防汚塗料の登場」と掲載されています。貴工業会設立を繙くと、1976 年(昭和 51 年)8 月に東京・恵比寿の岩田塗装機工業(現アネスト岩田)で総会を開いたとあります。さらに繙くと、約 2 年間の準備期間があり、さらにその萌芽へと辿ると、そもそもの設立の発端は、1974 年(昭和 49 年)4 月に本紙『塗料報知』が主催した座談会に、11 社のメーカーが出席し議論を交わしたことを通じて、工業会設立への足固めになったとも聞いています。当初の 2 年間、事務局を塗料報知新聞社で担当していたとのこと。時は巡り、2014 年(平成 26 年)から弊社にて再び事務局を任せていただいております。改めて貴工業会との関係を振り返るにつれ、業界各団体との連携を図ること、業界の最新情報を常に交換することなど、積極的に役立たなければならないと感じます。

この 10 年の間に、戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン事業)において、“塗装”が技術として認められ採択されました。日本塗装機械工業会が業界内はもとより、ユーザーに軸足を置いた世界に通用する技術を目指すにあたり、塗料産業が一体となってあたる時代にあります。ここに業界メディアとして、有益な情報や活動を提供していかなくてはなりません。

最後に、塗装技術情報の提供という面から、貴工業会より支援をいただいております国際工業塗装高度化推進会議(IPCO)の事務局長の立場からも感謝を申し上げ、設立 40 周年を契機として益々貴工業会が発展されるよう祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

CEMA に期待する

株式会社 理工出版社

代表取締役社長 若井 宣 男



日本塗装機械工業会(Coating Equipment Manufacturers Association : CEMA)の設立 40 周年、おめでとうございます。この業界において、今でこそ「CEMA」の愛称で親しまれ、会員数も正会員および賛助会員等併せて 66 企業が参画し、活発化している情報を耳にする機会も多くなりましたが、これまでの歩みは決して平坦ではなかったと思います。いわば呉越同舟でありながら、塗装機器設備の存在と信頼をユーザーから勝ち取るために志を掲げ、会員一丸となって尽力された経緯を顧みると、まさに「継続こそ力なり」の証と言えます。すなわち、CEMA という組織が、激動の変革に団結して適正な対応を図ってきたからではないでしょうか。特に歴代の会長はじめ副会長、幹事役を務められた方々が、塗装技術をキーワードに CEMA のビジョンの基、たとえば VOC 排出規制への真摯なまでの取組、IPCO(国際工業塗装高度化推進会議)の発足と協同研究、塗装機器設備における出荷統計の充実、時代に即応した省エネセミナーの開催等、会員企業各社も相互扶助の役割を果たしてきた意義は大きく、地に着いた組織づくりの礎となっているのではないのでしょうか。

現在、先人の心意気を継いだ若い人材が育成されてきているように感じられます。そうした若い方々のアイデアが、業界のさらなるレベルアップにつながる期待感が見て取れます。これからも塗装業界が体験する景況は厳しく、CEMA への試練として迫ることが予想されます。それでも次の 50 周年、60 周年を目指し継続して行く若い力が培われていると確信しております。

CEMA 創立 40 周年に際し

株式会社 コーティングメディア

代表取締役 近藤 亮 吉



このたびは日本塗装機械工業会の創立 40 周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

貴会はこれまで VOC 排出抑制の取り組み、国際工業塗装高度化推進会議の発足及び支援、出荷統計など塗装産業の発展に大きく貢献されてきました。工場取材の折に感じさせられるのは、塗装機械及び塗装設備の奥深さです。同じ設備体系を有しながら、工場環境やワーク(被塗物)、塗料、要求品質によって使い方は千差万別。それぞれの工場が何を大切にしているのかをうかがい知ることができるのも塗装機械の特色といえます。

しかし今、競争相手は国内企業のみならずアジア諸国など海外に及び、グローバル競争で勝ち抜くためにも、顧客の技術革新をけん引する塗装機器・設備が必須となっています。そのために重要になってくるのは、“残る市場”に対する視点ではなく、“市場を生み出す”視点です。生産効率、品質の追求は当然のこと、素材の変化や環境配慮など既成概念にとらわれない新たな発想が期待されており、塗装産業自らが塗装の“良さ”を社会に訴求していく姿勢が重要となっています。

既に貴会におかれましては国際工業塗装高度化推進会議などを通じ、塗装技術のレベルアップ、社会的地位の向上に努めておられますが、更に塗装産業全体の活力向上に貢献されることを期待しております。

結びに貴会の益々のご発展をご祈念し、お祝いの言葉を申し上げます。

CEMA に期待する

株式会社 塗料界展望社

代表取締役 荒井 康 雄



日本の産業界全般の需要は飽和して久しく、今まさに大きな転換期を迎えています。なかでも、エネルギーや環境関連の事業は多くの課題を抱えており、それは塗装業界も例外ではありません。特に塗装業界は最大の VOC 排出業界でもあります。この VOC 削減活動に関しては、CEMA と日本工業塗装協同組合連合会が共同で設立された「工業塗装高度化協議会」で積極的に取り組まれた結果、環境省からの表彰を受けるなど大きな成果を収められました。平成 26 年度の塗料からの VOC 排出推計量は 12 年度比で 48.8%の削減率に達しています。今後とも技術シンポジウムなどを通じて、新たな塗装技術による削減対策などの情報提供に努めて頂きたい。一方、昨年の「パリ協定」の採択を踏まえ、政府は温室効果ガスの排出量を 2030 年までに 13 年度比で 26%減らすという国際公約を掲げました。日本の省エネ技術や生産効率は世界最高水準にありますが、更なる技術革新による排出量の削減が求められてくるものと思われまます。

CEMA の 21 世紀ビジョンでも、塗装技術を追求し、「作業環境の改善と地球環境の保全に尽力」していくという理念が掲げられています。今後は VOC 排出抑制への取り組みに加え、省力化や省エネ技術の高度化に向けての取り組みや排出量取引制度の活用などを推進していくことで、温室効果ガスの削減にも寄与して頂きたい。その事が、塗装業界の信用と信頼の拡大、ひいては健全な発展につながるものと思われまます。会員企業各社におかれましても、省力化機器や省エネ機器などの付加価値の高い製品開発を進めていくことで、国際競争力の向上に結びついてくるはずで。さらに、人工知能やセンサー技術を活用することで、塗装機器にイノベーションを起こし、少子高齢化に伴う人手不足や安全対策にも努めて頂くことを期待しています。

将来への提言
CEMA40周年にあたって

副会長
甘利昌彦



CEMA40周年にあたり、心よりお慶びを申し上げます。これまで歴代会長をはじめ、事務局および会員各位のご努力によってCEMAが発展してきたことに対して、会員の一員として深甚の敬意と感謝を表します。この節目を新たなスタートとしてさらに発展されることを祈念いたします。

さて、本テーマ「CEMAの未来」につきましては、これからCEMAを盛り立てながら、業界に貢献していく役割を担う、弊社取締役事業部長、服部修一より下記のような力強い提言がありましたので、無作法ではありますがご紹介させていただき、今後のご批判に供したいと存じます。

直近の10年間の経済動向を顧みますと、私共はリーマンショック、グローバル化、アベノミクス等と大きな経済的変化を経験しました。この間、会員各社は顧客の生産性向上、VOC削減、コスト削減に愚直に取り組み、更に新たな会議体等を発足させ、行政、学術、異業種をも巻き込み業界の発展に寄与してきました。その様な中で「CEMAの未来」について一言で申し上げますと、原点である「顧客の利益を創出する情報を提供し続け、会員各社の利益につなげる」ことにあると思います。これからの外部環境は継続的に変化していきます。その変化を先取りして、僭越とは思いますが以下に提案します。

1. 塗装技術の高度化とIoT化を推進
素材と塗装機器・設備・塗装ソフトをシステム化するために、まずは国内外の塗料メーカー、素材メーカーとの交流を深め、塗料・塗装システムの規格化、統一化を図る
2. 魅力的な職場環境の創成
塗装作業のリスクアセスメントを発信し、当工業界が塗装現場を魅力的な働きやすい職場に変えるリーダーシップを担う
3. 情報の公開と共有
技術情報を広く公開し、シンポジウム・関連技術情報（技術誌含む）等、最新情報の提供を継続する

その他色々なアプローチはあると思われませんが、日本発の塗装に関する総合技術の革新とも言える、グローバルスタンダードを創出し、世界の塗装技術を牽引できる工業会を築くことが当工業会の未来創造に繋がるものと確信します。これまで会員各社が培ってきた取り組みを更に発展させ、50周年、60周年に向けて一層の飛躍ができるよう祈念申し上げます。

将来への提言
40周年に際し未来への提言

副会長
浮田二郎丸



当社が、この日本塗装機械工業会（CEMA）にパーカーエンジニアリング株式会社の名称で加入してからはや30年が経ちましたが、CEMA本体は今年で40周年を迎えるという老舗の団体です。CEMAは本日に至るまで順調に成長を続け会員数も賛助会員・ネット会員を含むと、66社を超えるという大きな団体になりました。これも、偏に、諸先輩方、また木下会長、平野専務理事を筆頭にした各組織の皆様方のご尽力の賜物と思えます。

塗装という業態は、何時の時代にも意匠性・機能性が求められる限り永遠に必要なものであり、表面処理とともにこれからも形態をかえながらも発展していくでしょう。CEMAは、塗装機器、塗装設備さらには塗料に関わる会社が集合した組織ですので、CEMAの活動及びここで決定された事項は塗装業界全体に広くかつ大きな影響を及ぼすことと思います。今後も皆様とともに塗装業界全体が更なる発展を続けられる様に切磋琢磨していきたいと願っております。

塗装業界を発展させるには、VOC削減、CO₂の削減、その他環境問題への対応など問題が山積みです。CEMAではこれまでVOC削減を初めとした環境問題に関して積極的に取り組みその活動は高い評価を受けておりますが、これからも皆様と協力しながらこの様な動きを加速化させ、問題を一つずつ解決していく事が大事であると思えます。

今後とも、CEMAへのご協力の程よろしくお願い致します。

将来への提言
今までの歩みと将来への展望

副会長
壺田 貴弘



CEMA：日本塗装機械工業会は1976年8月24日に日本国内の塗装機械メーカーの代表者が発起人となり、正会17社と賛助会員2社の19社にて、塗装機械の普及と向上及び塗装業界の健全な発展を目的として設立された。設立当初より参画し、業界発展に幾らかでも寄与できたのではないかと自負する。

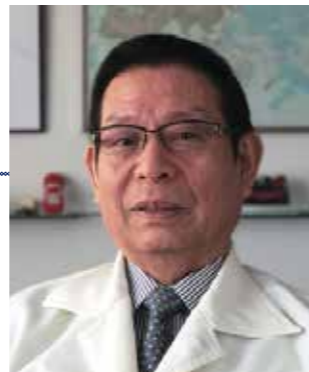
CEMA 設立来40年間の経済環境は、記憶に新しいところでは、90年代のバブル崩壊、地球環境保護視点からの環境・電力等の規制強化、そして21世紀になってからはリーマンショックや東日本大震災等の激変が続いた。このように激しく変化する経済環境の中、塗装業界においても、VOC規制、リーマンショック、グローバル化、デフレ経済、アベノミクスと激動の時代を経験し現在に至っている。

CEMAの21世紀ビジョンである、「塗装技術を通じて新しい価値を創造し、その活動をグローバルに展開」、「塗装技術を追求し、作業環境の改善と地球環境の保全に尽力」、「相互の信頼関係を深め、共生と共栄を自らの手で切り拓く」、を通じて、未来が展望できる質的向上を目指す工業会として、また、共生の途を志向し社会に貢献する工業会として、CEMAの存在価値・存在意識を高め、会員がCEMAの場を最大限に活用し、ネットワークの構築・知識・意見の交換・知見の深化を図りながら、塗装に関係する諸団体と協働して、幅広い活動を展開できるよう、今後のCEMA活動に期待したい。

そのために、機器部会・設備部会・技術部会をはじめとする各部会での活発な活動や、継続した出荷統計の公表、更には、技術シンポジウムによる情報提供や、ホームページの充実などが重要であり、微力ながら継続して寄与できれば幸に思う。

将来への提言
CEMAの未来

顧問理事
佐々木 栄治



2000年6月に初の選挙制を経て会長職を仰せつかった当時、世間ではアナログ時代でホームページもまだ普及し始めた頃でした。今では一般化したホームページ創設を始め出荷統計の電子化や、総会における資料のCD-ROM化など、あらゆる情報をアナログからデジタル化へと改革に取り組みました。会員の反対意見もあり苦戦をしましたが粘り強い説得で会員企業の賛同を得て成し遂げることができました。今日においては、ホームページもブラシアップされ、情報量も多く、開かれたより良いホームページになり沢山のヒット数を生み出しています。20年経過し木下会長の元、会員数も大幅に増え新しい時代に向け着実に発展を遂げられ、CEMA40周年を迎える事ができ大変うれしく思っています。

私は工業会運営の難しさを経験し、今でも「工業会の存在価値」について自問自答しています。そんな中「CEMAの存在価値」をどう高めて行くか、取り巻く環境もグローバル化し会員数も倍増した今日、どの様に運営して行くか、難しい課題だと思っています。当時から改革を望む声は多く、出口のないトンネルを歩くようなもので、永遠に続くテーマです。時代は急速に変化を遂げ消費マインドは移り気、企業は合併再編の道を繰り返し、生産現場は国外へとシフト。そんな時代の中、塗装機械工業会の立ち位置と方向性を掴みきれないでいたのも事実かもしれません。

塗装機械はどうあるべきか、どのような時代を作るべきか、産業を守るべきビジョンを描ききれないでいた昨今、工業会としての軸足を『CEMA21世紀ビジョン』の中に網羅されていました。このビジョンに沿って会員の総意工夫により進んで行って頂きたいと思えます。

またさらに、各部会の高度な知見により会員企業から世界に誇れる新製品が生まれる事が、ユーザーにとってもまた業界にとっても重要な事だと思っています。そして、塗膜、表面処理に携わる多くのユーザーへのアプローチを見据え、各位に目を向けた工業会運営を進めて行くことが重要かと思えます。

既存に囚われない自由な発想の元で、日本初の新たな産業を生み出すコアな技術発信基地となり、ものづくり産業文化を支えていただく。そんな羅針盤を築き上げていただきたいと思います。

微力ながら今後も業界発展の為に貢献できるよう努力して行きたいと思っています。

将来への提言
CEMA40周年を迎えて

顧問理事
里見 多一



子曰わく、吾十有五にして学に志す、三十にして立つ、四十にして惑わず、五十にして天命を知る、以下略。論語512の教えの中でも、最も知られた言葉である。CEMAも不惑の年を迎えた。不惑とは考え方、行くべき方向に迷いが無いことである。4年前を振り返ってみたい。我が国経済が混迷を深める中、如何にCEMAを発展させ、設立趣意である塗装機械、塗装設備の普及と技術向上、塗装業界の健全な発展に寄与すべきか、前任会長として迷々(まよまよ)したものだった。

さて、その後の四年間に何が起こったのだろう。政権交代があり、円高から円安に為替は反転した。デフレ脱却感には未だ乏しさが残るが、爆買いなる新語が生まれ、訪日客も年間二千万人に迫らんとしている。今や地方都市のビジネスホテルでも予約をとるのが難しくなる程、宿泊設備が逼迫しホテル規制も緩和の兆しが見えている。更には東京五輪に向け首都圏を中心に、何処も建設ラッシュで人と資材が不足し建築費が高騰している。

CEMAにも大きな変化があったのではないだろうか。HP上には会長発信と云う頁が設けられており、様々な場での会長発言が紹介されている。ここでの紹介は割愛させて頂くが、賛助会員を募った結果、会員数が激増した。HPを拡充し、会員企業からの新技術を紹介する場も増えた。IPCOの発足では主導的立場で貢献した。それ等に呼応するように会の財政基盤も安定化の方向に向かい、今まで以上に活動原資も確保されつつある。目覚ましい進化を遂げたと賞賛したい。

そして不惑の年を迎えた今、10年先の天命に向けCEMA会員は此れまで以上にお客様と向き合い、CEMAの存在意義を更に高いものにしなければならぬ。本総会にて新会長が誕生予定であるが、次世代を担う人材を育て支え、これからの10年を託すことも忘れてはならないと考える。

将来への提言
CEMAを中心につなげる未来

理事
内山 貴識



CEMA40周年にあたり、心よりお慶び申し上げます。当工業会を発足以来支えご尽力いただきました各会員様、歴代会長、理事の皆さまのたゆまない努力により、時代に合わせた形の大きな進歩を遂げてきた歴史ある工業会がこの日本塗装機械工業会であると思えます。

当工業会が日本の塗装業界で今までもトップランナーであったように、これからもこの業界の先陣を切っていく柔軟な発想ができる工業会であるためには、塗装機械という枠にとらわれずに他団体との交流を深めるとともに、既存の塗装システムにこだわらず他業種からの技術を積極的に取り入れ塗装の固定観念を打ち破っていくことが必要であると考え、木下会長の下で発足したもの作り懇談会を他団体との交流窓口として今日まで進めてまいりました。『ものづくり』という非常に大まかで各部会とは性質の異なる枠組みの中、他団体との交流窓口である役割を担う中で見えてきたことは、如何に技術的にこの業界が閉鎖的であるかということです。国際工業塗装高度化推進会議(IPCO)に当会も参加支援を行い、様々な業態の技術を取り入れ、また実証試験や現場での地道な取り組みを行ってきた結果、塗装技術における様々な課題も露呈をしてみました。と同時に、我々にはない素晴らしい日本の技術がまだまだ埋もれているのだなということも分かり、これを取り入れることで世界に発信できる素晴らしい塗装技術の確立を目指し、また、当会会員企業の皆様方に情報発信していきたいと考えております。様々な技術革新が進む中、塗装が将来も生き残っていくためには、より環境と安全に配慮した技術に生まれ変わらなくてはなりません。それは塗装機械、塗装システムという業界の中に閉じこもっているだけでは限界があり、他業種とのイノベーションが不可欠であります。

50周年に向かって幅広く技術を得るため、もの作り懇談会を通じた他団体とのより深い交流、IPCOへのさらなる積極参加を進めてまいります。また、CEMA会員企業の持つ素晴らしいテクノロジーの数々をより多くの関連企業、それも国内にとどまらず世界にアピールしていく場として活用できるよう、もの作り懇談会をより充実させるために今後も努力、工夫を微力ながら重ねていきたいと考え、次の50周年にスタートを切りたいと決意を新たにしているところです。

将来への提言

理事（監事）

多田 洋一



日本塗装機械工業会の40周年に心よりお祝い申し上げます。また役員の方々、事務局の皆さまの一方ならぬ熱意とご努力のたまものと、CEMAの一員として心から敬意を表する次第です。

今日まで、工業塗装の歩みは薬液、塗料、塗装機器、各種設備・装置など各メーカーの協調によって、ユーザーの期待に添うよう、様々な技術開発が行われてきました。今後、技術的に熟成したこの業界において、革新的な技術を生み出すのは容易なことではないと思います。しかし、一企業では難しいことでも、このCEMAを通じ会員間のみならず協力団体、協賛団体も含め連携を密にし、それぞれの会員企業の得意とする分野のアイデア、技術、資本とを結び付け「新しい技術を生み出す」、「既存の技術を進化させる」、この架け橋としての役割も重要かつ、必要になってくると思います。

現在、継続的な活動を続けている技術部会、機器部会、設備部会や技術シンポジウム等の情報発信などは既に、CEMA内外の交流や連携が、その活動の中で培われています。これらの更なる、活動の充実と発展がCEMAの新たな役割を形づくっていくものと信じております。

私としても、未来のCEMAに向けて微力ながら貢献できる様、努力していきたいと思っております。

将来への提言

理事

廣田 貢



日本塗装機械工業会 CEMA (Coating Equipment Manufacturers Association) の役割を考える時、当社として何ができたのか？何を協力して来られたのか？40周年の節目に考えてみる事といたしました。

塗装技術の発展、向上のために弊社は内向な施策に重視したため業界全体にまで気配りできなかったと反省しております。CEMAでの情報交換は大変参考になり、良い判断基準に成ったと確信しています。

CEMAの発展のために我々は何を成すべきか？

第一に各社の協力を得る事、第二に「地球環境を念頭に」を主題にVOC排出抑制を推進、CO₂削減の積極的な取り組み強化に力を注ぐ必要があります。

顧客から見たCEMAの使命とは？

私たちは塗装機器の製造販売をしている会社の集まりです、作業環境の改善、生産性の向上、品質向上の追求、コストダウン等々を「工業塗装」一文字のBUSINESSではなく、顧客にとってCEMAは得なもの、便利なもの、加えて必要なものとして位置付けられる事が大切と感じています。CEMAとして塗装に関する企業全般を対象に情報提供し、技術指導できる仕組みの構築を目指し業界全般の発展に繋がる活動を行う事と考えております。

将来への提言 CEMAの未来に期待する

専務理事

平野 克己



CEMAも生まれて40歳の「不惑」の年となり、いよいよ活躍する段階になったと言えます。

当方は1999年に運営企画委員長の任を受け、2004年には新設の役職である「専務理事」を与えられ、累計では17年間、CEMAの運営に関わってきた。この間、デフレ経済、リーマンショック、アベノミクスと激動する社会情勢に工業会としてどう対応するかの課題に直面してきたが、会員各位の協力の下で現在に至ることができた。また、三代目甘利会長、以下佐々木、小林、里見、そして現在の木下会長に至るまで、全てリーダーシップを持った会長に恵まれたのも幸運であった。

日本では、あらゆる産業において工業会などの業界団体が存在するのは既成の事実であり、数千以上の業界団体があるが、「工業会とはかくあるべき」との問いに共通の正確な答えはなく、それぞれの団体で模索して納得しているのが実情である。CEMAにおいても同様で、17年間、全ての理事会、運営企画委員会において議論されてきたが、相変わらず現時点でも議論の対象となり永遠の課題ともいえる。言い換えれば、立場が変わる者同士が集まり、多様性を認め合う団体ということができる。これまで多くの他の工業会と接触してきたが、同じ悩みを持ちそれぞれの道を模索しながら活動している。会員会社の立場から言えば、会員のメリットは何か、ということになる。それぞれの会社でそれが説明できない場合は退会ということになる。参加活動する個人にとっても本業とCEMA活動の両立は常に負担要因となっている。CEMAとして、これらの会員会社の期待に応えていく責任があるが、価値観の異なる全ての会員に対して最大公約数の解で応えるしかない。

業界団体としての役割は多々あるが、大きく括ると、「利権、利益」と「社会貢献、社会責任」に大別される。「利権、利益」は業界団体として行政との関係補助金や協定などが目的となり法人化の方向となり、「社会貢献、社会責任」では、環境活動、技術情報発信など直接の利益から離れた活動団体となる。CEMAは幸い大型公共事業など行政との関わりが少なく、「社会貢献」の方に軸足を置くことができ易い環境にあった。CEMAの活動の基本方針である「21世紀ビジョン」「新中期計画」もこの方向で定められてきた。当方も17年間、実務責任者としては、この基本方針に従い、技術、環境問題対応を中心とした活動を活発化し、毎年の技術シンポジウム、ホームページ上の技術情報発信などに努めてきた。また「徳は孤ならず必ず隣有り」の言に従い、CEMA単独でなく、関係団体との情報交換を深め、協同活動に取り組み、これまで、(一社)日本塗料工業会、日本工業塗装組合連合会、日本パウダーコーティング協同組合と出版、セミナーなどの成果を残してきた。今後はさらに関係団体とのネットワークを視野に入れ、幅広い業界発展への取り組みが計画されている。CEMAも40歳の一人前の大人に成長した今、グローバルな視点で22世紀を見据えた大所高所からの方向性が、会員同士の議論、切磋琢磨により築かれんことを期待したい。

CEMA 10年の活動（30周年から40周年まで）

この10年は、塗装業界においては、VOC規制、リーマンショック、グローバル化、デフレ経済、アベノミクスと激動の時代を経験したが、会員が30社から66社と更に発展し、産業界において信用と信頼を拡大することができた。

1. VOC 排出抑制への取組み

2006年に大気汚染防止法が施行となり、最大のVOC排出業界である塗装業界の責任は重大で、CEMAとして積極的に行政、業界への取組みに協力した。具体的には、行政セミナーへの講師派遣、ホームページ、シンポジウムでの情報提供などを行ってきた。

2. IPCO（国際工業塗装高度化推進会議）の発足および支援

塗装に関わる関係者を総合的に集約するために、2007年に工業塗装高度化協議会の発足に協力した。現在 IPCO として発展している。

3. 技術シンポジウムによる情報提供

1998年に第1回の技術シンポジウムを開催し、塗装の最新、最先端技術情報を提供してきたが、2006年から毎年1回開催し、海外技術情報の特別シンポジウムも英語、中国語の同時通訳システムにより提供するなど幅広い観点から実施している。現在は、東西サテライト方式で地方発信にも努めてきた。

4. ASTEC（先端表面技術展）への出展

塗装技術のグローバルな展開活動の一環として、2013年度よりASTECに出展を開始した。海外も含めて5万人近い来場者へ、CEMAの持っている技術を紹介するとともに塗装の素晴らしさを訴えている。

5. 出版活動

2007年に「静電粉体塗装の安全対策」を出版し、40周年を記念して「塗装用語事典」を2016年6月に刊行した。

6. CEMA 体制の充実

6.1 事務局の充実

2014年度より、業界紙大手の塗料報知新聞社に委託した。

6.2 ホームページの充実

2001年に開設したホームページを2013年に会員の協賛金により大幅に改革し、コンテンツを充実するとともに、会の運営機能の役割を果たしている。

6.3 交流会の開催

会員の親睦と情報交換のため、毎年一度の交流会を京都、横浜、栃木など場所を変えて実施してきた。

6.4 部会活動の充実

従来の三部会に加えて、2012年よりAutomotive協議会、もの作り懇談会を発足させた。



シンポジウム

第1回シンポジウム 『ユーザーから見た塗装課題の解決に挑戦』



1997.3.5 Wed./6 Thu.
会場：インテックス大阪国際会議場

両日に亘って、設立20周年記念「技術シンポジウム」をインテックス大阪国際会議場で開催した。2日間で454名と言う多くの参加者で会場は活気に満ちたものとなった。この成功を契機にCEMAの使命として、技術情報の発信を継続的に実行していく気運となった。

プログラム	会場風景	併設展示会
	3月5日 水曜日	3月6日 木曜日
11:00～11:10	ご挨拶	日本塗装機械工業会 会長 甘利 祐三
11:10～12:00	基調講演Ⅰ「環境保全のための塗料の役割」	(株)日本塗料工業会 常務理事 増田 利平
13:00～13:45	多色対応型静電粉末システムとその実用例	日本パーカライジング(株)
13:45～14:30	「スチールデスクの電着・粉体塗装ラインとコンピュータ管理システム」	コクヨ(株) < アネスト岩田(株)推薦 >
14:30～15:15	「低価格色替ブースとトリポディスク」	ノードソン(株)
15:30～16:15	「溶剤、電着、粉体と1/4世紀を塗装に携わったの今日」	松下電器産業(株) < 松尾産業(株)推薦 >

プログラム	会場風景	併設展示会
	3月5日 水曜日	3月6日 木曜日
10:30～11:15	「ブース内気流解析とその実用例」	トリニティ工業(株)
11:15～12:00	「塗料スラッジの連続回収システム」	パーカーエンジニアリング(株)
13:00～14:00	基調講演Ⅱ「臭気問題とその対策」	(株)臭気対策研究協会 専務理事 石黒 辰吉
14:00～14:45	「水性塗装の現状と展望」	日本ペイントプラント・エンジニアリング(株)
15:00～15:45	「環境 ISO14001 認証取得に対するわが社の取り組み」	リンナイ(株) < タクボエンジニアリング(株)推薦 >
15:45～16:45	塗着効率向上を目指して「低圧スプレーにおける高塗着霧化技術」「エアー静電における塗着効率向上と高品位塗装」	アネスト岩田(株) 旭サナック(株)

第2回シンポジウム 『塗装の環境を考える』



1999.5.27 Thu./28 Fri.
会場：東京ビッグサイト・東京ファッションビル

甘利会長は「当工業会20周年を契機として制定した地球環境の保全をテーマとしたこと、技術シンポジウムの開催に踏み切ったことはCEMAの活力を示すのみならず、関係業界の活性化に少なからず貢献するものと自負するところであります」と述べ、CEMA21世紀ビジョンと中期計画の実行の一環であることを強調された。

プログラム	会場風景	併設展示会
	5月27日 木曜日	5月28日 金曜日
10:30～10:40	ご挨拶	日本塗装機械工業会 会長 甘利 祐三
10:40～11:25	「最新の粉体塗装システム」	日本パーカライジング(株) アイオニクス事業部
11:25～12:10	「回転静電によるドラム在塗装の品質向上と環境・作業改善」	日罐ドラム(株) ドラム事業部 < アネスト岩田(株)推薦 >
13:20～14:20	基調講演Ⅰ「地球環境問題への取り組み動向と課題」	関西ペイント(株) 品質・環境本部長 橋本 定明
14:20～15:05	「塗装ブース用空調新技術」	トリニティ工業(株) 自動車塗装プラント事業部
15:15～16:00	「我が国の環境設備・機器」	(株)大気社 環境システム事業室
16:00～16:45	「粉体塗装システム」	松下電器産業(株) ガスシステム事業部 < 松尾産業(株)推薦 >

プログラム	会場風景	併設展示会
	5月27日 木曜日	5月28日 金曜日
10:30～10:40	ご挨拶	日本塗装機械工業会 副会長 岩田 一也
10:40～11:25	「環境保全と化成処理の課題」	日本パーカライジング(株) 品質保証部
11:25～12:10	「我が国の環境への取り組み」	三洋電機(株) 自販機事業部 < ノードソン(株)推薦 >
13:20～14:20	基調講演Ⅱ「環境時代に生きる」	クラリアンジャパン(株) シニアマネージャー 尾添 寛
14:20～15:05	「環境問題に係わる塗料・塗装に関する新技術」	関西ペイント(株) 塗装技術研究所
15:15～16:00	「微粉体塗料と塗装システム」	日本ペイント(株) PD 事業部
16:00～16:45	「ホンダの環境への取り組み」	本田技研工業(株) 四輪生産企画室 < 旭サナック(株)推薦 >

第3回シンポジウム 『地球環境に対応する塗装技術』



2001.5.23 Wed./24 Thu.
会場：日本ペイント株式会社 東京センタービル

佐々木会長になって初めてのシンポジウムとして、会場を日本ペイントの東京センタービルをお借りすることになった。会場の発表設備、聴講雰囲気とも素晴らしく、また品川の地の利もあり、予定聴講者数をはるかにオーバーして制限する事態となった。テーマも「ISO14001の認証取得」を中心とした環境問題で時流に合ったこともあり、自動車、弱電を始めとして幅広い業界からの講演を頂けた。

プログラム	会場風景	併設展示会
	5月23日 水曜日	5月24日 木曜日
10:00～10:10	ご挨拶	日本塗装機械工業会 会長 佐々木 栄治
10:10～10:50	21世紀の水系静電塗装	ランズバーグ・インダストリー(株)
10:50～11:30	粉体・水性複合塗装による環境対応、多色対応	コクヨ(株)
11:30～12:10	多色水性リサイクルシステム	日東工業(株)
13:10～13:50	基調講演「塗料の環境対応(LCAとPRTR)」	日本ペイント(株)
13:50～14:30	研究発表「ISO14001を見据えた塗料革新」	塗料・塗装機械協議会
14:30～15:10	自動車水性塗料技術の最新動向	日本油脂 BASF(株)
15:20～16:00	環境対応の樹脂塗装システム	ムトー精工(株)
16:40～17:00	特殊スプレーガンによる塗料使用量の低減	ファミコ(株)

プログラム	会場風景	併設展示会
	5月23日 水曜日	5月24日 木曜日
10:00～10:10	ご挨拶	日本塗装機械工業会 副会長 里見多一
10:10～11:00	CSE方式によるクリアー粉体塗装システム	日本パーカライジング(株)
11:00～11:50	自動車の水性塗装フラッシュオフ	(株)大気社
12:50～13:40	基調講演「産業廃棄物の廃液等のリサイクル」	(株)サニックス
13:40～14:20	無排水無溶剤の塗装工場	江戸崎共栄(株)
14:20～15:00	塗装工場での環境対策実施例	大日本電装(株)
15:10～15:50	微生物による塗料スラッジ処理システム	(株)小松製作所
15:50～16:30	塗装のデジタル化	日本ペイント(株)

第4回シンポジウム 生き残りをかける塗装技術 Part1 『生き残りをかける塗装技術』

2003.6.26 Thu./27 Fri. 会場：日本ペイント株式会社 東京センタービル



この年は日本経済が低迷から脱却できず、厳しいリストラに直面し特に設備、塗装業界は生き残りをかけるのに必死の状態であった。国内の塗装業として生き残りをかけて創意工夫されている数社、製造メーカーとして合理化、コストダウンへ挑戦している数社の事例等、シンポジウムならではの現実感溢れる内容であった。

プログラム	受付の様子	会場風景
	6月26日 木曜日	6月27日 金曜日
10:00～11:00	粉体塗装技術に応用した粉末冶金成形技術	JFEスチール株式会社 尾崎 由紀子
11:00～12:00	筐体塗装ラインの生産能力向上と環境負荷軽減	長崎電機テクニカ株式会社 島崎 達也
13:00～14:30	中国における塗装ビジネスの現状	インターコンチネンタル連合会長 ジェンセン (南京) テクノロジカルエンジニアリングカンパニー会長 Mr.Robert E.Chiu
14:30～15:30	情報家電と粉体塗装	日本ペイント株式会社 川辺 統也
15:30～16:30	最近の二液塗装機について	旭サナック株式会社 林 信之
16:30～17:30	新乾燥方式による塗装の合理化	株式会社桂精機製作所 赤松 賢一

プログラム	受付の様子	会場風景
	6月26日 木曜日	6月27日 金曜日
10:00～11:00	利益創出の企業システムづくり	株式会社トップ 高橋 正
11:00～12:00	3ウェットオン塗装システム	マツダ株式会社 小笠原 敏文
13:00～14:30	最新の水性塗装技術	日本塗装機械工業会 ランズバーグ・インダストリー(株) ノードソン株式会社
14:30～15:30	工業塗装での課題と対策	日本工業塗装協同組合連合会 株式会社岡田塗装所 岡田 勇司
15:30～16:30	スピンドル塗装における塗料削減方法	日本パーカライジング株式会社 森田 忠夫
16:30～17:30	小物ワークの塗料を大幅に削減する新塗装方法	アネスト岩田株式会社 白岩 充弘

第5回シンポジウム 生き残りをかける塗装技術 Part2 『VOC規制とその対策』

2004.11.25 Thu. 会場：日本ペイント株式会社 東京センタービル



生き残りをかける塗装技術の第2弾として、VOCの法規制が進められる中での「対策」のシンポジウムとして申込者が殺到した。CEMAとして具体的な設備対策、塗料転換対策の情報を提供した。今回は法規制の関係で経済産業省の福原係長に基調講演をお願いした。

プログラム	基調講演の様子	会場風景
	10:10～10:30	10:30～11:30
ご挨拶	VOC規制の動向	経済産業省製造産業局化学課 福原 課長補佐
研究発表	VOC規制の大胆予測と対策のシミュレーション	日本塗装機械工業会 技術部会
11:30～12:00	テーマ別技術セッション 1.最新塗装システム技術によるVOC対策	最新ロボットシステムによる塗装技術 タクボエンジニアリング株式会社
13:00～15:00	テーマ別技術セッション 2.粉体塗装化の決め手となる塗装機器の新技術と事例紹介	ランズバーグ・インダストリー株式会社 アネスト岩田株式会社 日本パーカライジング株式会社 ノードソン株式会社
15:15～16:15	テーマ別技術セッション 3.水性塗料導入の課題に挑戦する塗装機器の新技術	アネスト岩田株式会社 旭サナック株式会社
16:15～16:45	テーマ別技術セッション 4.「VOC処理装置」の実用的な方式、装置の紹介	株式会社桂精機製作所

第6回シンポジウム 生き残りをかける塗装技術 Part3 『よくわかるVOC規制と取り組み』

2005.7.8 Fri. 会場：日本ペイント株式会社 東京センタービル



第4回以来、「生き残りをかける塗装技術」の第3弾として、大気汚染防止法が改正された直後にVOC規制へどう対処するかを、経済産業省、東京都環境局などを交えて、パネルディスカッションを取り入れ聴講者を交えて真剣に討議した。塗料・塗装業界の直面する課題のテーマであり、満員の聴講者はもとよりホームページに掲載した講演内容も好評を博した。

プログラム	熱心に質問する受講者	パネラーとの討論の様子
	10:00～10:30	10:30～12:00
ご挨拶	VOC削減の動向と業界への期待	経済産業省製造産業局化学課
研究発表	VOC法規制の具体的な影響と自主取組の概要	今回の法規制の対象となる塗装ブース、乾燥炉の業界別対応の実情の紹介と規制対象外の対応の概要をリアルタイムに即して発表
13:00～14:40	事例発表	現状VOC削減に取り組み成果を残している塗装ラインでの各種ノウハウの紹介
14:50～16:45	パネルディスカッション	VOC削減への自主取組みとは

"VOC削減は法規制1割、自主規制2割と自主規制に重点が置かれた法により実施に移るがその具体的な方法などは全く白紙の状態であり、業界からはその方向性、指針などが強く望まれている。ここで、VOCの先端を担う各分野の専門家による徹底討論により具体的な提案を行う。" パネラー：行政代表(東京都)、塗料メーカー代表、塗装設備メーカー代表、塗装ライン担当代表

第7回シンポジウム

世界をリードする塗装技術 Part1 『世界の最新塗装技術情報（自動車・工業塗装）』



Kenneth Kreeger 氏

Helmut Gohl. 氏

2006.10.27 Fri.

会場：日本ペイント株式会社 東京センタービル
第7回シンポジウムは今回から「世界をリードする塗装技術」の第一弾として、世界のトップ技術情報を紹介した。米国、ドイツ、日本、中国の講師により、3ヶ国語（英語、中国語、日本語）の同時通訳システムを導入しての初めてのシンポジウムとなった。終了後に交流会にて情報交換を図った。日本ペイント東京事業所での5回目の開催となった。

プログラム

第一部 世界の粉体を中心とした最新塗装情報		
10:00 ~ 11:20	米国の粉体塗装の実情ならびに最新の塗装技術	米国 PCI (Powder Coating Institute) Secretary Mr. Kenneth Kreeger
11:20 ~ 12:40	日本、欧州の粉体塗装の実情と課題及び今後の展望	日本パウダーコーティング協同組合 藪田 雅巳 (日本ペイント)
13:20 ~ 14:20	欧州の環境対策を含めた塗装の最新情報	EISENMANN Maschinenbau (ドイツ) Mr. Helmut Gohl.
第二部 中国の自動車塗装情報		
14:20 ~ 15:40	中国自動車塗装市場の現状と今後の展望	中国自動車工程学会塗装専門委員会 副理事 陳 慕祖
15:50 ~ 17:10	中国自動車塗装生産ラインにおける新技術の応用と展開	中国自動車工程学会塗装専門委員会 副理事 周 杰

第8回シンポジウム

世界をリードする塗装技術 Part2 『成長著しい中国塗装業界の実情』



開会挨拶
(里見実行委員長)

中国、竺先生



中国、陳先生

中国、劉女士

2007.10.26 Fri.

会場：日本ペイント株式会社 東京センタービル
第8回シンポジウムは、成長著しい中国にスポットを当て、中国から3名の講師を招聘して同時通訳システムで開催し、多くの聴講者で賑わった。質問も活発で、終了後も名刺交換して情報交流が行われた。なお、前日には、メルパルク東京にて講師歓迎レセプションを開催し、6名の講師通訳を含めて30名で賑わった。



会場風景 (同時通訳にて)



名刺交換 (多くの聴講者が殺到)

プログラム

第一部 日本からの調査・進出による現地情報		
10:00 ~ 11:10	中国における省エネ・環境ビジネスの展望	みずほ総合研究所アジア調査部 主任研究員 酒向 浩二
11:10 ~ 12:20	中国での洗浄事業展開での課題と対応	日本産業洗浄協議会 企画委員長 北村 裕夫
第二部 中国の塗料・塗装の第一人者による最新情報		
13:20 ~ 14:30	急成長する中国の粉体塗料・塗装の現状と将来	中国化学工業会塗料塗装専門委員会 秘書長 劉 澤曦
14:30 ~ 15:40	中国工業塗装の現状と今後の展望	中国自動車工程学会塗装専門委員会 副理事 陳 慕祖
15:50 ~ 17:00	中国工業塗料の現状と将来	中国表面工程協会塗装分会 副理事長 竺 玉書

第9回シンポジウム

塗装と環境問題を考える Part1 『VOC削減の現状と対応』



勝亦政幸氏

松原出氏

2008.10.24 Fri.

会場：日本ペイント株式会社 東京センタービル
第9回シンポジウムは委員長が里見委員長から多田委員長に交代し、前回まで世界に視点を置いてのシリーズで代わるテーマを委員会で検討した。その結果、VOC削減という業界の命題に対応が不十分であり、塗装業界から情報を発信していくことにした。新たなシリーズテーマ「塗装と環境を考える」の第一弾として「VOC削減の現状と対応」として環境省の勝亦氏に基調講演をお願いするとともに、業界の多方面からVOC削減につながる技術情報を模索したシンポジウムとした。

プログラム

10:00 ~ 10:50	基調講演 VOC削減の現状と対策	環境省 水・大気環境局大気環境課排出基準係長 勝亦 政幸
10:50 ~ 11:50	一般講演 自動車塗装設備からのCO ₂ 排出量試算と削減技術	株式会社大気社 塗装システム事業部営業技術統括部 技術企画室長 松原 出
12:40 ~ 13:40	一般講演 塗装工程におけるVOC削減技術	日本塗装機械工業会技術部会長 島田 哲也
13:40 ~ 14:20	一般講演 高品質塗面形成自動ガンと塗料使用量削減について	アネスト岩田株式会社 塗装機部工業塗装技術グループ参事 森田 信義
14:20 ~ 15:00	一般講演 水性二液塗料混合の課題と対応技術	旭サナック株式会社 塗装機事業部 技術部二液担当マネージャー 林 信之
15:15 ~ 15:55	一般講演 めっきに替わる銀鏡塗装の現状と今後	三菱製紙株式会社 京都工場工場長付担当部長 近藤 敏郎
15:55 ~ 16:35	一般講演 VOC処理装置と廃熱利用	株式会社桂精機製作所 燃焼機事業部営業部東京燃焼機二課課長 辻 誠

第10回シンポジウム

塗装と環境問題を考える Part2 『環境負荷低減と塗装コスト削減の同時解決技術』



小林茂会長

西村三男氏

2009.10.23 Fri.

会場：日本ペイント株式会社 東京センタービル
昨年のVOCテーマが好評であったが、リーマンショックの影響もあり、単なる環境対策でなく、塗装コスト削減に結びつく対策でなければ企業としての対応が難しくなっていた。このため「環境負荷低減と塗装コスト削減の同時解決技術」をテーマとして、多方面からの講演を募り、環境省、独立行政法人、日本工塗連などから特徴のある情報が得られた。また、塗装の先端をいく自動車塗装の内外の技術情報も同時に発信できた。

プログラム

10:05 ~ 10:55	基調講演 2010年を前にしたVOC削減の現状と今後の見通し	環境省 水・大気環境局大気環境課排出基準係長 西村 三男
10:55 ~ 12:00	一般講演 VOC、CO ₂ の増加によって今、地球に何が起きているか?	独立行政法人 海洋研究開発機構地球シミュレーションセンター長 渡邊 國彦
12:40 ~ 13:40	一般講演 今すぐ出来るVOC削減、コスト削減の実例	日本工業塗料協同組合連合会 広瀬建蔵
13:40 ~ 14:20	一般講演 新開発シリンドラポンユニットを用いたロボット塗装システム	アネスト岩田株式会社 塗装機部工業塗装グループ 掛端 浩之
14:20 ~ 15:00	一般講演 モーターサイクル樹脂塗装における環境負荷低減とコスト削減	川崎重工業株式会社 汎用機 CSC 本部生産技術部 表面処理技術課 南 修介
15:15 ~ 16:05	一般講演 ボディ塗装ライン環境負荷低減・コスト削減の最前線と未来	いすゞ自動車株式会社 車両技術部塗装技術Gシニアスペシャリスト 田村 吉宣
16:05 ~ 16:55	一般講演 欧州における環境対応型最新自動車塗装システム	デュレル・ジャパン株式会社 代表取締役社長 片山 眞司

第 11 回シンポジウム

塗装と環境問題を考える Part3 『VOC 削減・CO₂ 削減の最新情報と最新技術』

2010.10.21 Thu.

会場：日本ペイント株式会社 東京センタービル

第 11 回シンポジウムは 2010 年に VOC 規制の削減量 30%が集計され見直しが予定される中で、塗装を取り巻く環境問題として CO₂ 問題がクローズアップされてきた。テーマを「VOC 削減・CO₂ 削減の最新情報と最新技術」として、塗装業界の先端技術を模索し、塗料、塗装方法など幅広い分野のエキスパートからの情報提供となった。基調講演を 2 年連続で環境省の西村氏にお願いした。



会場風景



会場風景

プログラム

10:00 ~ 10:05	開会の挨拶	日本塗装機械工業会会長 里見 多一
10:05 ~ 10:50	基調講演 2010 最終年度を迎えての VOC 削減の状況と今後の見直し	環境省 水・大気環境局大気環境課排出基準係長 西村 三男
10:50 ~ 11:20	一般講演 日本のものづくりと塗装産業	東京大学大学院 経済学研究科ものづくり経営研究センター特任助教 鈴木 信貴
11:20 ~ 12:10	一般講演 塗装ラインからの排水・産廃の負荷の実情と CO ₂ 削減対策	日本塗装機械工業会 技術部会 内山 貴識、国久 伸一
13:00 ~ 13:50	一般講演 適正なスプレー条件設定による塗料使用量削減について	東京都立産業技術研究センター 開発本部開発第一部デザイングループ長 木下 稔夫
13:50 ~ 14:30	一般講演 高品質塗面形成静電自動ガンによる高品質塗面形成と塗料使用量削減について	アネスト岩田株式会社 塗装機部塗装開発グループ 諸星 敦之
14:30 ~ 15:10	一般講演 水系塗装の現状と今後	ランスバーク・インダストリー株式会社 ランスバーク事業部技術グループシニアグループリーダー 斎藤 隆久
15:25 ~ 16:05	一般講演 高反射塗料（遮熱塗料）による環境改善	日本ペイント株式会社 工業用塗料事業本部 GIC 部 筒井 宏明
16:05 ~ 16:55	一般講演 CO ₂ 塗料・塗装システムによる VOC 削減について	加美電子工業株式会社 技術部顧問 雪下 勝三
16:55 ~ 17:00	閉会の挨拶	技術シンポジウム実行委員長 多田 洋一

第 12 回シンポジウム

最新の塗装と環境問題を考える Part1 『VOC・CO₂ 削減の最新技術』

2011.10.21 Fri.

会場：日本ペイント株式会社 東京センタービル

第 12 回シンポジウムは東日本大震災が発生し、産業界でも特に節電、省エネの取り組みを求められ、塗装業界でも最新情報が必要との思いで「最新の塗装と環境問題を考える」シリーズとした。塗装からの VOC・CO₂ の発生の寄与は大きく、多方面からアプローチした。環境省、独立行政法人海洋開発研究機構などから貴重な情報が得られるとともに実際に取り組まれている省エネの諸方法の紹介なども行った。



里見多一会長



会場となった日本ペイント 東京センタービル



会場風景



使用されたパンフレット

プログラム

10:00 ~ 10:05	開会の挨拶	日本塗装機械工業会会長 里見 多一
10:05 ~ 10:55	基調講演 2010 最終年度を過ぎて VOC 削減の結果と今後の方向性の検討	環境省 水・大気環境局大気環境課排出基準係長 村井 光輝
10:55 ~ 11:50	一般講演 VOC・CO ₂ 排出を続けると地球環境は 100 年後どうなるか	独立行政法人 海洋研究開発機構シミュレーションセンター長 渡邊 國彦
12:40 ~ 13:40	一般講演 ゴミ・ブツ不良削減技術と VOC・CO ₂ 削減効果	日本塗装機械工業会 技術部会 杉山 博英
13:40 ~ 14:20	一般講演 ロボットの最新情報と有効な使用方法	川崎重工株式会社 ロボットビジネスセンター自動車二部部長 秦 信一
14:20 ~ 15:00	一般講演 コンプレッサ塗装ラインの環境負荷削減事例紹介 ～ヒートポンプ・電磁誘導加熱の導入～	東芝キャリア株式会社 生産技術部主務 深澤 芳克
15:15 ~ 15:55	一般講演 ヒートポンプ原理を利用した熱総合利用システム	株式会社前川製作所 環境・エネルギーブロック産業グループ課長 米田 弘和
15:55 ~ 16:45	一般講演 自動車塗装ラインにおける VOC・CO ₂ 削減の最新事情	いすゞ自動車株式会社 塗装技術グループ シニアスペシャリスト 田村 吉宣
16:45 ~ 17:00	閉会の挨拶	技術シンポジウム実行委員長 多田 洋一

第13回シンポジウム

最新の塗装と環境問題を考える Part2 『塗装の明日を切り拓く最先端技術と最新情報』

2012.10.26 Fri.

会場：日本ペイント株式会社 東京センタービル

本年、「塗装」が基盤技術（サポイン）として認められ、塗装業界の技術革新のスタートを記念する年となった。これに呼応して経済産業局、東京都などの行政から塗装業界への期待を語ってもらい、実際にサポインに取り組む手法の紹介を行った。また、内外の最先端塗装技術、工業用塗料の紹介もあり、今後の工業塗装の技術革新の緒を飾った。今回から IPCO 関係者の講師を取り入れる構成となった。長年査読に携わって貢献された森田委員に代わり平野委員が査読した。また、今回から印刷物の「講演要旨集」を止め、CD にまとめて渡すこととしランズバーグ社の久間氏に協力を仰いだ。



矢野明子氏



菊地厚氏



佐藤澄氏



Ladislaus Weissenbacher 氏, Ullrich Moellmann 氏

プログラム

10:00 ~ 10:05	開会の挨拶	日本塗装機械工業会会長 木下 真生
10:05 ~ 10:35	特別講演 VOC 対策の現状と今後	東京都 化学物質対策課 VOC 対策担当 矢野 明子
10:35 ~ 11:05	特別講演 水質汚濁防止法の改正について	東京都水環境課 河川規制担当係長 菊地 厚
11:05 ~ 11:55	一般講演 加飾コーティングシステム	タクボエンジニアリング株式会社 上村 一之
12:40 ~ 13:10	一般講演 サポイン取得の意義と今後	関東経済産業局 地域振興課 佐藤 澄
13:10 ~ 13:40	一般講演 サポイン採択されて	有限会社久保井塗装工業所 窪井 要
13:40 ~ 14:25	一般講演 次世代ドライブースの開発	ABB 株式会社 片山 眞司
14:35 ~ 15:20	一般講演 最近の工業用塗料の動向と開発品の紹介	関西ペイント株式会社 長野 利昭
15:20 ~ 16:05	一般講演 環境負荷を低減させる新塗装システムの紹介	株式会社明治機械製作所 吉野 和彦
16:05 ~ 16:55	一般講演 欧米の塗装システム情報	デュル・ジャパン株式会社 服部 真文、Ladislaus Weissenbacher, Ullrich Moellmann
16:55 ~ 17:00	閉会の挨拶	シンポジウム実行委員長 多田 洋一

第14回シンポジウム

塗装産業の未来を見つめて Part1 『日本再生と成長のキーワード：塗装技術』

2013.10.25 Fri.

会場：東京駅前ビル 9F

過去5年間「環境」をテーマとしてきたが、アベノミクスによる産業活性化に対応すべく、「塗料産業の未来」のテーマとして、塗装関連、周辺を含めた観点からの講師を招聘した。また、長年使用会場とした日本ペイント東京事業所から外部の東京駅前に会場を移した。

さらに、「予稿集」のCDは各社の広告も含めたUSBとして渡す新しい企画を行った。当日は台風に直面し開催が危ぶまれたが、フランスからの講師が来れなかった点はあったが、無事行えた。



木下会長の挨拶



多田洋一氏



渡邊国彦氏



魚谷英未氏



徳田宏氏



窪井要氏



内山貴識氏

プログラム

10:00 ~ 10:05	開会の挨拶	日本塗装機械工業会会長 木下 真生
10:05 ~ 10:50	基調講演 地球変動予測シミュレーション	海洋技術開発機構 渡邊 國彦
10:50 ~ 11:40	一般講演 サポインによる塗装技術開発の現状 ■サポイン取得後の悪戦苦闘 ■補助金等の行政の各種支援方策	久保井塗装工業所 窪井 要 東京都立産業技術センター 木下 稔夫
12:30 ~ 13:30	一般講演 環境技術分科会での事例発表 ■前処理工程での排水のリサイクル化 ■新剥離装置による塗装ラインのクリーン化省エネ化	日本ワコン株式会社 魚谷 英未 東和酵素株式会社 内山 貴識
13:30 ~ 14:30	一般講演 最新塗料情報 ■東京スカイツリーに採用された塗装技術	大日本塗料株式会社 徳田 宏
14:45 ~ 15:35	一般講演 最新自動車塗装情報 ■新静電塗装等の自動車塗装情報	いすゞ自動車株式会社 田村 吉宣
15:35 ~ 16:35	一般講演 最新海外情報 ■ロボテック塗装等欧州最新情報	サメス Gilbert LOTITO, Sebastien SALZE, 丹野 栄一
16:35 ~ 16:40	閉会の挨拶	シンポジウム実行委員長 多田 洋一

第15回シンポジウム

塗装産業の未来を見つめて Part2 『新時代を切り拓く高機能塗装・塗料の最前線』

2014.10.23 Thu.
会場 東京：東京塗料会館
大阪：大阪塗料ビル

第15回シンポジウムは塗装産業発展の観点から、東京のみの開催でなく地方開催の必要性が提起され、検討の結果、東西の二元サテライト方式として、東京、大阪の塗料会館のシステムを利用することにした。講師は東京に集中したが、大阪も定員の40名をオーバーする50名の参加があった。内容も、塗装関連団体からの講演をお願いすることにし、幅広い情報が得られた。特に、IPCOから数社が最新技術情報を提供するなど塗装周辺技術が着目された。



大阪会場風景



東京会場風景



東京会場風景



望月徳三氏



坂井秀也氏



奴間伸茂氏



毛利昌康氏



岡本隆太氏

プログラム

10:00 ~ 10:05	開会の挨拶	日本塗装機械工業会会長 木下 真生
10:05 ~ 11:00	基調講演 特別協賛：日本塗料工業会（J PMA） 塗料・塗装産業の社会資本長寿命化への貢献	日本塗料工業会 奴間 伸茂
11:00 ~ 12:00	一般講演 インクジェット塗装の最前線	タクボエンジニアリング株式会社 佐々木 栄治、上村 一之
12:50 ~ 13:40	一般講演 特別協賛：日本パウダーコーティング協同組合（JAPCA） 新意匠粉体塗装『ジオメトリック・パウダー』	理想科学工業株式会社 三馬 秀利 株式会社カドワキカラーワークス 門脇 正樹 株式会社山王 高橋 大
13:40 ~ 14:30	一般講演 特別協賛：表面技術協会（S F J） 航空機部品の表面処理・塗装	旭金属工業株式会社 辻本 克也
14:40 ~ 16:10	一般講演 特別協賛：国際塗装会議（I P C O） 塗装の最新テクノロジー（3テーマ） ① 電着塗装シミュレーション技術 ② 浮遊粒子の可視化技術 ③ 自然に優しい洗浄技術	株式会社ディライト 毛利 昌康 新日本空調株式会社 岡本 隆太 東京ガスケミカル株式会社 望月 徳三
16:10 ~ 16:50	一般講演 特別協賛：日本工業塗装協同組合連合会（工塗連） 工業塗装の最前線	坂井技術事務所 坂井 秀也
16:50 ~ 16:55	閉会の挨拶	シンポジウム実行委員長 多田 洋一

第16回シンポジウム

塗装産業の未来を見つめて Part3 『湧き上がる塗装ワールドの技術革新』

2015.10.23 Fri.
会場 東京：東京塗料会館
大阪：大阪塗料ビル

前回の他団体主体の情報から、今回はCEMAからの発信を主眼とし、CEMA会員からの特別情報提供とした。各社のノウハウも絡んで、情報公開のハードルは高かったが、最終的にはCEMA5社からの最新技術情報が発信された。また、IPCOからも新技術情報が4件提供され全体として新情報の提供という目的は十分に果たされた。また、2回目となる東西二元方式も定着してきた。



上村一之氏



高橋大氏



斎藤隆久氏



会場風景



スライド

プログラム

10:00 ~ 10:05	開会の挨拶	日本塗装機械工業会会長 木下 真生
10:05 ~ 10:50	基調講演 サポイン取得とその成果について	有限会社久保井塗装工業所 窪井 要 株式会社明治機械製作所 吉野 和彦
10:50 ~ 11:30	一般講演 多軸ロボットとインクジェットによる加飾開発紹介	タクボエンジニアリング株式会社 上村 一之
11:30 ~ 12:10	一般講演 次世代化成処理剤導入に伴う設備的対応について	パーカーエンジニアリング株式会社 須田 洋之
13:00 ~ 14:30	一般講演 IPCO 最新技術情報 レーザーを利用した塗膜剥離技術 ラベルを活用した生産工程の管理 新しい模様塗料	東成エレクトロピーム株式会社 上野 邦香 株式会社サトー 白石 公郎 株式会社三王 高橋 大
14:45 ~ 15:25	一般講演 100%塗着効率を実現する塗布方法	アネスト岩田株式会社 佐藤 和昭
15:25 ~ 16:05	一般講演 生産効率向上を実現する自動塗装システム	旭サナック株式会社 渡邊 将行
16:05 ~ 16:45	一般講演 『工業塗装の未来展望』全自動塗装システム"Rans-Cosmos"の紹介	ランズバーク・インダストリー株式会社 斎藤 隆久
16:45 ~ 16:50	閉会の挨拶	シンポジウム実行委員長 多田 洋一

ASTEC

先端表面技術展・会議

CEMAの展示会参加の目的は『塗装産業への情報発信』であり、この10年間をみると別表のとおり展示実績となる。3回のSURTECH出展の後、それまでの塗装機器・設備中心だったCEMAから、さらに広く塗装関連産業全体に参加を呼び掛けCEMA会員増強を図りつつ、新会員の受け皿的機能を持つ『もの作り懇談会』を発足させ、さらなる情報発信の強化を目指した。

2014年 ASTEC

こうして具体化されたのが2014年1月のASTEC展示会への参加。協賛する会員会社および理工出版社の協力の下で塗装関連会社を一堂に集めたCEMA展示ブースで、その展示タイトルも『ようこそ、塗料・塗装ワールドへ』とし塗装産業全体を網羅する初めての展示となった。協賛会社ごとに各々が小ブースを出し各社の塗装関連技術を情報発信するほかにも、『塗装の技術相談コーナー』では技術部会を中心に様々な塗装の質問にお答えする場を設け、来場者にも有意義に活用される展示会場となった。



テープカット風景



動画上映



相談コーナー

<この10年間のCEMAの展示会参加の記録>

2007年2月	SURTECH (表面技術要素展)
2008年2月	SURTECH
2013年1月	SURTECH
2014年1月	ASTEC CEMAの協賛企業出展数：23社
2015年1月	ASTEC CEMAの協賛企業出展数：28社
2016年1月	ASTEC CEMA主催ブースに一本化：会員数65社

2015年 ASTEC

引き続き2015年1月には協賛企業も28社に増えた。また2007年に日本工業塗装協同組合連合会と日本塗装機械工業会（CEMA）により発足した工業塗装高度化協議会から、2013年にはさらに発展し新発足した国際工業塗装高度化推進会議（IPCO）とも共同開催する形となり、業界団体の枠組みを超えたネットワークをアピールする場となった。



2016年 ASTEC

2016年1月のASTEC展示は、過去2回が協賛会員各位が展示スペースを独自に準備するといった形態から、CEMA総意の『塗装に関する情報を発信する場』にしたいとの発想から、さらに増強された65社全体としてのCEMAが主体となった展示形態とした。具体的な工業塗装の様子をビデオで解説するコーナー、また塗装した実物サンプルの展示コーナー、また恒例の技術相談コーナーを用意し、また申年の着ぐるみをきたマスコットが来場者へのアピールを行うなど新企画盛りだくさんの展示会となった。



動画による塗装技術解説



着ぐるみ



対外活動の歴史

CEMA が対外活動を開始したのは設立 15 年目の 1990 年に日本塗料工業会と M&E 協議会をスタートさせたことに始まる。当時はバブルの最盛期で、品質を度外視した生産に、危機感を抱き、塗料、機械の両面から塗装を見直すことが目的で、環境対応などを焦点として出版活動などに取り組んだ。その後、塗装の課題解決には、塗料、機械のメーカーだけでは限界があり、塗装サイド、ユーザーサイドなど幅広いニーズを結集する必要に迫られ、三団体協議会、工業塗装高度化協議会、IPCO と活動を組織化して展開してきた。主な活動経緯と実績を年代別に示す。

- 2000 年 8 月「三団体協議会の発足」
当時 CEMA 事務局長であった紺野利夫氏（故人）の呼びかけで、塗装に関する日本塗装技術協会、日本工業塗装協同組合連合会（日本工塗連）と日本塗装機械工業会（CEMA）の三団体により「三団体懇親会」の発足に緒を為し、以後「三団体協議会」として定期的に団体長が集まり情報交換をしてきた。
- 2004 年 5 月「環境省への対応（VOC 対応）」
2004 年の大気汚染防止法が改正され、2005 年に施行とともに、環境省から塗装業界での VOC 削減の要請があり、日本工塗連、日本パウダー協、CEMA の三団体が受け皿となり、塗装セミナーを開始するとともに、協力体制を協議した。
- 2007 年 4 月「工業塗装高度化協議会の発足」
2006 年に日本工塗連の岡田勇司氏（故人）が CEMA に VOC 削減対策を共同で行いたい、指導をお願いしたいとの申し出があり、CEMA の技術部会に諮った結果、技術部会で対応することになり、塗料報知新聞社の有馬弘純氏の仲介で 2007 年 4 月に「工業塗装高度化協議会」（以下、協議会）が発足した。第 1 回の協議会は日本工塗連の事務局である岡田工業所で行ったが、以降は神楽坂の塗料報知新聞社の会議室をお借りして 2 ヶ月に 1 回の環境技術分科会を現在に至る 10 年間継続して行っている。



環境技術分科会



2007 年 4 月発足式

この環境技術分科会の分科会長は CEMA 側の島田技術部会長が、副会長には日本工塗連から窪井氏が就任し、活発に活動し、日本工塗連、CEMA から常時 10 名以上の参加があり以下のような実績を残した。

- VOC 削減活動
協議会発足時は VOC 削減が大きなテーマとして業界に課せられており、工業塗装を営む日本工塗連側の生き残りをかけた課題でもあった。このため、直ちに計画を立て、取り組むことにしたが、焦点を塗装現場での生きた活動として、実際の第一塗装工業の塗装現場をお借りして取り組んだ。

環境技術分科会 活動 2007 年 10 月～2009 年 12 回開催

分科会開催 活動項目	2007 年			2008 年			2009 年					
	10月	12月	3月	7月	10月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
VOC 削減テーマ検討	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
アンケート（工塗連企業）												
洗浄時の VOC 対策												
臭気・ブースの対策												
産廃の対策												
スラッジペレット化												
塗料の対策												
塗り方・機器の対策												

具体的なかつ計画的な取り組み



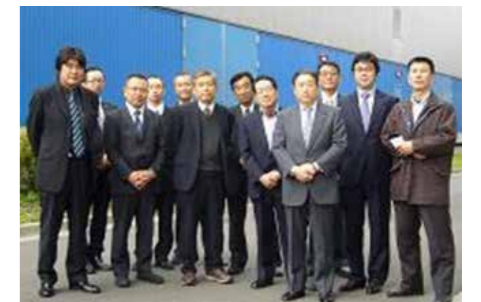
塗装現場での実証試験

- 2010 年 12 月「環境省からの VOC 対策功労者表彰」
まずは、環境省の VOC 対策に協力するため、環境省が作成する「VOC パンフレット」の塗装版へ資料提供し、環境省が日本各地で実施する VOC セミナーへ毎回講師を派遣するなどの協力をした。さらに「環境技術分科会」を設置し、VOC 削減を実際の塗装ラインで立案実施し、その結果を各地の VOC セミナーで発表した。これらの活動は、自主的取り組みの対象となった中小事業者に対する格好の対策例となり、環境省より 2010 年度の VOC の特別表彰となった。



2010 年環境省表彰

- 2008 年～2010 年「リスクアセスメントへの対応」
厚生労働省から、塗装作業に関するリスクアセスメント資料作成の要請があり、日本工塗連と共同で、パンフレット、ホームページ資料、セミナー対応などを実施した。
- 2011 年 4 月～2012 年 4 月「サポイン（ものづくり基盤技術）の認証取得」
経済産業省がサポインとして中小企業の基盤技術開発に 1 億円近い助成金を出す制度の中に、「塗装」という分野が欠落していた。「めっき」などがあるのに塗装が無いのは納得できないという関係者の声を代弁するため、東京都の木下稔夫先生を中心に、塗装が工業製品製造のため不可欠な技術であることを粘り強く説明し、1 年の期間を有したが 2013 年に「塗装」が 20 の基盤技術の一つの認証を取得することとなった。その後、毎年、塗装に関する技術開発が数件採択され、塗装技術の向上に貢献することとなった。



スーパーコンピューターの勉強会

- 2009 年～現在「全国塗装セミナーの開始」
2009 年に東京で第 1 回の VOC 対策セミナーを 200 名にて実施したが、工業塗装の発展を考えたとき、ほとんど東京、大阪以外では行われなかった塗装に関するセミナーを地方で行い、普及ならびに技術向上を図ることが必須であるとの結論で、2013 年から九州（熊本県益城町）を皮切りに、新潟、岡山などでのセミナーを開始した。実際、地方での工業塗装関係者の熱意は大きく、口コミでその他の地方でも開催することになり、現在は年 5 回程度までに拡大している。



盛況なセミナー会場



第 1 回セミナースタッフ

- 2014 年「IPCO（国際工業塗装高度化推進会議）への発展」
当初、日本工塗連と CEMA で発足した「工業塗装高度化協議会」もその後、行政や大学関係者や、日本パウダーコーティング協同組合、日本塗料工業会など幅広い関係者が集うようになり、新たな体制を組み直す必要が生じた。そのため、2014 年から定款など団体としての基盤を整備するとともに名称を「国際工業塗装高度化推進会議」（International Promoting Council of Industrial Coating）とし略称 IPCO としてスタートした。主な活動を下記に示すが、今後多角的な発展を目指している。
- 分科会活動：従来の環境技術分科会以外に安全技術分科会の活動を開始して、工業塗装の発展に取り組んでいる。今後、学会などとの新技術に対する取り組みも期待されている。
- ASTEC（先端表面技術展）への出展
工業塗装を社会に発信するため 2015 年 1 月、2016 年 1 月と ASTEC の「塗装ワールド」に 2 小間を借り、IPCO として出展した。両年とも 10 社以上の参加があり、約 5 万の来客者が足を運んだ。

- CEMA の今後の対外活動
塗装機械の業界発展のためには、塗装産業全体の発展が不可欠であり、今後も日本塗料工業会を始めとして塗装関連団体との協力を図るとともに、行政、学会など社会全体との情報交換の場を拡げて開かれた工業会を目指したい。
(運営企画委員長 平野克己)

出版

CEMA 印刷物・発行

CEMA は、塗装産業の発展に寄与することを目的に、過去数多くの書籍を発刊してきた。主なものを挙げると下表の通りだが、この 10 年間を見ると書籍では 2008 年に『塗装工場における静電粉体塗装の安全対策』、2015 年 1 月から 2016 年 3 月にかけては『塗装用語集』を塗装技術誌上に掲載し近日中には小冊子とまとめて『塗装用語事典』として発行する予定となっている。

CEMA の歩み 40 年の間に情報発信の形態は大きく様変わりし、かねてからの書籍・印刷物の発刊のみならず、パソコンの普及に伴い CD/DVD といった DISK メディアの利用、さらにインターネットを介したホームページ上での情報発信が盛んに行われている。CEMA はその時代に即した手法を取り入れつつ『塗装・FINISHING』の発展につながる最新情報を積極的に発信し続け、塗装産業の発展に寄与していく。



2008 年 9 月
『塗装工場における静電粉体塗装の安全対策』



塗装技術で掲載した『塗装用語集』
(2015 年 1 月～ 2016 年 3 月)



日本塗装機械工業会 編纂
『塗装用語事典』

【CEMA 発行書】

発行年	発行書名	発行	分科会
1983 年	『自動塗装機の塗着効率標準測定法』 『手動塗装機の塗着効率標準測定法』 『塗料消費量の標準測定法』	発行	分科会
1987 年	『紛らわしい用語を明確にする塗装用語集』	小冊子発行	合同技術部会
1988 年	『寸法などの表示基準』	発刊	合同技術部会
1993 年	『塗装実務ハンドブック』 『多液型塗料・塗装機器の現状と課題』	発刊 発刊	CEMA CEMA
1995 年	『CEMA ニュース改訂版』 『悪臭防止ハンドブック』 『公害防止ガイドブック』	季刊発行 発刊 発行	CEMA 製機委員会 / 日塗工共同 技術部会環境分科会
1996 年	『塗膜欠陥と対策の手引き』	発行	技術部会
1998 年	『工業塗装に係わる環境対応の実態調査報告書』	発行	M&E 協議会
2000 年	『新しい塗装実務ハンドブック入門編』	発行	技術部会
2001 年	『塗膜欠陥と対策の手引き』 CD-ROM 版	発行	技術部会
2001 年	『CEMA ホームページ開設』		CEMA
2008 年	『塗装工場における静電粉体塗装の安全対策』	発行	CEMA
2013 年	『CEMA ホームページ全面リニューアル』		CEMA
2015 年	『塗装用語集』を塗装技術誌上に掲載	2016 年 (塗装用語事典 発刊予定)	

ホームページ

CEMA のホームページは、2001 年 8 月『工業会から塗装に関する情報を積極的に発信する』ことを目的に開設され、CEMA 工業会の紹介、塗装用語事典の掲載、統計データの公表など印刷物による情報発信に比べ格段に迅速化・省力化された。その後幾度かの更新を経てのち、2013 年には『より活発な情報発信』を主題に置き、さらに『CEMA 運営の効率化』を図ることを目指し完全リニューアルされた。ホームページ管理者を仲介して情報発信するそれまでの情報発信形態から、全 CEMA 会員が自ら直接会員ホームページを介して最新の情報を発信できる環境が整い、その活発なる利用状況は CEMA ホームページへのアクセス数が格段に伸びていることから伺える。

肝心なことは『活発なる情報発信』が絶えず継続されること。そのため CEMA ホームページの利用促進を図る組織 (AMG : Active Maintenance Group) を新たに組織し、常に最新で有効な情報発信を心がけていく。

<公開ページ>



- 即時情報 UP が可能な『新着 NEWS』開設
会員各社が自由に情報発信できる『会員 TOPICS』開設



- CEMA 統計データが集計後には即時に公表できる『CEMA 出荷統計』システム



- さらに検索しやすく、また内容の改訂も即時に行える『塗装 FAQ』および『用語集』



- CEMA 技術シンポジウムの内容が、塗装関係者全てに公開され一定の時差で公開される『技術シンポジウム』

- その他、CEMA 活動方針、活動日程、会員一覧など CEMA 情報を即時性を持って公開できる機能など

<会員ページ>



- CEMA 会員相互の発言が自由にできる『会員掲示板』開設



- CEMA 内の全活動の記録・議事録・技術情報の会員公開ができる『文書』発信



- 自社のホームページの代替として CEMA ホームページが活用できる『ブチホームページ』



- 会員相互間の大容量ファイルを転送サービスする『大容量ファイル』交換機能



- 会員会社の入脱会、会員の組織移動を即時性をもって会員内公開する『会員登録・変更システム』



- その他、ホームページへのアクセス状況・推移が把握できる『アクセス』カウント機能など

【会員紹介】一覧表

正会員

- (株)IEC
- 旭サナック(株)
- アネスト岩田(株)
- アンデックス(株)
- (株)アースクリーンテクノ
- ABB (株)
- オーウエル(株)
- (株)桂精機製作所
- 川崎重工業(株)
- (株)ケミコート
- 精和産業(株)
- (株)大気社
- タクボエンジニアリング(株)
- 東和酵素(株)
- トリニティ工業(株)
- 日本ペイント・インダストリアルコーティングス(株)
- 日本パーカライジング(株)
- 日本ワグナー・スプレーテック(株)
- 自電工熱(株)
- パーカーエンジニアリング(株)
- (株)明治機械製作所
- (株)安川電機
- ランスバーグ・インダストリー(株)
- (株)ヲサメ工業

賛助会員

- アオイ工販(株)
- Asia Kendy Co.,Ltd.
- Asiarans Co.,Ltd.
- (株)アール・エイチ・サービス
- アール・エム・エス(株)
- イサム塗料(株)
- いすゞ塗料(株)
- A&K INTERCORP (S) PTE LTD
- エクスカテック(株)
- エクセル・インダストリアル・ジャパン(株)
- (株)エクテ
- (有)遠藤製作所
- (株)岡久
- カワニシ技研(株)
- (有)久保井塗装工業所
- (株)熊井製作所
- 三恵(株)
- (株)サービスエース
- (株)重松製作所
- (株)清水製作所
- ジェイアンドエスエンジニアリング(株)
- 正達工程股份有限公司
- Gemcrane Co.,Ltd
- 迅展ジャパン(株)
- 大日本塗料(株)
- (株)ダイフク
- (株)塚崎製作所
- ツカザ工業(株)
- テクノ電気工業(株)
- 日本ピーシーエス(株)
- 日新産業(株)
- (株)日本フロー
- Panweld Sdn Bhd.
- (株)ポクーテック
- 松尾産業(株)
- (株)ミトミ技研
- (株)メサック
- ヨコハマ技研(株)
- Langtech (Guangzhou) Machinery Co. Ltd
- ロックペイント(株)

ネット会員

- S.E.A. Olympus Marketing Inc.
- ダイヤアクアソリューションズ(株)

会員紹介 Introduction of Members

【正会員】

株式会社 IEC

代表者名：代表取締役社長 青木 秀人
住所：〒465-0024 愛知県名古屋市長東区本郷 2-160

TEL 052-774-1011 FAX 052-774-0114
URL http://www.iec-jpn.co.jp/

【会社プロフィール】

1960年の創業以来50年以上にわたり流体のハンドリング技術に携わってきた知識・経験を活かし、自動車産業をはじめ各産業へ流体技術システムを供給。業界のパイオニアとして受け継いできた「創意工夫」の精神を従来の発想にとらわれない「創異工夫」へと進化させ、現在国内11拠点・海外6拠点とグローバルに活動を広げ市場ニーズに対応しております。

【製品名】

塗料循環用電動式ベローズポンプ

■特長

- 完全電動方式でエアレス化の構築。
- 必要最小限の運転制御で省エネ。
- 塗料庫の騒音問題ない。

■導入によるメリット

- ランニングコスト 1/10 (対エア駆動比)
- 騒音レス
- 塗料へのシェアが最小

【その他】

ペイントサーキュレーション国内トップの施工実績で提案。

【事業紹介】

- 塗装プラント 設計・施工
- ペイントサーキュレーションシステム 設計・施工
- 粉体塗装設備 設計・施工
- 溶剤塗装設備 設計・施工
- 接着剤ハンドリング設備 設計・施工

旭サナック株式会社

代表者名：代表取締役社長 甘利 昌彦
住所：〒488-8688 愛知県尾張旭市旭前町 5050

TEL 0561-53-1213 FAX 0561-54-8847
URL http://www.sunac.co.jp/

【会社プロフィール】

創業以来、お客様のニーズに対応し独創性のある技術開発で貢献する事を基本精神として、お客様との対話を広げ、深めることで、新技術の可能性を追求してきました。現在推進している「塗装機械」「圧造機械」「精密洗浄機械」の三事業は、それぞれ各分野で技術創造企業として国際社会に貢献しています。

【製品名】

- エアレス塗装機：空気動式エアレス SP シリーズ・電動式エアレス AQ シリーズ
- 液体静電塗装機：エア霧化式 EAB シリーズ (自動)・HB シリーズ (手動)
- 回転霧化式 ESA シリーズ (自動)
- エアレス霧化式 APEG シリーズ (自動・手動)
- 粉体静電塗装機：コロナ式 AXR シリーズ・摩擦式 MTR シリーズ
- 多液混合塗装機：ブランジャ式 APW シリーズ・コンピュータ制御 ACW シリーズ
- 圧送ポンプ：ダイアフラム式 PD シリーズ・ベローズ式 BP シリーズ
- 塗装システム：NC 塗装機 SUNAC シリーズ
- 塗装ロボット アポロロボット AF シリーズ
- 塗装ラインコントロールシステム PALCOM シリーズ

【事業紹介】

「塗装機械事業」は1957年国産初のエアレス塗装機を開発・上市して以来、一貫して、環境保全・省資源・省エネルギーをキーワードとして技術開発に専念してきました。先進的な塗装技術を追求した多様な製品ラインナップは、つねに新技術による性能向上に努め、お客様・塗装機械・塗料メーカーの三位一体による未来型最適塗装システムの創造に向け、「Ec' Coater」※という革新的ソリューションに取り組んでいます。

※「Ec' Coater」とは Ecology と塗装機の Coater を組み合わせた造語。それは経営の基本を「環境」においた企業姿勢から生まれたコンセプトです。

アネスト岩田株式会社

代表者名：代表取締役 社長執行役員 壺田 貴弘
住 所：〒 223-8501 横浜市港北区新吉田町 3176 番地

【会社プロフィール】
創業 1926 年 (大正 15 年) 以来、日本の塗装機器・空気圧縮機を 90 年以上リードし続けて参りました。世界で初めての製品を開発し続けています。
創業：1926 年 5 月 (大正 15 年)
設立：1948 年 6 月 (昭和 23 年)
資本金：3,354 百万円
上場株式：東京証券取引所 第一部 1973 年上場
従業員：1,358 名 / 国内 571 名 (42%)・海外 787 名 (58%)
2015 年 12 月現在
拠点：国内拠点 (本社・工場：2・販売拠点：20)
グループ全体：42 社 (内、海外 35 社)

- 【事業紹介】
1. 塗装用機械器具の製造販売
 2. 塗装用設備の製造販売並びに設置工事
 3. 接着用機械器具・設備の製造販売
 4. 空気圧縮機、空圧機器及び空気動工具の製造販売
 5. 真空機械器具・装置の製造販売
 6. 医療機器の製造販売
 7. 電力供給装置、動力伝達装置の製造販売
 8. 自然再生可能エネルギーによる発電・売電事業

T E L 045-591-1111 F A X 045-593-1532
U R L http://www.anest-iwata.co.jp/

9. 前各号に掲げる製品及び設備の開発、設計、施工及びコンサルティング業務並びにこれらの製品及び設備の製造に関する技術・ノウハウの販売
10. 前各号に付帯関連する一切の事業

【その他】
当社は 1926 年 (大正 15 年) に国産初のスプレーガンメーカーとして産声を上げ創業 90 周年を迎えます。塗装機器・塗装システム商品の拡充や、塗料以外の液体を搬送・塗布する液圧機器の開発を世界中のお客様を対象として展開することにより、産業界発展に幾らかでも寄与できたのではないかと自負致しております。
創業来、当社が社是として掲げている「誠心 (まことのこころ)」を基に、グループ行動指針に掲げている「お使いになるお客様の立場に立ち、誠心を込めて製品や技術をお届けする。」を今後も継続してまいる所存です。
この先の 95 周年、そして創業 100 周年を見据え、先人たちから引き継がれた「誠心」に込められた思いを全社員で共有しながら、更なる企業価値向上に向けて一丸となって邁進していきたいと思えます。常にお客様の視点でものごとを考え、お客様の期待にお応えすることで誠の信頼関係を築いてまいります。

アンデックス株式会社

代表者名：代表取締役 田邊 耕造
住 所：〒 722-0051 広島県尾道市東尾道 15-29

【会社プロフィール】
1971 年 9 月創業以来、よりよい塗装環境と塗装品質の更なる向上を目指して、塗装ブース及び塗装関連設備機器の開発、製造、販売を行っております。
環境に配慮し、自然にやさしい自動車補修や産業塗装を目指した取り組みから産まれた省エネルギー型塗装機器を柱にして、環境保護と経済性の両立を提唱しております。

【事業紹介】
自動車補修用塗装設備・乾燥装置のメーカーとして 45 年の歴史を持ち、自動車補修業界では長年トップシェアを確保し、主としてディーラー様や钣金塗装工場様への営業展開しております。
近年では、航空機・鉄道車両・建設機械等の大型塗装設備・乾燥装置も手がけ、蓄積された豊富なノウハウと優れた技術力で高い評価を頂いております。

T E L 0848-46-3711 F A X 0848-47-1211
U R L http://www.andex.co.jp/

【製品名・商品名】
塗装ブース (CAB シリーズ)

- 特長
- 塗装に理想的な均一でやわらかい風の流れをつくり出すために、圧送室内部の抵抗とファンとのバランスを設計し、従来機よりさらに乱流のない均一な風の流れを実現しました。
 - 排気ユニットは排気フィルターの清掃交換のしやすさを徹底的に追求し、消音パネル仕様の排気ファンが内蔵され、騒音の発生を抑えています。
 - 制御盤は、カラー液晶タッチパネル仕様で、視覚的な確認が容易になるとともに、誰にでも快適なオペレーションを約束します。
- 導入によるメリット
- 室内照明に省エネタイプの新型蛍光灯安定器を採用し、従来の銅鉄安定器に比べ消費電力を約 25%削減します。
 - 給気ユニットにオリジナルの新型熱交換器を搭載することによって、伝熱面積がアップし、従来タイプと同等の燃焼カロリーで昇温時間が早くなり、15%の省エネ化をはかりました。

株式会社アースクリーンテクノ

代表者名：渡辺 昇平
住 所：〒 103-0027 東京都中央区日本橋 1-7-4 第一正明ビル 401

【会社プロフィール】
‘EARTH’ を ‘CLEAN’ にする技術を皆様に提供すべく、平成 21 年に営業活動を開始しました。排水処理設備を中心に、リン酸亜鉛皮膜など塗装前処理水洗水のリサイクルシステム、プラスチック塗装で問題になる静電気対策の商品などを全国的に展開しています。これらの商品を通じ、環境負荷低減・リサイクルシステムの構築に努め、次世代へより良い環境を残していくことが当社の使命です。

- 【事業紹介】
1. 環境機器の販売
排水処理設備、委託再生のイオン交換樹脂を用いた排水リサイクルシステムなど。
 2. 品質改善機器
防火・ゴミブツ対策用純水噴霧装置
塗装設備の清掃およびメンテナンス
帯電防止剤

【製品名・商品名】
帯電防止剤 エレクリーナー

■特長
本製品を被塗物にワイプすると、被塗物が帯びている静電気を放電します。すなわち、ブツ不良の原因となるほこりが

T E L 03-5203-8321 F A X 03-5203-8322

付着しにくくなり、再塗装、補正の工程を大幅に削減します。樹脂部品が増えている自動車板金工程でも効果を得ています。
■導入によるメリット
ピアノブラックの工程で使用しているあるユーザーは、不良率をエレクリーナー導入前 50%から導入後 10%程度まで下げることができ、塗料使用量の大幅削減につなげることができました。

【製品名・商品名】
委託再生式イオン交換システム ワコンナー

■特長
イオン交換樹脂を使用して塗装前処理水洗水をリサイクルします。排水を純水にして前処理ラインで再利用できるため、排水処理設備の負担軽減や、排水処理設備の代替えとしても使用可能です。
■導入によるメリット
運転は非常に簡便で排水処理設備のような維持管理が不要です。純水を供給できるため、洗浄効率がアップします。委託再生なのでユーザーは後処理の心配から解放されます。

ABB 株式会社

代表者名：社長 トニー・ザイトゥーン
住 所：〒 141-6022 東京都品川区大崎 2-1-1 Think-Park Tower 22F

【会社プロフィール】
ABB は、世界約 100 カ国に 135,000 人の従業員を擁する電力オートメーション技術のリーディングカンパニーです。環境負荷を最低限に抑えながら、お客さまの業務効率を最適化する製品、ソリューションの数々を、電力、一般産業、交通 / 社会基盤の各分野に提供しています。

国内では電力オートメーション関連事業を製造、販売、サービス分野にて展開し、約 750 名の従業員、3 つの合併事業、15 都市にわたる事業ネットワークを擁しています。

【事業紹介】
ABB のロボティクス事業では産業用ロボット、システム、サービスを広くご提供しています。世界中での 25 万台超の販売実績も活かし、生産性、製品品質、作業者の安全性の向上をサポートいたします。
国内では塗装などのロボットシステムを主軸に、単体ロボットの販売、サービスを、直販、パートナー会社経由にて自動車メーカーを主とする幅広い分野にご提供しています。
塗装機ユニットについては国内工場にて R&D、生産を行っています。

T E L 03-4523-6306 F A X 03-4523-6590
U R L http://www.abb.co.jp/

- 【製品名・商品名】
- 塗装プロセスオートメーション (PPA)
塗装機ならびにロボットを使用した自動化ライン
 - 塗装システム (PS)
中小規模の塗装ブースの設計施工
 - ロボット & アプリケーション (RA)
汎用ロボットの単体ならびにアプリケーション販売

■導入によるメリット
特に塗装分野においては、塗装機の開発生産拠点を静岡県島田市に有し、要求に応じた品質向上や直材低減のメリットを提供、塗装ブース全体、塗装以外についてもワンストップショップとして生産性向上に尽力します。

オーウエル株式会社

代表者名：飛戸 克治
住 所：〒555-0012 大阪市西淀川区御幣島 5-13-9

【会社プロフィール】
1943年の会社設立以来、当社は塗料分野を中心にお客様の生産に必要な商品やサービスをご提供してまいりました。今後、我々はコーティング材料をはじめ各種材料や工法の開発・提供、電気・電子部品の加工・販売など、新しい市場へ向けても、お取引先各社様と共に歩んでまいりたいと考えます。わたしたちオーウエルは、日本国内のみならず海外においてもお客様の課題に正面から取り組み、商品やサービスの提供を通してお客様の課題解決のお役に立ちたいと思います。未来に向かって「意匠や機能で、人々の暮らしを豊かにする」企業を目指します。

【事業紹介】

1. 塗料分野
お客様の高い評価を積み重ねて七十有余年。サービスネットワークも拡充しています。
2. 塗膜形成技術分野
お客様のニーズを高い次元で充足する塗膜形成技術を提供いたします。
3. 化成品分野
お客様のご要望に応じた多種多様な商品発掘と関連情報のご提供を行ないます。

T E L 06-6473-0138 F A X 06-6476-2200
U R L <http://www.owell.co.jp/>

4. 電気・電子分野
商品供給とともに加工・組立・周辺素材まで幅広くご提供しています。
5. 国際事業分野
国内同様のスピードとクオリティで海外拠点展開中のお客様を支援いたします。
6. 関連企業
塗料製造・調色、塗装・加工請負、住宅内外装工事、土木・建築工事、電子部品輸出入などオーウエルグループの総合力は新しいビジネス起源としての可能性を秘めています。

【製品名・商品名】

- 塗料、溶剤、金属表面処理、保護フィルム、接着剤、インキ、塗装機械器具、計測機器、建築資材、梱包用資材、産業用電気機械器具、電気・電子部品等の販売・輸出入
- 塗装工事、防水工事、内装仕上げ工事、機械器具設置工事等の請負及び設計・監理

株式会社桂精機製作所

代表者名：代表取締役社長 丸茂 等
住 所：〒221-0052 横浜市神奈川区栄町 1-1
K D X 横浜ビル 8 F

【会社プロフィール】
1951年創業以来、設備の加熱効率向上技術や省エネ技術を駆使したシステムで、お客様に合った設備の提案・導入をして参りました。また、ガスエネルギーの供給設備から燃焼設備までトータルで設計、施工できる総合エンジニアリングメーカーです。

【事業紹介】

1. 塗装設備エンジニアリング
省エネ・省ランニングコストを考慮した塗装設備一式の提供
2. 乾燥設備エンジニアリング
さまざまな分野での乾燥設備の提供
3. ガス供給設備エンジニアリング
ガス供給設備（一次側ガス供給設備）の提供

T E L 045-461-2336 F A X 045-461-2343
U R L <http://www.katsuraseiki.co.jp/>

【製品名・商品名】
塗装設備関連

- 前処理装置・塗装機・乾燥システム（ジェット熱風乾燥方式・遠赤外線加熱方式）、廃熱利用システム（熱のカスケードシステム・廃熱ボイラ・低温廃熱利用）搬送装置、脱臭装置・VOC 処理装置、熱風発生装置

ガス供給設備関連

- L P ガス圧力調整器、バルク貯槽、安全機器

■特長
弊社神奈川工場（神奈川県綾瀬市）に乾燥・焼付実験用のラボ（ジェット熱風乾燥方式・遠赤外線加熱方式・熱風循環併用方式）があり、ベストな乾燥システムをご提案致します。

■導入によるメリット
お客様の用途にあった乾燥システムをご提供することで、省エネ・省スペース・省ランニングコストが計れ、原単位の削減をお手伝い致します。

【その他】
新規設備のみならず、既設設備のエネルギーの有効利用やエネルギー切替による省コストのご提案も可能です。

川崎重工業株式会社 ロボットビジネスセンター

代表者名：常務執行役員ロボットビジネスセンター長 橋本康彦
住 所：〒135-0091 東京都港区台場 2-3-1 号

【会社プロフィール】
『世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する“Global Kawasaki”』
川崎重工グループは、広汎な領域における高度な総合技術力によって、地球環境との調和を図りながら、豊かで美しい未来社会の形成に向けて、新たな価値を創造します。

【事業紹介】
当社は、1969年に日本で初めて産業用ロボットの製造・販売を開始して以来、つねに時代を先駆けるロボットを開発し、ロボット業界のバイオニアとしての使命を果たしながら、国内外の様々な分野に先進のロボットを送り出してきました。塗装からハンドリング、クリーンルーム用ロボットまで、お客様の多様なニーズに応じてロボットを開発してきました。人と環境にやさしいロボットシステム。皆様の現場での省力化や生産性・品質の向上にお役立てください。

T E L 03-6457-1928 F A X 03-6457-1971
U R L <http://www.khi.co.jp/robot>

【製品名・商品名】
防爆塗装ロボット KF シリーズ、KJ シリーズ、パッケージセル “サーボ兄弟”

■特徴
小さなボタンから、大きな建設機械まで、あらゆる塗装工程にジャストフィットするマニピュレータをラインナップし、お客様に最適なシステムを提案致します。お届けしたその日から活用いただける「パッケージセル」もご用意しております。

■導入によるメリット
“Simple & Friendly” をコンセプトに、使いやすく、ごみ不良低減、塗装品質向上・安定、生産性向上、省エネルギー等、人と環境にやさしいロボットシステムで、お客様の効率化、業績向上にお役に立つことを目指します。

【その他】
当社は、おかげさまで今年創立 120 周年を迎えます。ロボット事業ももうすぐ 50 年。豊富な実績と長年の経験により、皆様のご発展にお役にたてるよう最適なお提案をして参ります。

株式会社ケミコート

代表者名：代表取締役社長 中川 完司
住 所：〒279-0002 千葉県浦安市北栄 4-15-10

【事業紹介】
当社は前処理剤のメーカーとして洗浄剤、皮膜化成剤の販売をしております。薬剤使用のノウハウを設備設計にいかし、現場の状況を考慮した前処理・塗装設備および付帯設備の設計施工を行っております。

【製品名・商品名】
蒸発濃縮装置

■特長
排水処理設備を持たない工場では、前処理設備から出た廃水を保管し、産廃として排出する必要があります。今回紹介させて頂いた蒸発濃縮装置は、廃水の水分を蒸発させ濃縮することにより、廃水の容量を大幅に削減し、産廃排出することができます。

■メリット

- 通常の排水処理に比べ小規模である。
- 濃縮水は蒸発後、容量が 10 ～ 20% に削減可能なため、貯槽設備も小規模にできる。

精和産業株式会社

代表者名：代表取締役 和田 平
住 所：〒136-0072 東京都江東区大島 5-12-7

【会社プロフィール】
1970年建築塗装のアルバイトで「現場で厳しい苦労を体験し、塗装業者様の作業を楽にしたい」と言う創業の志で塗装機を開発。
細かいお客様の声を大切に、「環境と作業者の健康に配慮し、耐久性が良く、軽量・コンパクトで、良い操作性の機械とサービス」でお客様に満足され、喜んで頂けることを使命とします。これから価格対応でき、塗装市場でアフターサービスまで含む One Stop Shop 目指して商品開発し、徐々に拡充して参ります。

【事業紹介】
1971年設立し45周年になりました。
今年のヒット商品は、積み込み容易な日本一「最軽量・コンパクト」な防音洗浄機を開発、車の場所を取らず、積み下ろしが楽で、街中の工事で「静音」で大好評です。
お客様の要望を製品や道具の形にして、開発していきます。新用途開発、新市場向けの製品開発やアフターサービスに力を入れています。故障でも、安心、安価で迅速対応します。付属品や部品の在庫が豊富で、注文当日発送でき短期です。

【製品名・商品名】
発電機、コーキング攪拌機、エアレス、HVLP 塗装機、高圧洗浄機、コンプレッサー、エアースプレーガン、廃溶剤再生機、

T E L 03-3638-6911 F A X 03-3638-6921
U R L http://www.seiwa.com/

ホース類、ジョイントなどの各種付属品、部品を安価に OEM 供給。各種高圧洗浄機の修理サービス。

■特長
塗装機は吐出量多く、低飛散で作業効率が良い上に、一定圧できれいな均一仕上。
コンプレッサーは開放・簡易軽便型と多用途、特に全閉防音型は「寝てる子も起こさない」静音。廉価で抜群の耐久性で長期運転に威力。

■導入によるメリット

1. すべての商品で高耐久性。消耗部品も少ないのでランニングコストを大幅低減。
2. 塗装においては飛散が少なく塗料を大幅節約。仕上がりが良好。
3. 軽量・コンパクトで移動作業者に負担がかからず、場所も取らない。

【その他】
お客様の声に対し真摯に耳を傾け、ニーズや要望を掘り起し、最適なソリューションを提供することを最優先に考え、求められ、愛される製品とサービスを数多く開発し続けます。業務提携パートナーを求めます。

株式会社大気社

代表者名：代表取締役 社長執行役員 上山 悟
住 所：〒160-6129 東京都新宿区西新宿 8-17-1

【会社プロフィール】
当社は1913年4月に創業し、今年で103周年を迎えました。創業当初は「建材社」の社名で輸入建築資材などの販売及び据え付け工事を行っていました。その後、建築設備事業、工場空調設備、自動車生産設備と業容を拡大し、現在では空調事業を主とする環境システム事業部と、自動車塗装設備を主とする塗装システム事業部の2事業部体制を構築、塗装システム事業部は世界で第二位の売上を誇るまでに成長しました。この間、1973年（創立60周年）に社名を「大気社」と改め、2011年にはイタリア・ジェイコ社とのアライアンスを構築し、現在、世界20カ国にわたりグローバルに事業を展開しています。
当社の社是は「顧客第一」です。顧客とは広義に社会全般を意味し、当社にとって顧客第一の精神とは、永続性のある信頼を顧客である社会全般から得ることです。この精神のもと、当社では「エネルギー・水・空気」の探求を通じて社会への貢献を目指すとともに、あらゆる面においてユニークな会社づくりを目指しています。

T E L 03-3365-5320 F A X 03-5338-5195
U R L http://www.taikisha.co.jp/

【製品紹介】
先述の通り、当社の商品は「エネルギー・水・空気」です。その実現のため、塗装システム事業部では、塗装システム全般の総合エンジニアリング会社として特長あるプロセスを提供してきました。前処理ではゴミ欠点削減システムとして i-LAS（アイラス）を、電着では品質向上に寄与する対向流循環システムを、乾燥炉では被塗物全体の高速昇温を実現する「シンメトリー方式」を、塗装ブースでは環境性に優れた乾式処理方式の「ドライサーキュラー」を、VOC 処理分野では処理性能に優れたロータリー式 RTO を、それぞれ研究開発し、これまで多くのお客さまへ納入しています。また、近年では、塗装機・ロボット・塗料供給・コンベヤなどまで含めた幅広い技術構築を行い、塗装工場の管理システム VISTA（ビスタ）も加え、さらなるサービス力の向上を図りました。
総合メーカーの強みを生かしつつ、今後ともより良いシステムを提供していきたいと考えています。

タクボエンジニアリング株式会社

代表者名：代表取締役 佐々木 栄治
住 所：〒283-0826 千葉県東金市丘山台 2-7

【会社プロフィール】
1975年（昭和50年）創業。塗装専用乾燥炉の製造を始め、オイルブース、エアミックスガンなど、米ビックス社、仏クレムラン社等と日本国内販売ライセンスを取得し塗装の周辺機器の製造販売を開始。のち、世界初天吊り型塗装専用ロボットソフトボイをブリヂストン株式会社と共同開発。東芝機械株式会社と全軸サーボモータ化した塗装ロボットソフトボイ・プロを開発。塗装システム開発や塗装ロボットから周辺機器の開発と製造販売。ロボットによる回転塗装技術『Rの技術』を中心とした塗装道をブランド化しています。

【事業紹介】

1. 自社開発の塗装ロボットや塗装周辺機器の設計開発・製造販売
2. 無駄な塗料消費量の削減、生産効率の向上、コンパクト化、環境対応等塗装ロボットを中心とした塗装システムの設計開発、提案
3. 塗装周辺機器の製造、販売
4. インクジェットコーティングシステム設計開発

【製品名・商品名】
塗装専用乾燥機：ドライテック
塗装専用ブース：オイルブース

T E L 0475-50-0211 F A X 0475-50-0231
U R L http://www.takubo.co.jp/

塗装ロボット：ソフトボイ・プロ/ライندگانサー、スーパースピンドル-300C、スーパースピンドルSS、スワンインクジェットマシン：ジェットデザイン

■特長
独自開発の塗装機器は、無駄な塗料の消費やエネルギーコストを抑え、環境に適応。環境性能を兼ね備え、塗装の多くのコストメリットをもたらします。塗装コンセプト『塗装道』の考え方に沿って常に時代を見据えた機器開発に力を注いでいます。

■導入メリット

1. 塗料消費量の削減化
2. 管理型の塗装の見える化を実現
3. エネルギーコストを抑え環境に配慮した塗装システムの実現
4. 点在する工場間の塗装品質の安定化
5. ユーザー利益の創出

【その他】
東金テクノセンターは、ショールームや実際の塗装工場と同等な環境の塗装のデモルーム（CR）を備え塗装ロボットによる塗装テストやロボット操作講習が可能です。また、サステナブル建築賞審査委奨励賞や、千葉県文化建築賞、日経ニューオフィス賞等数々の賞を受賞しています。

東和酵素株式会社

代表者名：代表取締役社長 宮崎 和男
住 所：〒254-0064 神奈川県平塚市達上ヶ丘 1-6 号

【会社プロフィール】
当社は昭和32年に創業し、当初は繊維加工で使用する糊剤の製造販売を行っていました。昭和47年には水処理に必要な微生物製剤を開発し、現在は塗装ブース循環水の処理に使用する微生物製剤のほか微生物の活動に着目した微生物混合飼料、農業用微生物製剤及び堆肥発酵促進剤の製造販売を行っております。

【事業紹介】

1. 微生物による湿式塗装ブース循環水の浄化装置
2. 上記処理に供する微生物製剤の製造販売
3. 活性汚泥処理に供する微生物製剤の製造販売
4. 堆肥剤
5. ゴルフ場サッチ除去剤
6. 各種養殖場向け微生物製剤の製造販売
7. 各種好気性および嫌気性微生物の製造販売

【製品名・商品名】
ミタゲンクリアー
ミタゲンアンサー
バルキック

■特長
当社にて創業以来改質を続けてきた原菌株『東和菌』を元に、各浄化項目に合わせ配合を変え対象に適した製剤が製造販売できる。無機処理ではなくあくまでも地球誕生時から活動

T E L 0463-31-1872 F A X 0463-32-3318
U R L http://towaenzyme.co.jp/

する微生物の力を用いて複雑化する環境問題に対応しているのが当社である。

■導入によるメリット

湿式塗装ブース用微生物製剤のメリット

1. 塗料カスの削減、不粘着化
2. ブース水洗水の長寿命化
3. 臭気の削減

活性汚泥用微生物製剤のメリット

1. 活性汚泥の固液分離の促進
2. 糸状菌発生防止
3. 酵素分泌による活性汚泥の活性化
4. 脱水汚泥の含水率低減

農業用堆肥化促進剤のメリット

1. 発酵促進

【その他】
現在国内において固体培養技術により微生物を製造している唯一のメーカーである。

トリニティ工業株式会社

代表者名：社長 水川 政明
住 所：〒471-0855 愛知県豊田市柿本町 1-9

【会社プロフィール】
当社は1946年に創業し、排出物・廃棄物の発生やエネルギー消費量の少ないモノづくりに継続的に取り組み、自動車向け「塗装プラント」や「塗装機器」の開発、設計、製作、施工までを、一貫して行っております。また、「自動車用樹脂加飾部品」への加工技術開発や製造も行っております。自動車メーカーのグローバル化に伴い、現在は国内だけでなく、海外工場への展開も積極的に行っております。

【事業紹介】

1. 塗装設備事業部
省エネや環境（CO₂・VOC削減）に対応した、自動車用塗装機器及び設備の提供
2. 部品事業部
自動車内装樹脂パーツへのレーザー加飾加工技術で、新意匠を展開

T E L 0565-24-4800 F A X 0565-24-4825
U R L <http://www.trinityind.co.jp/>

【製品名】
新空調制御システム TEGA
(Trinity Engineering Gradational Air)

■特長

塗装エリア内の温度湿度をコントロールする、バーナーや加湿器などの空調装置を、外気状況に応じて最も省エネ動作になるよう、演算制御を行う空調制御システム。

■導入により期待されるメリット

従来の制御に比べ、空調装置のバーナーガスの使用量や、加湿電力を無駄なく制御する為、ランニングコストを約30%低減、CO₂を5%削減可能。

【その他】

- アメリカ・中国・インド・欧州（フランス）にある、トヨタ自動車（株）殿の塗装工場へ、水性塗装機器「カートリッジ式ベル塗装機」を導入しています。
- トヨタ自動車（株）殿の「レクサス」の内装樹脂部品「ドアアームレスト」等を納入しています。

日本パーカライジング株式会社

代表者名：代表取締役社長 里見 多一
住 所：〒103-0027 東京都中央区日本橋 1-15-1 号

【会社プロフィール】
創業者の「限りある資源を大切に・・・」の言葉を経営理念とし、技術立社を標榜し、昭和3年（1928年）創立以来、研究開発に研鑽し、金属を腐食と損耗から守る技術の提供を生業として参りました。近年は防食のみならず、素材の表面に機能を付与するという「新たな価値の創造」を念頭に開発を行っており、これからも様々なお客様のニーズにお応えできる機能開発を行って参ります。

【事業紹介】

あらゆる産業分野における素材の洗浄、防錆、塗装下地、潤滑などを目的とした表面処理薬剤と、これにともなう最新のノウハウ、技術サポートを提供するとともに、「地球レベルでの環境保全」を念頭におき、環境対応型製品を積極的に開発しております。有害物質を含まない代替製品や、環境負荷物質の低減はもちろん、薬剤使用量や排水量の削減・処理温度の低温化など、トータルシステムとして、環境にやさしく、そしてお客様のコスト低減につながる表面改質技術をご提供しております。

T E L 03-3278-4333 F A X 03-3278-4314
U R L <http://www.parker.co.jp/>

【製品名・商品名のPR】
私たちアイオニクス（静電粉体塗装機部門）では、帯電量が従来品と比較して1.3倍のSuper Pulse Powerを搭載した軽量（480g）の静電粉体塗装ガンを開発。箱物内面コーナ部の付き廻り性が抜群、内面底部における粉溜まりが少ない特徴がございます。その他、色替え時間短縮の塗装ブース、多種多様な色替えへの定量供給システムなどの静電粉体塗装装置をご提供しております。また、最近では「新規粉体塗装用機器」にも力を入れており、既に実用化されております。キーワードは「帯電、均一分散、引き出す、検知、保管する、計る、搬送する」です。粉体塗装関連機器のみならず、今後ともわたくしたちの「開発力」にご期待ください。

日本ペイント・インダストリアルコーティングス株式会社

代表者名：代表取締役社長 三輪 宏
住 所：〒140-8675 東京都品川区南品川 4-1-15

【会社プロフィール】
私ども日本ペイント・インダストリアルコーティングス(株)は、1881年に創業しました。同時にプレコート用塗料の専門メーカーである日本ファインコーティングス(株)および工業用塗料の販売会社、日本ペイント工業用コーティング(株)と合体し、日本ペイントホールディングスグループにおいて、開発設計、生産、販売という一貫機能を有する工業用塗料事業会社として2015年4月より新たなスタートを切りました。お客様の製品への表面コーティングや機能付与という方法でお客様の製品の価値をさらに向上させ、かつ塗装設備システム、塗装管理、色彩デザインなど幅広く塗料塗料塗料事業で社会に貢献していくことが私どもの使命と考えます。私どもは国内のみならずアジアを起点としグローバルに製品サービス提供できる会社としてグローバルベストパートナーを目指し、お客様とともに成長しあえる会社となるべく努力してまいります。

T E L 03-3740-1569 F A X 03-3740-1540
U R L <http://nipponpaint-industrial.com/>

【事業紹介】
塗装設備ビジネスと致しましては、1976年の(株)ニップラ設立以来、40年の設計・施工実績を有しております。塗装ライン（搬送、製缶、塗装機器等1式）の新設や改造時に日本ペイントグループとして、前処理薬剤・塗料（リキッド系塗料、粉体塗料、電着塗料等）の設備仕様の検討に当たり、自社内に於いて、品質・コスト・環境などの課題を整理し、総合的に検討を行い、最終塗膜までのトータルソリューションをワンストップでご提供致します。

日本ワグナー・スプレーテック株式会社

代表者名：社長 ゲルド・テルブッシュェア
住 所：〒574-0057 大阪府大東市新田西町 2-35

【会社プロフィール】
日本ワグナー・スプレーテック株式会社は、液体塗装、粉体塗装における高度技術システムと製品開発のマーケットリーダーであるワグナーグループ全体の基本理念に基づき、日本市場で40年以上の活動実績を持ちます。

【事業紹介】

高度な品質と先端技術とによって、ワグナーは液体塗装と同様に粉体塗装の分野においても、世界的マーケットリーダーになりました。そして全世界に50ヶ国以上の世界規模の販売及びサービスネットワークができました。今後もワグナーは、最大の顧客満足につながる、製品・組織・サービスの更なる向上に向けての継続的な努力をお約束致します。

【製品紹介】

ワグナーの製品エリアは主に次の3つに分かれ、いずれのエリアにおいても厳格な品質基準のもと、革新的・先進的な製品を生産し、品質管理目標を達成するために訓練され、熟練した従業員により、顧客への最適な製品及びサービスの提供を目指しています。

1. 汎用（プロフェッショナル・DIY）
建築ビジネス分野、DIY分野における塗装スプレー機器
2. 工業液体塗料
工業分野における液体材料の塗装機器
3. 工業粉体塗料
工業分野、建築分野における手動・自動粉体塗装機器

T E L 072-874-3561 F A X 072-874-3426
U R L <https://www.wagner-group.com/>

【その他】

我々のプロセスおよび日々の活動は全て、製品の品質規格保証と、第一目的である製品およびサービスに対する最高の顧客満足に根ざしています。品質管理に加え、全ての安全規定及び環境に対する我々の責任を十分に考慮した上で、技術的リーダーシップの拡大を常に目指しています。また環境保護および最高水準の安全基準と同様に、資源そのものの節約が我々の全製品開発プログラムで考慮され、製品を安全に効率的に使用する方法としてガイドライン化されています。

白電工熱株式会社

代表者名：代表取締役 新妻 白孝

住 所：〒 125-0041 東京都葛飾区東金町 7-30-12 号

営業本部・三郷工場：

〒 341-0037 埼玉県三郷市高州 2-8-2 号

TEL 048-955-2854 FAX 048-956-2764

【会社プロフィール】

昭和 43 年 4 月の創業以来、塗装ブース、各種熱風乾燥炉、搬送装置、前処理装置など塗装設備の設計から施工までをトータルエンジニアリングする専門メーカーとして営業してまいりました。技術と経験の積み重ねが当社の「ほこり」です。製品一つひとつには、約半世紀にわたる豊富な経験と技術に裏打ちされた独自のアイデアが生かされています。各ニーズにあわせた塗装設備のご提案により、お客様にクリーンな職場環境をご提供致します。

【事業紹介】

塗装ブース、各種熱風乾燥炉、搬送装置、前処理装置、脱粒装置、脱臭装置、電着装置などの塗装に関する設備を、お客様の工場・ご要望にあわせて設計・製作し、据え付けまで一貫して行います。また、既設塗装設備の点検・修理改善も行ってまいります。当社ではメンテナンススタッフを擁し、急を要する修理にも自社工場の部品在庫(ファンのモーター・ベアリングなど)で対応できます。

いわき工場：

〒 970-1144 福島県いわき市好間工業団地 1-3940

TEL 0276-36-7840 FAX 0276-36-7986

U R L http://www1.ttcn.ne.jp/~hdk/

【製品名・特長・導入メリット】

- ゴミ・ブツを嫌う品物向けクリーンエアブース（塗装ブース）
ブースに室内取入型給気装置を設置し、ブース内にクリーンなエアを供給します。ブース内でもブース外と同じ温度環境で作業することができます。ダクト工事は不要です。
- 乾燥炉などから外気に出る臭いを最小限にする白金触媒式脱臭装置
ホルムアルデヒドなどの臭いを白金触媒方式で反応させ、外気に出る臭いを最小限に抑えます。触媒方式の反応温度が従来の燃焼方式よりも低いため、ガス消費量を抑えられます。設置場所に困らないコンパクトサイズです。
- この他、ハイブリッドクリーンエアターボ水洗ブース、大型固定炉熱風乾燥炉、クリーンエアブース付トローリー型熱風焼付塗装ラインなど、お客様のニーズに応じた各種設備をご提供します。

【その他】

当社の手掛けた設備をはじめ既設設備の改造もお引き受けします。環境規制への対応等、お困りのことがありましたらご相談ください。

パーカーエンジニアリング株式会社

代表者名：代表取締役社長 浮田 二郎丸

住 所：〒 103-0027 東京都中央区日本橋 2-16-8

第二パーカービル

T E L 03-3278-4599 F A X 03-3281-1967

U R L http://www.parker-eng.co.jp/

【会社プロフィール】

弊社は 1951 年創業の金属表面処理・塗装設備全般の総合エンジニアリング会社です。弊社の技術ノウハウは、わが国の基幹産業である自動車産業をはじめとしたさまざまな分野に提供され、省資源・環境保全への取組みと生産性の向上の両立をもってお客様の期待に応えてきたものと自負しております。今後とも「Process for the Future」をスローガンに国内外に優れた設備を供給してゆきたいと考えています。

【事業紹介】

- 金属表面処理設備、塗装設備のエンジニアリング（設計・製作・据付・試運転）
- 塗装用濾過フィルターの製造・販売
- 環境設備のシステムエンジニアリング

【製品名】

次世代化成処理剤対応 表面処理設備／排水処理設備

■特長

- リン酸塩処理にかわる、ジルコニウムベースの化成処理剤を使用する表面処理設備です。
- 表面調整工程が不要となり、表面調整剤の供給や表面調整工程への給排水の必要がなくなります。

- リン酸塩処理に比べスラッジ発生が 10 分の 1 になるほか、当社独自の技術により、微細なスラッジをバグフィルターで除去することが可能です。
- 排水に関しても、リン酸塩処理に比べフッ素含有量は元来低水準ですが、活性炭系高性能吸着剤「ボンダー」を利用した設備設計とすることで、より簡素かつ低コストな排水処理が可能です。

■導入によるメリット

<低環境負荷>

- 重金属の大幅低減（ニッケル・マンガンフリー）

<コスト削減>

- 表面調整工程短縮による設備設置・運営費用削減
- スラッジ処理・廃棄費用の大幅削減
- 排水処理費用の削減

<作業負担の軽減>

- スラッジ清掃、ノズル清掃作業の軽減

株式会社明治機械製作所

代表者名：代表取締役社長 廣田 貢

住 所：〒 532-0027 大阪府大阪市淀川区田川 2-3-14

【会社プロフィール】

1924 年に創業し 2015 年で創立 90 周年を迎えるトップメーカーならではの豊富な実績、磨き上げた技術力で無限の可能性に挑む meiji

当社は創業以来、コンプレッサ、塗装機器、塗装設備など、エアを基礎とする工業技術の開発と、その製品化に努め、業界内をはじめ各方面から絶大な信頼を得ております。さらに今後も産業と暮らしをつなぐパイプ役として、豊かな経験と蓄積された頭脳、そして技術力を集結し、トップメーカーに恥じない確かな製品の開発を続けてまいります。21 世紀を見つめ、大きく広がる可能性に挑戦する meiji にご注目下さい。

【事業紹介】

スプレーガン、塗装機器製品の製造・販売

コンプレッサ、ブースタコンプレッサの製造・販売

塗装設備関連製品の製造・販売

T E L 06-6309-1221 F A X 06-6304-0661

U R L http://www.meijiir.co.jp/

【製品名・商品名】

静電ハndsプレーガン F-NANO

■特長

溶剤と水性、1 液と 2 液に対応。特長は①最大 0.7MPa まで使用可能な低圧仕様、②ラウンド / ファインスプレーノズルの 2 タイプ③ 570g の軽量で人間工学に基づいた高度な設計、④感覚的に使用できるコントロール類により快適な作業を実現、⑤塗料、エアの節約が可能、⑥ GNM6080 コントローラーモジュールは視認性が高く、簡単にマニュアル設定が可能⑦簡単メンテナンスとなります。

■導入によるメリット

塗着効率向上による塗料の削減と少空気量設計によるエア消費の削減、合わせて感覚的に使用できるコントロール性能および軽量設計により快適な作業を実現できます。

株式会社安川電機

代表者名：代表取締役社長 小笠原 浩

住 所：〒 806-0004 北九州市八幡西区黒崎城石 2-1

【会社プロフィール】

1915 年の創業以来、「事業の遂行を通じて広く社会の発展、人類の福祉に貢献する」の経営理念に基づき、“モータの安川” から “メカトロニクスの安川” へと変革し、常に時代の主力となる事業を支え続けてきました。サーボモータ、インバータ、ロボットのコア事業を更に強化し、社会の発展に貢献してまいります。

【事業紹介】

1. モーションコントロール
一般産業機械から工作機械まで、ドライブ&モーション&コントロールの豊富な製品群とアプリケーションノウハウを提供
2. ロボット
溶接、塗装、組立、ハンドリングなど、あらゆる用途で全世界で最も多く活躍している「モートマン」
3. システムエンジニアリング
さまざまなプラントにおけるシステム構築を提案

T E L 093-645-8800

U R L http://www.yaskawa.co.jp/

【製品名・商品名】

新商品

大型塗装用途最適化ロボット MOTOMAN-MPX 3500

■特長

多彩なラインレイアウトに対応可能な全方向取付けタイプ
広い動作範囲&省スペース
充実の装備と性能

■導入によるメリット

コンパクトな基部とスリムなアームで、軽量、高速、広動作範囲を実現したことで、自動車ラインに限らず、建機 / 農機、バス、鉄道、飛行機等の大型ワークをコンパクトなブース内で一気に塗り上げる実力は、対環境性の向上とユーティリティコストの削減をお約束します。

【その他】

当社は昨年、おかげさまをもちまして創立 100 周年を迎えました。日頃の皆様のご支援に深く感謝いたします。

ランズバーグ・インダストリー株式会社

代表者名：社長 木下 真生
住 所：〒236-0004 神奈川県横浜市金沢区福浦 1-15-5

【会社プロフィール】

1963年創立。静電塗装の発明者ランズバーグ氏に由来する社名のもと常に工業塗装の最先端をゆく塗装技術を追求し、創業50周年を経た現在は次の50年の礎となる新しい技術開発に邁進してします。1989年にはスプレーガンで世界的に有名なデビルピス、2000年にはポンプで定評のピンクス、さらに昨年4月米国カーライル社の100%出資会社となった以降では新たに粉体静電塗装のMSをブランドに加えつつ、工業塗装に求められる環境性・効率性・作業性などあらゆる面において『お客様を大切にす心』と『我ら塗装人、塗装は科学だ！』の信念の下、業界をリードする塗装機器および塗装システムを提供し続けています。

【事業紹介】

1. 液体静電塗装機器：ランズバーグ
自動車をはじめ広く一般産業に貢献している液体静電塗装のランズバーグは、世界初の完全自動塗装システムを追求した“Rans-Cosmos”、2液塗装の“RansFlow”、本格的静電ハンドガンの“RansFlex”そして水系静電塗装の“AquaBlock”など画期的塗装機器をラインアップ。
2. スプレーガン機器：デビルピス
自補修のみならず一般工業塗装で広く普及するスプレーガンのデビルピスは、環境性・軽量性に優れたマグネシウムをボディ採用の“LUNA”、“APOLLO”、“JUPITER”のハンドガンシリーズおよびLVMP技術を駆使した自動ガンシリーズをラインアップ。
3. 塗料循環機器：ピンクス
圧倒的なエネルギー効率の高さで急速に市場拡大している電動ポンプ“SMART”、空気動“MAPLE”をはじめDXダ

T E L 045-785-6311 F A X 045-785-6489
U R L http://www.carlisleleft.co.jp/

イヤフラムポンプや高比率ポンプなど塗料循環用、一般塗装用の塗料ポンプや塗装関連機器をラインアップ。

4. 粉体静電塗装機器：MS
CFTグループ（Carlisle Fluid Technologies）は、スイスを拠点とし欧州市場で高品質・高性能で定評の粉体静電塗装のMSブランドを新たに加え、粉体ハンドガンの“TOPCOATER”シリーズをはじめ自動粉体塗装機器および粉体塗装システムを全世界的に提供していきます。

【製品名】

Rans-Cosmos / ランズコスモス

■特長

高い塗装品質を得るには、塗装距離を一定に保ち、ワーク形状に合わせた複雑な塗装条件を制御することが重要です。ランズコスモスは、3D（立体）カメラで被塗物を正確に捉え、左右独立懸架の前後移動機能を備えたスーパーレシプロケータが塗装距離を一定に保つ様トレースし、ランズバーグ独自の塗装制御技術をプログラミングしたRans-Cosmos制御ユニットが最適な吐出制御を行う、完全自動を追求した塗装システム。フル機能を備えるパッケージシステムから一部機能に絞ったコンポーネントまで、塗装ラインのニーズに合わせて選択できるバリエーションをご用意します。

■導入により期待されるメリット

- 塗装自動化の推進。人的作業の軽減。
- 補正作業の軽減
- 塗料使用量、塗装コストの削減
- 塗装品質の向上
- 多品種少量生産におけるワークごとの生産数把握と様々な生産管理への応用

株式会社ヲサメ工業

代表者名：社長 多田 洋一
住 所：〒236-0002 神奈川県横浜市金沢区鳥浜町 15-13

【会社プロフィール】

昭和22年に塗装工程の近代化を図る設備メーカーとして創業、同40年に塗装設備、搬送設備および省力、専用自動機のメーカーとして「株式会社ヲサメ工業」を設立。以来、50年以上にわたり着実に実績を積み重ね、「塗装と搬送」の名門企業として不動の地位を築いてきました。

現在では横浜本社、大阪支店を事業拠点としアジアを中心とした海外を含め展開、総合的なFAエンジニアリング企業へと成長しております。

【事業紹介】

1. 産業用塗装設備、塗装プラントのエンジニアリング
2. 搬送設備、装置の設計・施工
3. 専用自動機の設計・施工
4. 省力機器他の設計・施工

T E L 045-776-6411 F A X 045-774-4851
U R L http://www.osame.co.jp/

【特長・メリット】

コンサルティングからレイアウト、ソフト開発、ハードの設計、施工まで幅広くカバーする総合力にあります。とりわけ「塗装プラント」と「搬送システム」、この両分野での卓抜した技術蓄積が大きな強みとなっています。「塗装」を理解した工程の搬送、移積、ストレージ、自動化など提案いたします。自動車関連メーカーをはじめ、家電、住宅関連機材、オフィス関連機材、農機具、食品、クリーニング工場他、多方面にわたりニーズに合致した最適なシステムを提供いたします。

【賛助会員】

アオイ工販株式会社

代表者名：代表取締役社長 小野田 勝美
住 所：〒140-0015 東京都品川区西大井 1-4-29

【会社プロフィール】

私たちは昭和43年創業以来、製品である、流体自動制御機器関連のバルブ、継手、チューブ等、自動化・省力化に関連したあらゆる機器機材をお客様に提案し、支えられながら発展して参りました。これからも社会が大きな変革期を迎える中、つねに技術革新や社会の動向を俊敏にとらえ、お客様のご要望に的確に、機敏に対応できるよう努力し、21世紀の豊かな環境づくりへ貢献してまいります。

【事業紹介】

- 製造拠点…株式会社アオイ 本社工場（継手とチューブの開発、製造）
住所：静岡県御殿場市神場 757-1
- 営業拠点…東京、大阪、名古屋を中心に全国に計9拠点で営業展開。
（東京本社、横浜出張所、厚木営業所、沼津営業所、名古屋営業所、京都出張所、大阪営業所、神戸出張所、福岡出張所）
- 開発営業本部（厚木営業所）…特定顧客へのカスタマイズ製品開発、販売。
- 海外事業部（東京本社）…国内における中国、タイでの製造、販売フォロー。

T E L 03-3781-0881 F A X 03-3781-0513
U R L http://www.aoi-inc.co.jp/

【主な取扱製品】

- (株)アオイ製継手…PEEK樹脂、ステンレス、真鍮、PBTを原料とした配管用継手。
- (株)アオイ製チューブ…ナイロン、ウレタン、テフロン等を原料とした配管用チューブ。

■特長及び導入メリット

PEEK、ステンレス製の継手は、スリーブレスで繰り返しの使用ができるので、ランニングコストに優れています。また、内面構造も非常に滑らかなので洗浄性に優れ、あらゆる塗料に対して使用可能です。また、塗料用チューブとしてフッ素系多層チューブ（REF3）を開発しました。単層テフロンチューブに比べ、導入コストが安価でかつ柔軟性、撥水性に優れていますので、多くの塗料関連設備メーカー様より多大な評価をいただいております。

【その他】

- 平成21年5月にエコアクション21を認証取得しました。

Asia Kendy Co.,Ltd. (アジア ケンディ)

代表者名：代表取締役社長 遠藤 賢三
住 所：1717/1, Onnut Rd., Suanluang, Bangkok
10250 Thailand

T E L +66-2331-7301 ~ 9 F A X +66-2331-7300
U R L http://www.asiakendy.com/

【会社プロフィール】

1973年9月にタイ王国バンコクに現地法人として設立。液体・粉体自動静電塗装設備（塗装ブース、オープンブース、コンベアライン）の設計施工、静電及び非静電塗装機器・消耗部品の販売と修理及びメンテナンス、工業用接着剤の販売、各種ポンプ・産業用機械工具の販売と修理、高機能緩衝包装材による各種包装・梱包の設計施工を主な業務として行います。

特に塗装関係においては塗装機器の消耗部品の供給をはじめ、各種メンテナンスを自社スタッフがを行い、四輪・二輪各社および家電関連各社をはじめ、各産業分野へのサポートを行っております。

Asiarans Co.,Ltd. (アジアランス)

代表者名：代表取締役社長 遠藤 賢三
住 所：1717/1, Onnut Rd., Suanluang, Bangkok
10250 Thailand

T E L +66-2331-7301 ~ 9 F A X +66-2331-7300

【会社プロフィール】

1978年8月にタイ王国バンコクにランスバーグ社取扱製品を専門に販売する現地法人として設立(日本のランスバーグ社とは資本関係なし)。

静電及び非静電塗装各種機器・消耗部品(粉体塗装機器を含む)の販売と修理及びメンテナンスを主な業務としており、エンドユーザーである四輪・二輪各社及び家電関連各社をはじめ、各産業分野へのサポートを行っております。

株式会社アール・エイチ・サービス

代表者名：佐藤 吉信
住 所：〒373-0812 群馬県太田市東長岡町 1643-1

T E L 0276-45-1044 F A X 0276-45-1009

【会社プロフィール】

1974年に創業以来、塗装ライン・塗装設備の多様化するお客様の御要望にお応えする為、設計から施工までを一貫したトータルシステムで行っております。

【事業紹介】

1. 塗装ライン及び塗装設備の電気制御設計から工事・調整を行います。
2. 搬送ラインをはじめとする、各種FA装置の電気制御設計・工事をトータル的にサポート致します。

【製品名・商品名】

各種制御盤制作・電気設備工事

■特長

信頼のおける技術にて、各種制御盤及び電気設備工事をお客様の御要望に合わせて提供します。

■導入によるメリット

お客様の御要望に合わせた各種制御盤の製作及び電気設備工事を弊社にて一貫して行えます。

アール・エム・エス株式会社

代表者名：中村 周吾
住 所：〒168-0065 東京都杉並区浜田山 3-13-12

T E L 03-3316-5061 F A X 03-3316-7051

【会社プロフィール】

1973年ランスバーグの静電塗装機器のメンテナンス業務を行う目的で設立。

その後、塗装機器の設置工事、チューピング工事、修理、販売等を行い、塗装機器メーカーのアフターサービスを請け負っております。

【事業紹介】

1. 工事部門
塗装機器の設置工事、チューピング工事、設置後の点検作業、ロボット・レスプロ等の設置工事等々を行います。
2. 修理部門
基本的に塗装機器に関しては、全て対応致します。
(資料や部品が入手できない物や修理ルートが決まっているものは除きます)
3. 販売部門
主としては、ランスバーグ・インダストリー(株)で取り扱っている、ランスバーグ・デビルビス・ピックス製品を販売しております。
その他塗装機器に関しても、主要メーカーの製品を取り扱っております。

【製品名・商品名】

自社製品は特にありません。

【その他】

当社は主に塗装機器メーカーのサポート的な作業が中心ですが、塗装機器類の販売やシステムでの販売も行っております。自社でメンテナンスも可能ですので、トータルサービスには自信があります。

イサム塗料株式会社

代表者名：代表取締役社長 古川 雅一
住 所：〒553-0002 大阪府大阪市福島区鷺洲 2-15-24

T E L 06-6458-0036 F A X 06-6458-0030
U R L <http://www.isamu.co.jp/>

【会社プロフィール】

イサム塗料株式会社は自動車補修用塗料を主力に、建築用・工業用・汎用塗料と様々な分野で活躍する塗料メーカーです。本社を大阪市福島区に拠点とし、生産は滋賀工場において集中生産しております。営業拠点としては東京・大阪・名古屋・福岡に支店を、仙台に出張所を、札幌・広島に駐在所を設置し、全国を網羅する特約店のネットワークとともに、需要家の皆様のご要望にお応えできる万全の物流・サービス体制を確立しております。

【事業紹介】

1. 塗料、溶剤及び建材の製造・販売
2. 塗装用の機器器具及び塗装室の製造・販売
3. 前各号の付属原材料の製造・販売
4. 塗装工事及び防水工事の設計施工及び請負
5. 不動産の賃貸借及び管理
6. 前各号に付帯する一切の業務

【製品名・商品名】

ハイアートCBエコ
エアフレッシュ

■特長

「ハイアートCBエコ」：大型車両、工業系を中心とした隠ぺい性・テーピング性に優れた環境対応型2液ウレタン塗料です。「エアフレッシュ」：光触媒効果によって、消臭・抗菌・抗カビ・抗ウイルス効果を発揮する内装用塗料です。

■導入によるメリット

「ハイアートCBエコ」：優れた隠ぺい性・テーピング性により、通常のウレタン塗料と比較して塗装回数・作業性が50%削減できます。
「エアフレッシュ」：消臭・抗菌等の効果によって、より快適な暮らしを過ごせます。

【その他】

「ハイアートCBエコ」：日本鉄道車両機械技術協会の材料燃焼試験にて「不燃性」の認定を受けています。
「エアフレッシュ」：(財)日本食品分析センターにて、消臭・抗菌・抗カビ・抗ウイルス性試験を行い、効果を確認しています。

いすゞ塗料株式会社

代表者名：代表取締役社長 福島 博文
住 所：〒545-0014 大阪市阿倍野区西田辺町 2-10-23

【会社プロフィール】

いすゞ塗料はお客様のニーズに合った統合的なサービスを提供することによりお客様のパートナーとして新たな価値の創造を目指します。
得意先ユーザー様へ最適な塗料及び塗装機器を適正価格にて安定供給することにより、お客様の生産性の向上に貢献する「付加価値提供企業」を志します。
今後は中国を中心としてコアビジネスである塗料・塗装関連サービスを中心に事業領域拡充を行い、海外市場へのさらなる展開を目指します。

【事業紹介】

- 塗料販売：
一般工業用塗料の他にお客様個々の品質規格や塗装条件に合わせ塗料メーカーと協力して開発したオリジナル製品もお届けしております。お客様のニーズに合わせた最適な塗料をご提案、ご提供させていただきます。またお客様専用塗料の研究・開発のお手伝いもしております。
- 設備販売：
塗膜性能を引き出す重要なポイントは、塗料と塗料設備の組み合わせです。数々の実績よりお客様のワークに合わせた効率のよい塗装ライン設計、導入設備の最適なプランなど設備導入に関する検討段階よりご提案

T E L 06-6693-4551 F A X 06-6693-0149
U R L <http://www.isuzutoryou.co.jp/>

させていただきます。さらに、装備部品や消耗品などの交換やメンテナンスまで対応させていただきます。

- 塗装工事：
塗り床工事を始めとした塗料専門会社ならではの知識と経験で的確な塗装工事をご提供させていただきます。工場の床面、建屋をご希望の色彩に塗り替えることにより、明るく、快適な職場をご提供致します。
- 貿易：
多様化、グローバル化するお客様のニーズに応える為、国内に留まることなくお客様のニーズに合った塗料、化成品、また独自に開発した工業用製品などの優れた商品を輸出入業務をお手伝いさせていただきます。

A&K INTERCORP (S) PTE LTD (A&K)

A name of representative : MR GARY ANG EIK CHUANG
An address : 41 KALLANG PUDDING ROAD #06-04
GOLDEN WHEEL BUILDING SINGAPORE 349316

【Company profile】

Since its founding in Singapore in 1995, A&K Group has been successfully expanding its business of industrial spray painting equipment in Singapore, Malaysia, and Indonesia. Providing the global standard products of Ransburg, Devilbiss, Binks, and other related products, the company builds an outstanding credential in handling over 80 clients across the countries, with different finishing requirements and challenges.

【Business introduction】

A&K Group is your reliable partner with proficient knowledge and experience on product finishing. As the official distributor of Ransburg, Devilbiss, Binks, and other related products, we have been providing the best spray painting equipment for leading companies from varied fields of industry, like automotive, electronics, pharmaceutical, oil & gas, aerospace, etc.

T E L +65-6741 1087 F A X +65-6741 0116
U R L <http://www.sprayequip.com/>

【Product name and brand name】

We are the official distributor for world leading brands of Ransburg, Devilbiss, Binks and related products who produce "cutting edge" high technology Spray Painting equipment and accessories for the supply and application of all sprayed materials for all major Industries and Markets

■ The feature

We have transformed our products and services into an integrated solutions for the spray painting industry, emphasizing on customer focus and satisfactions. Our customers will also have the privilege of our premium services, including factory standard in-house lab, on-line and on-site technical services and reliable inventory of spare parts.

■ The merit by the introduction

Our customers can rely on our quality products that will perform and provide full value to their business - long term. We pride ourselves on the quality products we represent and fully stand behind any product that we sell. By providing professional technical after sale service and rapid accessibility to crucial spare parts and equipment, we help our customers to minimise downtime and maximise their businesses profitability.

エクスカテック株式会社

代表者名：鈴木 潤一
住 所：〒243-0205 神奈川県厚木市棚沢 258-1

【会社プロフィール】

エアレスノズル、塗装機器、その他精密加工部品などをお客様に提供しています。なかでも耐摩耗素材の加工を得意とし、同素材を使用した製品を多く取り扱っております。

【事業紹介】

1. エアレスノズル、塗装機器の設計、製造、販売
お客様の要望に合わせ製品の設計から製造、販売を行います。
2. 精密加工部品の製造、販売
お客様の要望に合わせ製造、販売を行います。

【製品名・商品名】

エアコンピオートガン、エアコンピハンドガン
エアレスオートガン
低圧カラーチェンジバルブ、高圧カラーチェンジバルブ

■特長

エアコンピオート（ハンド）ガンのノズルより霧化しながら吐出された塗料と、エアノズルから吐出される乱れの無い気流帯状に噴出された空気が合わさることにより微粒化が高まり、同時にパターンのテール形状を軽減させることが可能となります。微粒化された塗料は、気流帯がエアカーテンの役割を果たし、気流帯の外側へ噴き出ることがないので、

T E L 046-243-5051 F A X 046-243-5083

飛散の減少と塗着効率の向上につながります。エアコンピオートガンに使用するノズルは、汎用品から高精度、お客様の仕様に合わせた特別仕様のノズルなど多種をご用意しております。
エアレスオートガンのノズルも同様のラインナップをご用意しておりテールの出難いノズルの提供が可能となっております。
オートガン、ノズル、カラーチェンジバルブには、耐摩耗素材を使用し、溶剤塗料、水性塗料に対応が可能です。

■導入によるメリット

エアコンピガンを使用することにより、微粒化を向上させ塗料の使用量削減と、テール形状の軽減、飛散の減少が可能となります。
オートガン用高精度ノズルを使用することによるオーバースプレーの減少や、ノズル交換時に発生する塗布位置の補正を軽減することが可能であり、特にロボットを使用しているラインで重宝されています。
弊社製品の多くは、摩耗し易い箇所に耐摩耗素材を使用しており、製品の長期的な使用が可能となります。

エクセル・インダストリアル・ジャパン株式会社

代表者名：代表取締役 丹野 栄一
住 所：〒220-0004 神奈川県横浜市西区北幸 2-10-39
日総第5ビル9階

【会社プロフィール】

フランスの静電塗装機のメーカーのサメスと流体搬送機器メーカーのクレムリンレクソンの日本法人。日本では長年、自動車用塗装機市場では高いシェアを獲得してきておりましたが、日本の一般産業市場への進出を計り、日本の代理店との提携を進め、日本市場への販売を展開しています。環境重視の欧州ならではの高い塗着効率と長寿命の堅固な設計で、お客様に満足してもらえる様、社員一同一丸となって邁進していく所存です。

【事業紹介】

1. 自動車業界トップコートへの塗装機事業
2. 一般産業への粉体塗装・溶剤塗装機事業
3. シーラー、接着剤、制振材などへの高粘度機器事業（デスペンサ、ポンプ、二液混合機他）
4. イノマーク事業：潤滑油等の精密少量塗布

T E L 045-412-5800 F A X 045-412-5801
U R L <http://www.kremlinrexson-sames.com>

【製品名・商品名】

1. クレムリンレクソンのオリジナル技術「エアミックス」飛散を最大限抑え、入り込みの良く、二次霧化方式によるエアスプレーの微粒化を実現
2. 世界最小かつ長年培った自動車業界での実績 静電塗装ハンドガン「ナノガン」
3. 粉体ハンドガン「イージェット2」プレミアム・ブランドのサメスの粉体塗装ハンドガン
4. 粉体ベル塗装機「イノベル」世界で唯一の粉体用ベルテクノロジー。ワイドなパターン幅とベルならではの均一した塗膜品質

■特長

欧州ならではの環境重視した設計。つまりは高塗着効率、塗料ロス、エネルギーコストを抑え、メンテナンスも簡単にできるようになるべくシンプルな作りを心がけており、お客様の好評を得ております。

■導入のメリット

日本のお客様に弊社の製品を安心してご利用頂ける様に、代理店との提携を強化し、テストラボ、トレーニングセンター、俊敏なアフターサービス、在庫の確保等のきめ細かいサービスを充実させて頂いております。

株式会社エグチ

代表者名：代表取締役社長 橋本 淳

住 所：〒 457-0861 愛知県名古屋市中区明治 1-19-5 号

【会社プロフィール】

1968（昭和 43）年より塗料・金属表面処理剤・シール剤・接着剤販売を主体とする株式会社江口巖商店の関連会社として創立しました。

本社（名古屋市中区）、三好営業所（愛知県みよし市）、岐阜営業所（岐阜県各務原市）を拠点に営業しています。

【事業紹介】

主に自動車及び自動車部品塗装ユーザー様への塗装設備機器と金属表面処理剤・シール剤・接着剤の販売を行っております。

【主な仕入先】

塗装設備・塗装機器

(株)IEC、アネスト岩田(株)、(株)いけうち、ABB (株)、イズテック(株)、関西オートメ機器(株)、昭和塗装機(株)、総合プラント(株)、(株)大鑄、東メンシステム(株)、(株)東洋 E・S、トリニティ工業(株)、ランズバーグ・インダストリー(株)、(株)正英製作所、(株)柱精機製作所、(株)常盤電気、夏目工業(株)、(株)東洋精機製作所、林田工業(株)、(有)朝日プラント、(株)ヤブキ、(株)コアツ、(株)中央理化、(有)山陽機巧
順不同

T E L 052-691-4111 F A X 052-691-4178

U R L http://www.eguchi-iwao.co.jp/

薬品・シール剤・接着剤・その他

日本パーカライジング(株)、(株)パーカーコーポレーション、パーカー興産(株)、(株)ネオス、伯東(株)アサヒゴム(株)、サンスター技研(株)、三豊化工(株)、日本ヘルメックス(株)、(株)トータルエスケー、加藤産業(株)、大新化工(株)
順不同

【その他】

当社は蓄積した技術と新しい発想と融合させ、環境や安全に配慮した製品開発をメーカー様と協業して、幅広いユーザーニーズに対応しています。

また、廃棄物低減・環境負荷物質低減・エネルギー節減の為の環境影響の少ない塗装設備機器及び材料をご提供する事に積極的に取り組んでおります。

有限会社遠藤製作所

代表者名：遠藤 秀浩

住 所：〒 157-0067 東京都世田谷区喜多見 1-30-12

T E L 03-3415-8461 F A X 03-3415-8462

【会社プロフィール】

昭和 42 年、先代の遠藤秀夫氏が世田谷区等々力の自宅で起業し、一貫して樹脂加工に専念してきました。様々な樹脂部品を製造し、平成 8 年、現在の世田谷区喜多見に移転し機械生産を開始しました。現在、MC センター 4 台他多数の工作機械で製造を強化し、技術向上に注力しています。

【事業紹介】

電機絶縁材料切削加工一般
樹脂製の精密部品製造
静電塗装機関連の部品製造

【その他】

第 2 回 MORI SEIKI 切削加工ドリーム・コンテスト金型・造形加工部門技能賞受賞

株式会社岡久

代表者名：代表取締役 岡田 久徳

住 所：〒 955-0096 新潟県三条市井戸場 568-4

【会社プロフィール】

当社は、塗料・工業薬品の販売を目的として、創業（昭和 26 年）以来、皆様に満足して頂ける商品とサービスを提供させていただいております。「美しい環境づくり」を企業テーマに、より新しい商品開発と取扱商品の選択に努め、前向きな姿勢でチャレンジを続けております。

【事業紹介】

1. 塗料及び薬品販売
2. 設備機器販売施工
3. 産業廃棄物処理
4. 医薬品販売

【製品名・商品名】

調色品：精度の高い調色品を自家調色とメーカーとの綿密な連携でユーザー様のご要望にあわせ提供しております。

機器資材：定番の作業用具から最先端の塗装設備まで取り揃え、現場の環境にあわせた作業改善を提案しております。

カワニシ技研株式会社

代表者名：代表取締役 河西 朗

住 所：〒 433-8117 静岡県浜松市中区高丘東 4-39-8

T E L 053-439-1477 F A X 053-439-1476

【会社プロフィール】

カワニシ技研は、理想の「モノづくり」をテーマに生産向上に答える産業機械の開発をしています。

【沿革】

昭和 61 年 有限会社カワニシ技研設立

平成 8 年 現住所に移転

平成 11 年 有限会社カワニシ技研からカワニシ技研株式会社に商号変更

【事業紹介】

1. 各種静電塗装システム
2. 粉体静電塗装システム
3. 産業機械設計・製作
4. 省力化機械設計・販売

【製品名・商品名】

塗装設備 : 静電塗装装置、粉体静電塗装装置、ウレタン二液静電塗装装置
塗装機器販売・ : ランズバーグ製品、各種塗装機器、塗装機器メンテナンス
修理
機器製造販売 : 各種流体注入ノズル、注入バルブ、特殊バルブ、定量シリンダー

有限会社久保井塗装工業所

代表者名：代表取締役 窪井 要
住 所：〒 350-1311 埼玉県狭山市中新田 1083-3

【会社プロフィール】
1958年、創業。1965年、設立。
1958年の創業から50年以上の歴史をもち、自動車工業や家電製造業のお客様に長くご愛顧いただいている工業塗装メーカーです。近年はお客様が求める「高機能塗膜」を共同開発する研究開発にも注力しており、経済産業省からのバックアップを受けております。

【事業紹介】
工業塗装全般（プラスチック・金属）
自動車内外装部品、弱電製品、医療機器等の塗装
1点物の試作部品から、自動車部品などの量産塗装まで幅広く生産しています。
経済産業省「戦略的基盤技術高度化支援事業」に2件連続採択され、川下セットメーカーと共同で高機能塗膜の研究開発を実施しました。

T E L 04-2958-5763 F A X 04-2957-8097
U R L http://www.kubitosou.co.jp/

【製品名・商品名】
1. プラスチック用放熱塗料
2. 医療用抗菌塗料

■特長

1. プラスチックが変形を起こさない100度以下の低温度帯でも放熱効果を発揮する放熱塗装
2. 一般的な抗菌効果をはるかに超える医療現場が求める抗菌対策性能に対応した抗菌塗装

■導入によるメリット

1. 自動車のヘッドランプやハイブリッド車のバッテリー、電子機器の発熱対策に有効
2. 病院内における感染対策として有効

【その他】

IPCO（国際工業塗装高度化推進会議）において環境技術分科会分科会長を拝命。関東経産局及び埼玉県大気環境課主催のVOC対策セミナーで講師を務める。CEMA技術部会との協力で、2009年から塗装技術を経済産業省の定める「高度基盤技術」への指定を目指し活動、2012年4月指定される。「サポイン」及び「モノ補助」の支援を受けることとなった。

株式会社熊井製作所

代表者名：代表取締役社長 熊井 一彦
住 所：(本社工場) 〒 146-0095 東京都大田区多摩川 2-6-10
(神奈川工場) 〒 252-1125 神奈川県綾瀬市吉岡東 3-4-12

【会社プロフィール】
昭和29年の創業以来、60余年という歴史で培った豊富な経験と高い技術力で、塗装設備の開発をはじめ、プラント設計、さらには前処理装置・電着装置や塗装ブース等各種装置の製造・据付工事を行っています。
設計から製造、据付工事までを一貫して対応。
幅広い業界のあらゆるニーズに、安全で正確な“ものづくり”でお応えします。

【事業紹介】
1. 塗装プラントの設計・製作・施工
2. 制御盤の設計・製作及び電気工事
3. 各種装置の設計・製作

T E L 03-3759-1203 F A X 03-3759-1005
U R L http://www.kumai-ss.com/

【製品名・商品名】
前処理装置・電着塗装装置・塗装ブース・乾燥炉・搬送装置・制御盤・他各種装置

■特長

当社は社内に設計・開発・施工の専門部門を有し、自社一貫体制で最適な製品をご提供しており、多くの大手企業様とお取引をさせて頂くなど、確かな経験と実績を築いております。

■導入によるメリット

当社では設計・開発からアフターメンテナンスまでを一貫して行っております。一品一葉からでも対応させて頂いており、お客様の幅広いニーズに迅速・丁寧にお応えします。

【その他】

自動車やフォークリフト等の出庫確認装置を開発、納入し、出庫時や倉庫内での事故防止に貢献。多大なるご評価を頂いております。

三恵株式会社

代表者名：代表取締役社長 外山 博康
住 所：〒 955-0832 新潟県三条市直江町 4-4-5

【「世の中の進歩繁栄に尽す」という経営理念の基に】
三恵（サンケイ）は新潟県にあり、工業用塗料・化学工業薬品及び関連設備・機器装置の専門商社として、さまざまな商品とそれに付随するサービスを提供しております。私たちは、経営理念を常に心がけながら、お客様の発展に貢献いたします。
当社は工業用塗料の販売を主力としており、新潟県内を中心に数多くのお客様よりご愛顧頂いております。また、ライン長が2kmを超えたり塗装物重量が500kg超えたりするような大型のものから、手吹き向けの小型のものまで、溶剤・粉体・電着問わずさまざまな塗装設備および廃水処理設備の導入に携わってきた実績があります。他にも、フッ素系塗料の販売や塗装設備にも力を入れております。

【三恵の強み】

- 塗料と塗装設備の双方からご提案いたします。またアフターフォロー（メンテナンス）もしっかり対応いたします。
- 多数の実績と長年の経験から得られたノウハウをベースとしたご提案をいたします。
- 環境ISOの認証を取得し、環境改善活動に取り組んでいます。また、お客様にはコストダウンにつながる廃棄物の削減やエネルギー使用量低減等に関する提案を推進しています。

株式会社サービスエース

代表者名：代表取締役社長 竹下 直孝
住 所：〒 488-8688 愛知県尾張旭市旭前町新田洞 5050

【会社プロフィール】
当社は昭和54年3月創業のナカヤ産業(株)を前身に、平成2年6月より、サービス事業への転換を意図して、商号を(株)サービスエースに変更し、グループ企業の旭サナック(株)が製造販売する塗装システム・機器のアフターサービス事業をスタートしました。以来、「投資なき利益創造を顧客に提案する」を企業コンセプトに、現在は多様化するお客様の塗装ラインを安定稼働させる高い技術力で、「アフター」、「レトロフィット」、「ソフト技術」をキーワードにソリューションサービスを提供しております。

【事業紹介】

1. アフターサービス
塗装システム・機器の性能・機能を常に最適な状態でお使い頂けるよう、その維持管理、稼働管理に関する技術サービスを提供します。
2. レトロフィットサービス
コスト低減・塗膜品質向上・生産性向上に貢献できる最新の塗装システム・機器の改良改善と再生更新に関する提案サービスを提供します。
3. ソフト技術サービス
豊富な塗装事例と蓄積されたデータにより、お客様に最適な塗装システム・機器の構築や課題解決に向けた塗装方法に関するソフト技術サービスを提供します。

T E L 0256-33-0456 F A X 0256-34-7194
U R L http://www.s-sankei.co.jp/

【上記以外の主な取扱商品・サービス】
鍍金材料・合成樹脂・金属表面処理剤・搬送装置・廃水処理設備・ボイラー・コンプレッサー・各種ポンプ・有機溶剤・無機薬品・金属加工油・洗浄剤・合成樹脂・高圧ガス及び燃料・凍結防止剤・電子材料および機器・産業廃棄物収集運搬 等

【上記以外の主な取扱商品・サービス】
鍍金材料・合成樹脂・金属表面処理剤・搬送装置・廃水処理設備・ボイラー・コンプレッサー・各種ポンプ・有機溶剤・無機薬品・金属加工油・洗浄剤・合成樹脂・高圧ガス及び燃料・凍結防止剤・電子材料および機器・産業廃棄物収集運搬 等

【上記以外の主な取扱商品・サービス】
鍍金材料・合成樹脂・金属表面処理剤・搬送装置・廃水処理設備・ボイラー・コンプレッサー・各種ポンプ・有機溶剤・無機薬品・金属加工油・洗浄剤・合成樹脂・高圧ガス及び燃料・凍結防止剤・電子材料および機器・産業廃棄物収集運搬 等

T E L 0561-53-1531 F A X 0561-53-1533
U R L http://www.serviceace.co.jp/

【製品名・商品名】
レトロフィットサービス

■特長

豊富な実績とデータに基づき、お使いの塗装システム・機器に先進機能を付加する各種レトロフィットメニューをご用意しています。

■導入によるメリット

塗着効率向上、塗膜品質向上、廃塗料・廃シンナー量削減、自動化による生産性向上など最新システム・機器と同等の塗装性能を実現します。

【その他】

廃溶剤を蒸留再生利用することで、新規溶剤購入費用を大幅に削減できる溶剤回収装置(フォルメコ社)のアフターメンテナンスもおこなっています。

株式会社重松製作所

代表者名：取締役社長 重松 宣雄
住 所：〒114-0024 東京都北区西ケ原 1-26-1

【会社プロフィール】
重松製作所（シゲマツ）は、1917（大正6）年創業以来、一貫して防じんマスク、防毒マスクなどの呼吸用保護具を中心に、働く人々を職業病から守るための努力を積み重ねてまいりました。シゲマツが社会に提供している各種の呼吸用保護具は、僅かな資源消費で、働く人々に清浄な空気を与えられる優れたシステムです。シゲマツは、日本国内はもとより国境を越えて、働く人々の健康と幸福を支え、かつ地球の環境保全にも貢献することに誇りと責任をもって仕事に励んでいます。

- 【事業紹介】
1. 産業界等の安全衛生並びに防災（避難、消火及び救出作業等）に関する保護具、機器、薬品及び材料の製造販売並びに管工事
 2. 保護具等に関する保守点検整備及び修理並びに労働災害防止に関する教育事業

T E L 03-6903-7525 F A X 03-6903-7520
U R L <http://www.sts-japan.com/>

【製品名・商品名】
直結式小型防毒マスク GM76DS
直結式小型防毒マスク GM28S
直結式小型防毒マスク用吸収缶 CA-104N II / OV（有機ガス用）

- 特長
本品は国家検定に合格した直結式小型防毒マスクです。顔面との密着性がよく、耐久性に優れています。また、作業環境中の有害物質に対応できるように各種吸収缶を取り揃えています。
■導入によるメリット
作業環境中の有害物質を除去し、着用者が吸入する空気を浄化します。
低コストの対策で、着用者の健康・安全を守ります。

株式会社清水製作所

代表者名：清水 健司
住 所：〒211-0013 神奈川県川崎市中原区上平間
1402-104

【会社プロフィール】
金属加工業社です。
1967年の創業以来、塗装機に関わる多種多様な部品を製造させて頂いております。

【事業紹介】
NC旋盤、マシニングセンタによる切削加工を行っています。また、研磨、各種表面処理にも対応させて頂いております。中～小物（150mm程度まで）が中心です。

【その他】
樹脂材からチタンまで、幅広い素材に対応可能です。個数に関わらず対応させて頂きます。

T E L 044-511-0996 F A X 044-555-4672

ジェイアンドエスエンジニアリング株式会社

代表者名：代表取締役社長 片山 眞司
住 所：〒322-0023 埼玉県川口市飯塚 2-1-39-1305号

【会社プロフィール】
2002年の創業以来、代表者が長年自動車メーカーで生産技術者として培った経験を活かして、自動車塗装のコンサルタントとしてユーザー視点でコスト（経済合理性）と環境負荷低減が両立する新技術開発に注力しています。

- 【事業紹介】
1. 環境負荷低減エンジニアリング
VOC、CO₂、PM、産廃、廃水、悪臭など環境問題を塗料、プロセス、設備装置から総合的に解決する技術開発。
 2. 自動車塗装ネックエンジニアリングの解消
中塗り塗りで外部から塗装業界のレベルの低さを指摘されている歩留まりの低さを解消する技術開発。

T E L 048-258-2192 F A X 048-258-2192

正達工程股份有限公司 (ジェンダエンジニアリング)

代表者名：STEVEN WANG
住 所：3th.Floor No.527 CHUNG JHEG ROAD
SHIH LIN DISTRICT TAIPEI TAIWAN

【会社プロフィール】
1988年3月創立。塗装設備及び関連装置の設計、施工全般。2006年3月にはISO9001、2000を認証取得。塗装の総合コンサルタント業務を実施。中国、東南アジアに多数の実績あり。
本社：台北 工場：南投市 支店：インドネシア

【事業紹介】
塗装、環境、省エネなど幅広い分野の設計、施工、アフターサービス事業を行う。
ISO基準に基づいた品質管理の相談にも応じる。
【製品名・商品名】
各種自動塗装設備、油水分離装置、廃水処理設備、太陽光加熱、汚泥乾燥機、活性炭排ガス処理装置、化成濾過機

- 特徴
日本の安川電機、川崎重工業、ランズバーグ・インダストリーの商品の取り扱い
■導入によるメリット
塗装設備、関連設備を総合的に対応するため、発注側は安心して全てを依頼できる。
さらに徹底したアフターサービスも行うので信頼される。

T E L 886-2-28817822 F A X 886-2-28821598
U R L <http://www.jhenda.com.tw/>

【その他】
太陽光技術者の合格書を受ける。

Gemcrane Co.,Ltd (ジムクレイン)

代表者名 : Steven Lee
住所 : 10F-2, No.80, Sec.1, Chenggong Rd.,
Yonghe Dist., New Taipei City234, Taiwan

【Company profile】

GEMCRANE Co., Ltd. is one of the leading painting and spray equipment supplier and installer in Taiwan. Established in 1987, our products include paint supply equipment, high voltage power supply equipment, auto gun, hand gun, pumps, and paint test, instrument. "Total Quality Assurance and Customer Satisfaction" are the central goals of our company.

【Business introduction】

We are the expert of bicycle coating system, as well as any electrostatic industrial coating system. Our business is covering international trade, manufacturing of control panel and other coating related equipment, service of industry equipment and offer solutions for painting system.

T E L +886-2-2924-2618
F A X +886-2-2924-6576
U R L <http://www.gemcrane.com.tw/>

【Product name and brand name】

The products line we are handling are Ransburg products such as Disk, Bell and Automatic and Manual Gun.

■ The feature

We believe that we can prove to be the excellent partner in our long term operation, to be dedicated to perfectly balancing technology, humanity and the environment, and to become an innovative and positive contributor to the world.

【Topics】

Gemcrane would like to be a long-term reliable partner to provide customers the best service and machine of quality.

Also be one of the leading branded paint equipment in the world.

大日本塗料株式会社

代表者名 : 代表取締役社長 岩浅 壽二郎
住所 : 〒 554-0012 大阪府大阪市此花区西九条
6-1-124

【会社プロフィール】

私たち大日本塗料は、1929年の創業以来培ってきた防食塗料技術をはじめとする独自の技術で、地球環境や資源を護り、社会の繁栄・豊かな暮らしの実現に貢献してきました。そして、現在、省エネルギー・省資源・高機能をテーマに社会インフラを支える超耐候性塗料や水性重防食塗料を開発し、ライフサイクルコストの低減に貢献しています。

【事業紹介】

- 国内・海外塗料事業
国内の塗料事業はもとより、タイ・シンガポール・マレーシア・インドネシア・ベトナム・中国・メキシコに生産・営業拠点を置き、塗料及び塗料関連材料を供給しています。
- ジェットインク事業
塗料事業とジェットインク事業の両方を展開している強みを生かし、建材分野を中心に新しい塗装システムを提案します。
- その他事業
照明機器事業
蛍光色材事業

T E L 06-6466-6661 F A X 06-6462-0788
U R L <http://www.dnt.co.jp/>

【製品名・特長】

- V フロン HB シリーズ
「超耐久性」と「省工程塗装システム」の両立を実現した塗装系であり大型構造物用塗装システム
- DNT 水性重防食システム
ジンクリッチペイントから下塗り、上塗りまで、オール水性化を国内で初めて実現した重防食システムであり、地球環境維持・保全に大きく貢献します。
- パウダーフロン SELA
粉体塗料の特長である VOC 削減などの環境対応や経済性、合理化・省力化はそのままに、ライフサイクルコスト削減を図る長期耐候性粉体塗料
- SB ライズコートシステム
サイディングボードの多彩模様を活かしたまま塗り替えることが可能な外壁サイディングボード用塗り替えクリヤー。

迅展ジャパン株式会社

代表者名 : 代表取締役 小川 周治
住所 : 〒 561-0853 大阪府豊中市服部南町 2-8-33 号

【会社プロフィール】

迅展ジャパンはお客様からの信頼を得るため、安全性、生産性を目指した設計を行います。

会社創業以来、海外市場を主に事業展開しています。

特に中国、東南アジア、中南米などの日系企業様に対し、台湾、中国にある弊社グループ会社と連携し塗装装置の設計・製作・設置工事を進めております。

今後もグループ会社と協同し、お客様のニーズを設計段階で取り入れ安定した価値ある塗装設備を提供していきます。

T E L 06-6868-8681 F A X 06-6868-8682
U R L <http://www.heiphar.com/tw/japan.php>

【事業紹介】

1. 各種塗装装置および付帯装置、コンベアー装置の設計・製作・設置工事
お客様と設計段階より充分打合せを行い、安心・安全な設計を目指します。
またグループ会社の台湾、中国工場で製作することにより高いコストパフォーマンスをお届けします。
2. 海外におけるメンテナンス・サービス事業
海外の日系企業様では日本国内と同様なメンテナンス体制を要望されます。
そのため、アジアやアメリカ・中南米にあるグループ会社の現地法人をベースに迅速でタイムリーなメンテナンス・サービスをお客様に提供します。
3. 塗装プラントに付随する設備機器・装置の輸出入事業
お客様のニーズや規格をクリアーする設備機器・装置を希望される納期に安全にお届けします。

ダイフク株式会社

代表者名 : 代表取締役社長 北條 正樹
住所 : 〒 555-0012 大阪府大阪市西淀川区御幣島 3-2-11

【会社プロフィール】

1937年に創業。日本の産業界の発展とともに成長してきました。市場や顧客ニーズの変化に応じて、つねに新しい物流システム・機器を開発。より有効なマテリアルハンドリングのあり方を追求し、生産・流通にとどまらずサービスなどの分野にも事業の領域を拡大してきました。現在は世界22の国と地域に拠点を置き、グローバルブランドとして事業を展開しています。

【事業紹介】

1957年、日本初のチェンコンベヤシステムで自動車の量産ラインを手掛けて以来、半世紀以上にわたってさまざまな搬送システムや自動化システムでクルマづくりをサポートしてきました。その実績は北米をはじめアジア、ヨーロッパ、南米にも広がり生産・販売・サービス拠点も各地を網羅しています。自動車生産ラインのほぼすべての工程でFAシステムを提供。また、工場内の部品物流においてもマテリアルハンドリング技術を活用し、お客様の一層の生産合理化に貢献しています。

T E L 06-6472-1261 F A X 06-6476-2561
U R L <http://www.daifuku.com/jp/>

【製品名・商品名】

E-DIP (イーディップ)

■特長

クルマの塗装工程の前処理電着ラインでボディの入出槽角度をフレキシブルに変える事ができる電車方式の塗装システム。

■導入によるメリット

槽内でキャリアを揺動しながら搬送するためボディ内のエアポケットをなくすことができ、出槽角度が大きいことで“液のタレ切れ”が良くなり、電着液の持ち出しを低減します。

株式会社塚崎製作所

代表者名：代表取締役 塚崎 哲弘
住 所：〒146-0083 東京都大田区千鳥 2-35-3 号

【会社プロフィール】
1950年に東京大田区にて自動車部品の受託製造を開始して以来60有余年、自動車部品をはじめ産業車両や建設機械部品および塗装機器、設備機器、計装機器などの部品並びに組み立てを行い、精密加工技術の構築により今では幅広い製品の製造を行っております。

【事業紹介】
東京工場
塗装機器、設備機器、計装機器、自動ドアなどの部品製造および組み立て

茨城工場
自動車、産業車両、建設機械、および東京工場取扱部品の製造

T E L 03-3758-2070 F A X 03-3758-1939
U R L http://www.tsukazaki.com/

【製品名・商品名】
精密機械加工製品、各種装置の製造組み立て

■特長
各種製造設備を有し短納期、低コストにて製造体制の確立を行っています。

ツカサ工業株式会社

代表者名：代表取締役社長 中村 泰治
住 所：〒581-0006 大阪府八尾市清水町 2-2-8

【会社プロフィール】
昭和59年（1984年）塗装設備プラント設計製作施工業として会社設立、海外（中国2011年）（ベトナム2015年）工場を置き塗装設備を提供しております。

【事業紹介】
塗装設備機器 設計製作施工
省力化装置 設計製作施工
塗装公害防止機器 設計製作施工
各種燃焼装置 設計製作施工

T E L 072-994-7664 F A X 072-992-8188
U R L http://www.tsukasa-jp.com/

【製品名・商品名】
省エネモニタリングシステム

■特長
サーバーを設置し遠隔にてリアルタイムにエネルギーコストを監視できる。

■導入によるメリット
故障不良の前に予防監視することが可能なため、保全管理が容易になる。

テクノ電気工業株式会社

代表者名：米倉 睦夫
住 所：〒259-1306 神奈川県秦野市戸川 345

【会社プロフィール】
創業65年にわたり培ってきた強電技術により各種変圧器・コイル・電磁石などをとおして学术界や産業界に柔軟な思考と先進技術で製品を提供し科学技術の進歩に貢献してまいりました。
昨年より田淵電機グループに参画し、活動のフィールドをより一層広げるべく事業展開をしております。

【事業紹介】
各種 変圧器、リアクトル、電磁石、コイル、電源、制御盤等の開発、製造、販売

- 変圧器、高圧発生器 産業機器関係 産業用装置 研究用装置など
- 電磁石、空芯コイル 加速器関係 医療機器メーカー、研究機関向けなど
- 高圧電源、制御盤 産業機器関係 焼入れメーカーなど
- 電磁成型 産業機器関係 自動車関連部品など

■特長
各種製品は乾式を始め特に水冷システムを特長としています。回路から生じる熱を導電体である水冷用電線を使い水によって外部に排出することでコイルの小型化を実現できます。磁路長が短くなることで磁気回路（鉄心）も小さく軽くすることができます。

日本ピーシーエス株式会社

代表者名：社長 栗田 洋
住 所：〒329-0522 栃木県河内郡上三川町川中子 109-1

【会社プロフィール】
1966年創業以来、50年に渡り各自動車メーカーをはじめ多くの企業に塗装に関連する機器と設備を納入してきており、その品質及び客先ニーズにおける対応力については大きな信頼を頂いております。
現在は企業のグローバル化に伴い世界各国のメーカーにも我社の製品を納入し使用して頂いております。

【事業紹介】
我社の事業内容については以下のように分かります。

1. 塗料循環装置関係
 - 塗料供給室より使用箇所へ塗料を供給する塗料循環装置の設計施工
 - 塗料循環ポンプ、レギュレーター等機器の製造及び販売
2. 自動化装置
 - 塗装前にゴミを除去する除塵除電装置
 - 製造工程途中の洗車、水切り装置
3. 塗装マシン
 - 各種レシプロマシン
 - ロボット塗装装置及び関連装置

T E L 0463-75-4100 F A X 0463-75-4109
U R L http://www.tecnoweb.jp/

■導入によるメリット
水冷システムの展開により大電流、大容量の需要に対し従来にはない小型軽量化が図れます。
発熱部の熱はすべて外部に排出されるため製品として非常に安定したものになります。

【その他】
ニュートリノ振動実験施設の装置として納入した大電流パルスストランスや電磁石の開発、製造の功績に対し小柴先生のノーベル賞受賞の後、高エネルギー加速器研究機構様から感謝状を頂きました。

T E L 0285-56-2256 F A X 0285-56-2257
U R L http://www.j-pcs.com/

【製品名・商品名】
1. 塗料循環装置
<特長>
塗料の沈降分離を防ぎ均等な状態でスプレーガン、静電塗装機に供給する。
<メリット>
塗料の品質管理、有機溶剤等による障害の防止、防災、安全衛生。
2. 自動化装置（例：除塵除電装置）
<特徴>
ダチョウの羽根、特注ブラシ等を使用し、ワークを傷付けず微細なゴミを除去、また除電装置を併用することで静電気による障害なくす。
<メリット>
連続、多面積な塗装面においても、確実なゴミの除去及び省人化、品質の均一化をはかる。

【その他】
塗装マシンについては国内及び海外メーカー各社へ長年に渡り多数の納入実績があり、その品質、寿命において多大な信頼を得ております。

日新産業株式会社

代表者名： 黛 精一（マユズミ セイイチ）
住 所：〒 373-0821 群馬県太田市下浜田町 1085-39

T E L 0276-45-4555 F A X 0276-46-1202
U R L http://www.nisshin-ind.com/

【会社プロフィール】

創業 1964 年、昨年で 52 期を迎えました。
この間に表面処理設備、公害防止設備・塗装機器・機械設備の一貫ラインの設計施工、メンテナンスでお客様の要望に応えさせて頂きました。今後も一層の努力を社員一同続けてまいります。

【事業紹介】

1. 塗装一貫ラインのエンジニアリング及び施工。
前処理装置、塗装設備（粉体、溶剤、電着）、乾燥炉、搬送装置等。
2. 塗装機器、機械、消耗品の販売と修理。
3. 設備・機器（ポンプ、ファン、バーナー等）のメンテナンス（点検、修理）。

【その他】

- 海外（韓国、中国、タイ国）等で電着塗装設備等の実績多数、それぞれに現地パートナーあり、日系企業の計画をサポート。
- ISO 9001;2008 2014 年認証取得

株式会社日本ブロー

代表者名：野嶋 俊二
住 所：〒 581-0042 大阪府八尾市南木の本 5-2

T E L 072-929-2556 F A X 072-929-2557
U R L

【会社プロフィール】

創業以来非静電塗装機器に関わり続けて、機械加工等の培った技術により様々な御要望にお応えしております。

【製品名・商品名】

各種非静電塗装機器の部品、製造等

■特長

各種機械加工及び製造、アッセンブリー等、御要望に合わせて提供します。

■導入によるメリット

御要望に合わせた、各種非静電塗装機器部品、製造、アッセンブリー等を行えます。

【事業紹介】

各種非静電塗装機器の部品製造等を行っています。

Panweld Sdn Bhd. (パンウェルド)

A name of representative : Rodney Yee
An address : 1 & 3, Jalan Nilam 1/8, Subang Hi-Tech Park, Subang Jaya 47500, Selangor. Malaysia

T E L 603-56371833 F A X 603-56386790
U R L http://www.panweld.com/web/

【Company profile】

A leading engineered equipment & turnkey painting lines supplier in Malaysia since 1975. One of the pioneer companies supplying to the Malaysian automotive industry since the early days of vehicle assembly for both OEM & contract assemblers. Currently also involved in the aviation MRO industry as well as plastics & ceramics.

【Business introduction】

We have represented many renowned brands in the fields of substrate coating for paint application such as Devilbiss, Binks, Ransburg, BGK, HOSCO and specialized adhesive application equipment such as SCA. We also work with two of the more renowned Japanese paintshop line builders as their local contract manager and also to provide local fabrication, installation & assist with line commissioning.

【Product name and brand name】

Devilbiss – airspray equipment,
Binks – fluid handling/transfer equipment,
Ransburg – wet electrostatic coating equipment,
Hosco – specialized hose/pipe fittings & accessories,
SCA – adhesive application equipment / systems

■ The feature

We aim to continue to bring innovative & specialized engineered equipment & solutions that are more efficient / cost effective / saves materials & provide for a safer, greener and better environment for future generations.

■ The merit by the introduction

Awarded by our Japanese customers for assisting them for quick line start up after a prolonged line stop caused by fire damage that required extensive repairs done in a very short time.

株式会社ボクテック

代表者名：河原申治（かわはらのぶはる）
住 所：〒 471-0845 愛知県豊田市田中町 5-2

T E L 0565-27-3337 F A X 0565-27-3935
U R L http://www.boquetec.jp/

【会社プロフィール】

昭和 48 年創業者個人で発足以来、電気制御の設計施工で各ユーザー様に可愛がって頂き、一般機械設備の制御は勿論の事、塗装設備や流体設備の制御まで幅広い分野で活躍させて頂いております。

現在は S / V も含め海外の物件も対応、展開しております。設計当初より私共の担当とお客様とでコスト低減や安全面を共に検討し関係強化に注力しています。

【事業紹介】

制御設計部 : ユーザー様の思いが制御装置となる様な設計を目指しております。

制御盤組付 : 弊社で設計した物件をハード製作する心臓部の組付です。

各種配線工事 : 制御盤と設備装置の血流部分です、各種信号や動作の配線となります。

調整試運転 : 思いが各種動作となる、頭脳を入力し最終調整、動作安全確認です。

【製品名・商品名】

電気制御盤・動力盤・各種電気部品・省エネ、防犯機器・エアー機器、盤・各種電気配線・エアー機器ハイゴム軽設備化工製作設置・活性カルシウムネット販売（水処理）

■特長

活性カルシウムネット（水処理）は循環水などの水処理ネットです。

水酸化カルシウム、花崗斑岩、フィルターをネットで一体化し流水の途中に設置します。

投入してから 12 年以上の実績があり錆やコケの発生を抑える効果があります。

大手自動車工場でも品番登録されご使用頂いております。

■導入によるメリット

錆やコケの発生を抑える為、貯蔵タンクや配管の寿命が長くなります。

薬剤や清掃費用が抑えられます。

松尾産業株式会社

代表者名：代表取締役社長 松尾 俊彦
住 所：〒 541-0053 大阪市中央区本町 3-5-7 御堂筋
本町ビル 5 階

【会社プロフィール】
1938 年に塗料原料・非鉄金属の販売を目的に創業して以来、
塗料顔料のみならず電子機能材・光学部品・自動車部品等の
輸出入および国内販売と活動の幅を広げてまいりました。
また、アジア・アセアン地域へ現地法人を設立し、日系企業
はもとより現地ローカル企業にも広く販路を拡大しております。

【事業紹介】
光輝顔料・添加剤等を日本と海外を繋ぐネットワーク体制を
活かし経験と実績に基づき販売

1. 光輝顔料：アルミニウムペースト、合成パール、ガラス
スプレーク
2. 添加剤：(湿潤分散剤・レオロジーコントロール剤・
特殊剤ほか)

T E L 06-6261-1212 F A X 06-6261-1102
U R L http://www.matsuo-sangyo.co.jp/

【製品名・商品名】
● アルミニウムペースト
● 添加剤（湿潤分散剤・レオロジーコントロール剤・
特殊剤 ほか）

■特長
アルミニウムペーストは、主に塗料や印刷インキの顔料とし
て使用され、環境保全のために開発された水性タイプの製品
や、発色性アップ、機能性に優れた製品も開発されています。

■導入によるメリット
添加剤（湿潤分散剤）は、分散が難しいとされているカーボ
ンブラックやベリレンやキナクリドンの顔料分散に適した高
分子系のウレタンオリゴマーの分散剤です。プラナー（平面）
構造の芳香族ベンゼン環上に電子リッチになっており分散す
る顔料との電子相互作用で安定化され、溶剤系・水系塗料に
使用できます。

株式会社ミトミ技研

代表者名：代表取締役社長 八木澤 幸雄
住 所：〒 243-0034 神奈川県厚木市船子 1100-1

【会社プロフィール】
1982 年創業以来、OEM 商品の開発や研究、製造に携わり、
時代のニーズを的確に捉え、ブランドビルディングを支えて
きました。
現在、コンピュータ関連機器を応用した各種制御装置、総合
システムなど、ソフトからハードまでのあらゆるシーンにお
いてエレクトロ技術を展開しております。

【事業紹介】
1. 出入管理システム（セキュリティ関連）の設計・製造・
販売
2. 塗装機制御装置の設計・製造・販売
3. 自動消火システムの設計・製造・販売
4. データロガーの設計・製造・販売
5. 農業用カミナリ発生装置の設計・製造・販売

T E L 046-290-3363 F A X 046-248-1515
U R L http://www.mitomi.com/

【製品名・商品名】
1. 非接触カードリーダ（A 社 OEM 商品）
2. 塗装機用制御装置（B 社 OEM 商品）
3. スプリネックスミニ自動消火システム用制御基板
（C 社 OEM 商品）

【その他】
1. 神奈川県先端技術開発奨励補助金交付事業
（平成 6 年度交付決定）
2. 神奈川県先端技術開発奨励補助金交付事業
（平成 9 年度交付決定）
3. 科学技術振興事業団独創的研究成果育成事業
（平成 10 年度交付決定）
4. 新技術開発財団新技術開発助成事業
（平成 22 年度交付決定）
5. 中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス
革新事業（平成 25 年度補正交付決定）

株式会社メサック

代表者名：代表取締役社長 水川 政明
住 所：〒 374-0123 群馬県邑楽郡板倉町大字飯野 139

【会社プロフィール】
1979 年の創業以来、静電応用機器の製造販売を主にしてき
ました。所在地は熱所で近年有名になった群馬県館林市近隣
に所在をしています。

【事業紹介】
静電応用からなる、静電塗装機、静電植毛装置、電界 Power
（粉体塗装機）を主製品とし、装置に纏わる高電圧発生器、
高電圧遮断器を自社で開発製造をしています。
主には加飾分野で静電塗装やスプレー塗装で機能塗装分野、
ナノコート分野等へ、静電植毛からは機能、加飾分野へ幅広
く提案しています。
また帯電付与の技術から材料の静電付着、飛翔、アンカー
リング等を付与する用途へも分野を広げています。

【製品名・商品名】
1. 静電塗装機『ARG-60』
■特長
低圧霧化技術と静電効果を融合させた高塗着の塗装機です。
また低抵抗塗料などの分野では電流制御をコントロールして
有効的に静電効果を発揮します。
■導入によるメリット
電圧降下が非常に少ない事から、有効電圧が高く塗料を選ば
ない装置です。

T E L 0276-82-2206 F A X 0276-82-2282
U R L http://www.mesac.co.jp/

2. 植毛機『電界制御植毛装置』
■特長
コンベアー対応の連続植毛装置が可能です。また年間を通じ
安定した植毛加工を自動加湿装置を設ける事で可能にしまし
た。
■導入によるメリット
連続運転とパイル回収を同時に行い、生産性を損なう事無く
可能としています。
高電圧発生器は、高電流型を搭載していますので幅広いパイル
サイズを選べます。

3. 高電圧発生器『HV10 特』
■特長
電圧 80KV3mA まで用途に合わせ設計、製作が可能です。
■導入によるメリット
高電圧遮断機、極性切替機、接地装置、安全抵抗器など付帯
する機材もご提案が可能です。

ヨコハマ技研株式会社

代表者名：高野 文則
住 所：〒 332-0015 埼玉県川口市川口 6-8-9

【会社プロフィール】
弊社は高粘度の接着剤自動塗布技術に取り組んでいます。
自動車の軽量化に伴う、樹脂パネル、強化プラスチックの
構造用接着、接合技術、高速塗布など実用化しています。

【事業紹介】
関連会社
ヨコハマ技研インターナショナル株式会社
ヨコハマ技研（タイランド）株式会社
シーリングシステムズ株式会社
日本特機株式会社

T E L 048-240-5600 F A X 048-240-5601

【製品名・商品名】
ショットポンプ（ギヤーポンプに代わる定量供給装置）
2 液計量混合塗布装置
■特長
高精度の塗布量制御と高速塗布を実現しています。

■導入によるメリット
メンテナンス費用の軽減と高精度の塗布量制御により接着剤
の使用量軽減ができます。

【その他】
構造用接着剤、シール材 2 液混合等にも対応致します。

Langtech (Guangzhou) Machinery Co. Ltd (ランテック)

A name of representative : Stephen Cheung
An address : 17 Nan Yun Yi Lu, Science City,
Da Guan Lu, Guangzhou, China

T E L 86-20-82075708 F A X 86-20-82075677
U R L <http://www.langtech-sf.com/>

【Company profile】

Langtech (Guangzhou) is specialized in the design and integration of Ransburg Electrostatic Painting Systems in China under a license agreement with Ransburg Industrial Finishing K.K.

【Business introduction】

Solution and system supplier of manual/automatic equipment to the general industry and automotive parts industry. Our fully equipped laboratory performs process tests for different materials and difficult products to ensure proper system configuration to achieve optimum finishing results.

【Product name and brand name】

Ransburg bells and guns, Ω Disk type equipment to incorporate with reciprocators or painting robots.

■ The feature

Systems are designed and built to the specific requirement to meet customer needs. Our systems are highly efficient and reliable at reasonable investment cost.

■ The merit by the introduction

Material and labour saving for cost effective production. Process proven system configuration in our test laboratory to minimize project risk and reduce installation and commissioning time.

【Topics】

22 patents are awarded so far
High-tech Enterprise Certificate was rewarded by the Government in 2013.
Technology Enterprise Certificate was awarded by the Government in 2014.

ロックペイント株式会社

代表者名：代表取締役社長 内海 東吾
住 所：〒555-0033 大阪市西淀川区姫島 3-1-47号

T E L 06-6473-1551 F A X 06-6473-3110
U R L <http://www.rockpaint.co.jp/>

【会社プロフィール】

当社は、創業以来「高品質の塗料を適正価格で提供すること」を基本に、たゆみない技術開発と着実な営業努力を積み重ね、常に無借金体制を基本とした堅実で安定した経営を行ってきました。そうした経営基盤の背景には「機械にできることは機械に任せ、社員には人間本来の能力・創造力を大いに発揮してもらう」との経営理念に基づいた、省力化・合理化さらには効率化の徹底した追求があります。

【事業紹介】

塗料及び接着剤の製造販売

- 車両用塗料・・・自動車補修用塗料の販売及び補修塗装に必要な計量調色データを迅速かつ正確に伝える各種サービスの実施。
- 建築用塗料・・・環境に配慮した製品群の開発。建物の塗り替えの際に視覚でご提案するカラープランニングや塗膜診断による改修のご提案など。
- 工業用塗料・・・家電製品、鋼製家具、配電盤など工場ラインに塗装する製品。近年はCO₂削減などのニーズから粉体塗料の拡販。
- 家庭用塗料・・・ご家庭で使いやすく、より安全性の高い製品の販売提供。建物外壁の長寿命化と美粧性を兼ねた塗料製品。

【製品名・商品名】

- タフロック 7000 番級（低温硬化型ポリエステル樹脂系粉体塗料）
- タフロック ジンクリッチパウダー（エポキシ樹脂系ジンクリッチ粉体塗料）

■ 特長

- タフロック 7000 番級・・・低温焼付が可能で、省エネルギー化、CO₂低減に有効。ブロック剤を使用していないため、煙やヤニ及びPRTR指定物質を低減可能。
- タフロック ジンクリッチパウダー・・・亜鉛メッキや無機ジンクリッチペイントと比較し遜色ない耐食性が得られる。帯電方式（コロナ・トリボ）を選ばず使用可能。

■ 導入によるメリット

VOC成分を含まない塗料製品。ユーザーニーズに対応した高付加価値製品としてご提供が可能。

【その他】

- 工業用接着剤・・・軟包装ラミネート用接着剤の製造販売。菓子類をはじめ、冷凍食品、レトルト食品、トイレタリー製品のほか、各種工業用製品などの幅広いパッケージ用途に多数実績。

【ネット会員】

S.E.A. Olympus Marketing Inc. (S.E.A. オリンパスマーケティング)

A name of representative : Nicholas W Wu
An address : 17 A, 1st avenue, bagumbayan,
taguig City, Philippines

T E L +63 2 837 0708
U R L <http://www.olympus.com.ph/>

【Company profile】

Our company always look for innovative products. We make sure that what we sell now will be make the future of our next generation. We wanted to preserve the environment by selecting good product that will cause less hard to our world.

【Business introduction】

Anything that need to be coated is our business. Whether it' s a wood, metal, plastic or a concrete. We have the equipment to provide.

【Product name and brand name】

Electrostatic system : Ransburg
Airless spray system: Titan
LVMP/HVLP: Devilbiss

■ The feature

All the system reduces a lot VOC and high transfer efficiency
Gives better quality finish and lower materials consumption
Light and easy handling by the applicators

■ The merit by the introduction

The output of the workers will be higher.
The quality is much better thus making it more appealing to the end users
ROI is much faster and profitable.

ダイヤアクアソリューションズ

代表者名：代表取締役社長 山田 精司
住 所：〒100-0006 東京都千代田区有楽町 1-7-1
有楽町電気ビル南館 5階

T E L 03-5224-4871 F A X 03-5224-4873
U R L <http://www.dia-aqua.co.jp/>

【会社プロフィール】

弊社は三菱ガス化学(株)が開発した高性能の水処理剤を軸に、長年にわたり蓄積した知識・経験及び卓越した技術サービスにより、お客様に安心と信頼をお届けしています。主力の水処理剤以外にも、環境薬剤としてCOD低減化助剤、消臭剤、含ホウ素廃水処理剤、塗料不粘着化剤と幅広くユニークな商品を取り揃えています。

【事業紹介】

1. 湿式塗装ブース用塗料処理薬品の製造および販売
2. 冷温水等の熱交換機器・配管などの防食剤の製造および販売
3. 水冷式冷却塔用処理法の企画、設計、薬品の製造および販売
4. その他、環境関連薬品の製造および販売

【製品名・商品名】

1. 湿式塗装ブース用塗料処理薬品「ネオソル」シリーズ
2. 冷却塔水処理剤「コントライムM」シリーズ
3. 洗浄剤「デスライム」シリーズ
4. 防食剤「コントライム K-6000」シリーズ

■ 特長

「ネオソルシリーズ」は2種類あります。ブース水に蓄積する塗料滓に対して不粘着効果を発揮する剤（キラー剤）と、腐敗したブース水から発生する悪臭を除去または低減する剤（消臭剤）であり、どちらも使用効果が高く好評を得ています。

■ 導入によるメリット

薬品を定期的に添加することで湿式塗装ブースの安定運転が可能となり、ひいては塗料製品の歩留向上も見込まれます。一方、悪臭の発生も抑えられるため、作業環境の向上や環境に配慮した工場運営も実現できます。

【その他】

「InterAqua」「機能性コーティングフェア」「びわ湖環境ビジネスメッセ」等の展示会に、毎年出展いたしております。お時間がございましたら、是非、弊社のブースに足を運んで頂けると幸いです。

年表

1974-1995

1970s

▶ 1974.7 「日本塗装機械工業会」発足、原点となる

在阪の塗装機器・設備メーカーの出先機関が中心となって「日本塗装機械工業会」が設立された。そして明治機械製作所社長丸川博氏が会長として2年間にわたって活発に活動した。



1976年8月24日 設立総会
岩田塗装機工業(株)本社会議室

▶ 1976.8 「日本塗装機械工業会」設立

その後、この会は発展的に解消し、新たに各企業のトップで構成する全国組織の「日本塗装機械工業会」を設立すべく、岩田塗装機工業(株)岩田社長、旭大隈産業(株)甘利社長、松尾産業(株)松尾社長が代表となり、発起人会が開催された。8月24日、18社の会員加入を得て、「日本塗装機械工業会」が始動した。初代会長に岩田塗装機工業(株)岩田社長が選出された。



1977年 第1回年次総会 名鉄犬山ホテル

▶ 1976.10 「英文名称を CEMA に決定」

1976年10月14日 第一回理事会にて英文名称を CEMA に決定

1980s

▶ 1981.6 「創立5周年記念」

関係団体・報道機関をお招きし、創立5周年記念パーティを高輪プリンスホテルで開催し、会員相互の連帯感が大いに醸成された。



1981年6月17日 創立5周年記念パーティ 東京プリンスホテル

表面処理総合展

▶ 1981.11 「表面処理総合展」

工業会として表面処理総合展に出展した。

▶ 1982 経済セミナー、塗料研修会継続開催

- ・1981.7 最近の自動車塗装の動向 関西ペイント 富山忠氏
- ・1981.10 自動車塗装の現状と今後の課題 豊田自動車 伊神英逸氏
- ・1982.4 建築塗装の現状と問題点 日本塗装工業会 高橋考治氏
- ・1983.1 塗装工業の中期的展望 日本塗装工業会 立花鹿雄氏



1982年経済セミナー

▶ 1983

分科会活動が軌道にのって「塗着効率標準測定法」を作成し実用化を進めた。スプレーガンのJIS規格改定案を工業技術院に提出した。



1983年3法案
「自動塗装機の塗着効率標準測定法」
「手動塗装機の塗着効率標準測定法」
「塗料消費料の標準測定法」

1980s

▶ 1983.5

19日共通のユーザーに貢献し、相互の経営発展を目的に、日本塗料商業組合に呼びかけて、初の懇談会を開催した。31日設備分科会準備委員会が発足し、初の会合を岩田塗装機本社で開催した。

▶ 1984

設備分科会で「報告会員制度」を企画し非会員の設備メーカーに参加を呼びかけた。

▶ 1984.6

1日～4日表面技術総合展 METEC'84 に工業会として出展した。

▶ 1985

設備分科会の「報告会員制度」の趣旨に賛成して頂いた非会員設備メーカーに、協賛メンバーとして加入を呼びかけた。



1989年1月19日新年互礼会
名古屋キャッスルプラザホテル

▶ 1986

塗装設備出荷統計開始 設備分科会 23社と協賛メンバー 11社で設備出荷金額統計を実施した。

▶ 1987.1

日本工業塗装協同組合連合会と初の懇談会を開催 於：東洋ホテル

▶ 1987

合同技術部会
「紛らわしい用語を明確にする塗装用語集」を取りまとめ小冊子を発行、カタログ表示の基準統一化に着手



松尾会長、甘利、岩田副会長

▶ 1988.6

第12回年次総会で10年間に亘って会長職をつとめられた CEMA の基礎づくりにご尽力された岩田一也氏が退任され松尾一郎氏が会長職に就任された。



1989年6月8日第13回年次総会
熱海新かど旅館

▶ 1989

日本工業新聞主催の「サブテックス'89」「表面技術総合展」「PRO WOOD FAIR'90」に協賛参加した。

1990s

▶ 1991

夏から新組織による活発な工業会活動が始動し、日塗工との協議機関である M&E 協議会もこの年に発足した。



1991年11月6日第13回科学機器展「テクノ大阪'91」に工業会として出展

▶ 1992

CEMA 規格としての「エアレスガンの JIS 化」草案を作成し実施した。

▶ 1994

6年に亘って会長職をつとめられた松尾一郎氏が退任され、新会長に甘利祐三氏が就任された。

▶ 1995

「悪臭防止ハンドブック」の編集発刊。
CEMA 製機委員会及び(株)日本塗料工業会共同編集。
「公害防止ガイドブック」の編集発刊。
CEMA 技術部会環境分科会編



1995年「日本塗料・塗工業展覧会」に CEMA が後援 上海

1996

▶ 1996.6 「第 20 回記念年次総会」

会員会社 82 名と言う多数の出席のもと、第 20 回記念年次総会が開催された。甘利会長は、議案の審議に先立って、『当工業会が成人式を迎えたことを機会に、工業会のあるべき姿の表現として、会員の総意によるビジョンづくりに取り組み、工業会の理念と目標を内外にアピールすること』を宣言した。



第 20 回記念年次総会



榎谷課長 甘利会長 増田常務理事

▶ 1996.6 「設立 20 周年記念パーティー開催」

総会終了後、甘利会長は、式辞で CEMA は「重要な文化的価値と科学機能を持つ仕事に大きく貢献しているということに、誇りと自覚を持つべきではないだろうか。更に、市場が真に求めているものは、塗料という縦糸と塗装機械・塗装設備という横糸が絶妙に織り出す「優れた塗膜」という織物であって、その優れた塗膜を生成する「塗装技術」の向上とその普及こそが私達 CEMA が目指す活動の目的でなければならない」と決意を述べ、通産省 機械情報産業局(現 経産省) 榎谷栄吾課長(補)より来賓祝辞を頂き、(社)日本塗料工業会 増田利平常務理事の乾杯で開宴した。



甘利会長、岩田・松尾両副会長、立礼でお客様のお出迎え



「和田弘とマヒナスターズ」のムード歌謡とハワイアンの演奏

1997

▶ 1997.4 「第 5 回技術講演会」



関西ペイント

▶ 1997.6 「第 21 回年次総会」



花水木

1998

▶ 1998.4 「ペイントショー出展」



▶ 1998.6 「第 22 回年次総会」



名鉄犬山ホテル

1999

▶ 1999.1 「新年互礼会」



新横浜グレイスホテル

▶ 1999.6 「第 23 回年次総会」



CEMA 改革についてのフリーディスカッション

▶ 1999.10 「合同部会」



アネスト岩田伊豆保養所

2000

▶ 2000.1 「新年互礼会」



名鉄ニューグランドホテル

▶ 2000.6 「第 24 回年次総会」



新横浜グレイスホテル



「新しい塗装実務ハンドブック入門編」を発行 (CEMA 技術部会)

2001

▶ 2001.4 CD-ROM 「塗膜欠陥と対策の手引き」発行



CEMA 技術部会

▶ 2001.5 「ISO14001 認証・取得のための塗装ハンドブック」を発行



CEMA・日本塗料工業会 M&E 協議会 編集発行

▶ 2001.8 「CEMA ホームページ開設」



2002

▶ ホームページの活用



出荷統計をホームページにて投票開始

▶ 2002.6 「第 26 回年次総会」



名鉄 NGH 内海温泉

2003

▶ 2003.6 「第 27 回年次総会」



新横浜国際ホテル

▶ 2003.11 「合同部会」



京都「きよみず」

2004

▶ 2004.6 「第 28 回年次総会」



新横浜国際ホテル

▶ 2004.11 「合同部会」



京都「きよみず」

2005

▶ 2005.1 「新年互礼会」



名鉄ニューグランドホテル

▶ 2005.6 「小池環境大臣から VOC 対策を依頼される」



▶ 2005.6 「第 29 回年次総会」



名鉄ニューグランドホテル

▶ 2005.7 「第 6 回技術シンポジウム」



日本ペイント東京センタービル



日本パーカーライジング清里保養所

その他

- ▶ 総合表面技術博覧会 SURTECH 協賛 (2005.4)
- 東京都環境局の WG に参画
- 合同部会 (2005.7 横浜メルパルク)
- 出荷統計をホームページにて公表
- 「塗装用語」「FAQ」の充実

2006

▶ 2006.6 「第 30 回年次総会」



30 周年記念懇親会



30 周年年次総会集合写真



30 周年記念懇親会



30 周年記念懇親会 2 次会

▶ 2006.11 「合同部会」



京都「きよみず」

2007

▶ 2007.11 「合同部会」



清里での親睦ゴルフ

▶ 2007 「カラオケ懇親会」



2008

▶ 2008.1 「新年互礼会」



▶ 2008.11 「西島製作所の大阪本社工場」



▶ 2008.6 「第 32 回年次総会」



総会のあいさつに立つ小林茂会長



菅原一雄副会長退任のため花束贈呈

巻頭のあいさつに立った小林茂会長は「工業会設立 30 周年の節目から 2 年目を向かえ新たに生まれ変わって行きたい。今年は原油高騰による材料等の値上げが続く厳しい船出となったが、付加価値のある商品づくりと技術サービスなど会員各社の企業努力に期待したい。CEMA としても、「塗装技術の向上・普及」「安全・環境への取組」「塗装機器・設備業界の地位向上」という三つの切り口から活動を推進し、若い会員が増えてきたので、その力を工業会のために育成したい」との抱負を強調された。また、平野克己専務理事の司会進行で開催された総会では、正会員 25 社のうち 19 社が出席（委任状 4 社）して成立、第 1 号議案から第 5 号議案までが滞りなく満場一致で承認された。

本工業会は、内部活動を中心に地道な活動を実施してきているが、対外的にも環境問題を中心に、日本塗料工業会や日本工業塗装協同組合連合会などの関係団体との情報交換の場を設けたり、ホームページ (<http://www.cema-net.com/>) による塗装機器出荷統計などの情報発信、シンポジウムの開催などで成果を挙げている。



横浜での総会ゴルフ大会

2009 ▶ 2009.6「第33回年次総会」



年次総会は、平野克己専務理事の司会で開会宣言が行われ、小林茂会長（ノードソン代表取締役社長）のあいさつの後に、第1号議案・2008年度の事業報告が行われ、承認された。続いて、第2号議案・2008年度会計報告案、第3号議案・2009年度事業計画案の報告、さらに第4号議案・2009年度会計予算案が報告され、全会一致で承認された。引き続き、総会後には同ホテルの“ヒルトップ”の間で恒例の懇親会が行われた。懇親会には、会長・副会長をはじめ、会員41名、来賓4名、報道5名が参加、業界は依然として厳しい経済情勢にあるものの会員相互が和やかな雰囲気ですと時の宴（うたげ）を満喫した。パーティーに先立ち、昨年来療養中の紺野利夫事務局長より、力強いカムバック宣言があり事務局のさらなる充実を図りたいとの決意が述べられた。小林会長のあいさつでは、「経済情勢はやや回復基調にあるものの、塗装業界はタイムラグがある。それぞれの企業が他の業種とのコラボレーションを図って、さまざまな提案をしていきたい」との抱負が述べられた。乾杯の首領は、甘利昌彦副会長（旭サナック代表取締役社長）。「小林会長の長期政権のサポート役として尽力したい」とユニークなあいさつが会場から爆笑を誘った。来賓からは、工塗連の山崎会長より、CEMAへの将来の期待を込めて熱いエールが送られた。



2010 ▶ 2010.6「第34回年次総会」



年次総会は、平野克己専務理事の司会で開会宣言が行われ、小林茂会長のあいさつで始まった。まず、2009年度の第1号議案の事業報告が行われ、承認された。第2号議案では、会計/監査報告案が承認された。第3号議案では、役員改選案が提出され、理事会社10社の再任と、関西ペイント㈱と日本ペイント工業用コーティング㈱が理事会社として推薦され、新任となった。今回の年次総会で注目されたのは、役員改選である。3期6年を務めた小林茂会長の任期満了に伴う会長退任が承認され、新会長に里見多一氏（日本パーカライジング㈱副社長）の新任が承認された。新会長の指名により、副会長3名（甘利昌彦氏（旭サナック代表取締役社長（再任））、壺田貴弘氏（アネスト岩田代表取締役社長（再任））、木下真生氏（ランズバーグ・インダストリー代表取締役社長（新任））が承認された。専務理事は平野克己氏が再任。16時から懇親会が執り行われた。新任の里見会長のあいさつに始まり、乾杯の首領は同じく副会長に就任した木下氏。ジョークを交えたトークに会場が和んだ。続いて甘利副会長のあいさつの後に、小林前会長の6年間にわたるCEMAへの熱い思いが語られた。小林氏には任期間の労をねぎらうべく、事務局の広信社から花束が贈呈された。

▶ 2010「工業塗装高度化協議会」の支援合意



▶ 2010.12「合同部会」



京都



日本工塗連山崎会長とCEMA 里見会長

2011 ▶ 2011.1「新年互礼会」



あいさつに立つ里見多一会長

▶ 2011.6「第35回年次総会」



総会のあいさつに立つ里見多一会長



大気環境保全活動の推進に対する表彰
(大気汚染防止推進月間の表彰)

前年のリーマンショックの影響が落ち着いた矢先、3月の東日本大震災の発生で景況は再び先行きが不透明となり、CEMAも会員の退会等が続いたが、設備部門での出荷統計では輸出が国内を上回り、日本企業の海外市場への事業展開が見て取れる。しかし、CEMAと日本工業塗装協同組合連合会による「工業塗装高度化協議会」においては、VOC削減等の活動の成果が認められて環境省から2件の表彰を受け、存在感を示すことができた。巻頭のあいさつで里見多一会長は「東日本大震災で被災された人々を少しでも元気づけ、CEMAとしても業界の地位向上に努め、会員の増強と出荷統計の精査、省エネ・環境問題への取組など35年目を迎える節目に、時代に即した事業計画を進めたい」旨を述べられた。

2012 ▶ 2012.6「第36回年次総会」



新任の抱負を述べる木下真生新会長



工業塗装高度化協議会会長懇談会
(CEMA、日本工塗連、パウダー協)

この年の年次総会では、任期満了に伴う役員改選が行われた。新会長は木下真生氏（ランズバーグ・インダストリー代表取締役社長（新任））が就任、副会長には甘利昌彦氏（旭サナック代表取締役社長）、同じく壺田貴弘氏（アネスト岩田代表取締役社長）がそれぞれ再任、専務理事には平野克己氏（再任）が承認された。

▶ 2012.10「賛助会員交歓会（シンポジウム）」



交歓会風景



交歓会風景

▶ 2012.12「合同部会」



サントリー山崎工場見学



サントリー山崎工場見学

2013

▶ 2013.4 「交流会」



隅田川屋形船



スカイツリー見学

▶ 2013.6 「第 37 回年次総会」



木下真生会長と田口壮氏

第一部の総会では、2012 年度の事業報告が行われ、承認された。このあと、2013 年度の事業計画案が承認された。その中でも新部会の充実、恒例のシンポジウムの開催、外部活動の展開などが紹介された。第二部では、特別講演として元・メジャーリーガーの田口壮氏を招いて「何苦楚の気持ち ～超ポジティブシンキング～」と題した氏の選手時代の挫折や苦労の中でのプラス思考がもたらした苦境打破の経験談が披露された。懇親会では、木下真生会長より 2013 年度の CEMA 運営の豊富が語られ、CEMA も現在の経済の上昇気流に乗って“セマノミクス”を発揮したいとユーモアで結んだ。引き続き、来賓を代表して（一社）日本塗料工業会の橋本光正専務理事よりあいさつがあり「CEMA 会員相互の技術開発の向上により、塗着効率がアップしたことは塗料の売上げが減った一つの理由です」というウイットの利いたトークで会場を和ませた。乾杯の首頭は、元会長の佐々木英治氏（タクボエンジニアリング(株)代表取締役社長）。CEMA の今後の発展に大いに期待したいと語った。



2014

▶ 2014.1 「新年互礼会」 ▶ 2014.1 「ASTEC-CEMA 塗装ワールド」



北京五輪男子 400m メドレーリレーの銅メダリスト宮下純一氏の講演



テープカット風景

▶ 2014.6 「第 38 回年次総会」



元オリンピック選手荻原次晴氏

▶ 2014.4 「交流会」



日光

▶ 2014.11 「AMG 懇親会」



2015

▶ 2015.1 「新年互礼会」



大谷由里子氏



奴間伸茂氏



川西克司氏



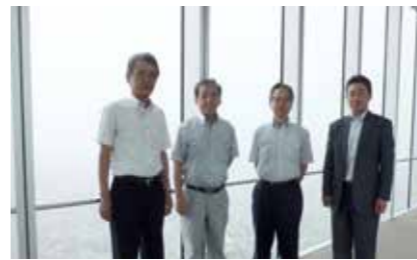
乃一稔氏

▶ 2015.1 「ASTEC-CEMA 塗装ワールド」



会場風景 (東京ビッグサイト)

▶ 2015.07 「合同部会」



あべのハルカス



祇園祭り



懇親会 (メルパルク大阪)

2016

▶ 2016.1 「新年互礼会」



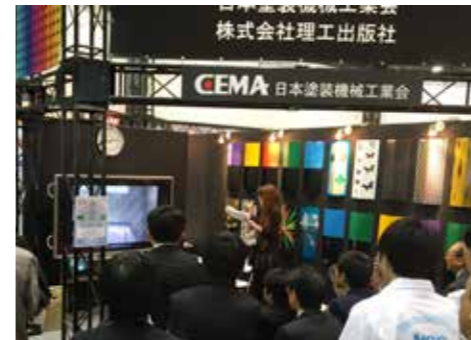
湯浅卓氏



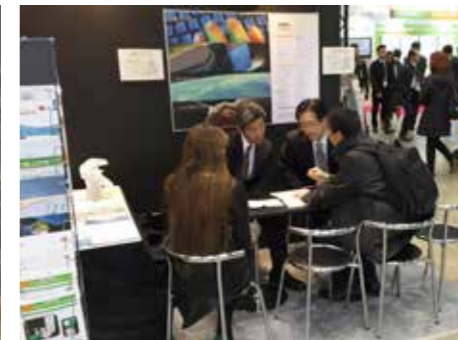
来賓の挨拶



▶ 2016.1 「ASTEC-CEMA 塗装ワールド」



会場風景 (東京ビッグサイト)



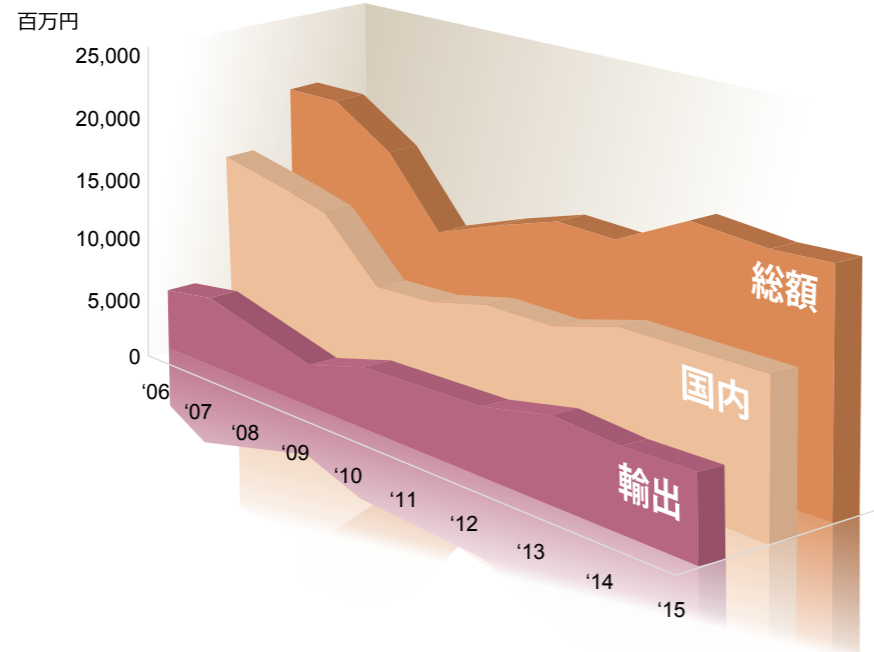
相談コーナー



着ぐるみ

出荷統計

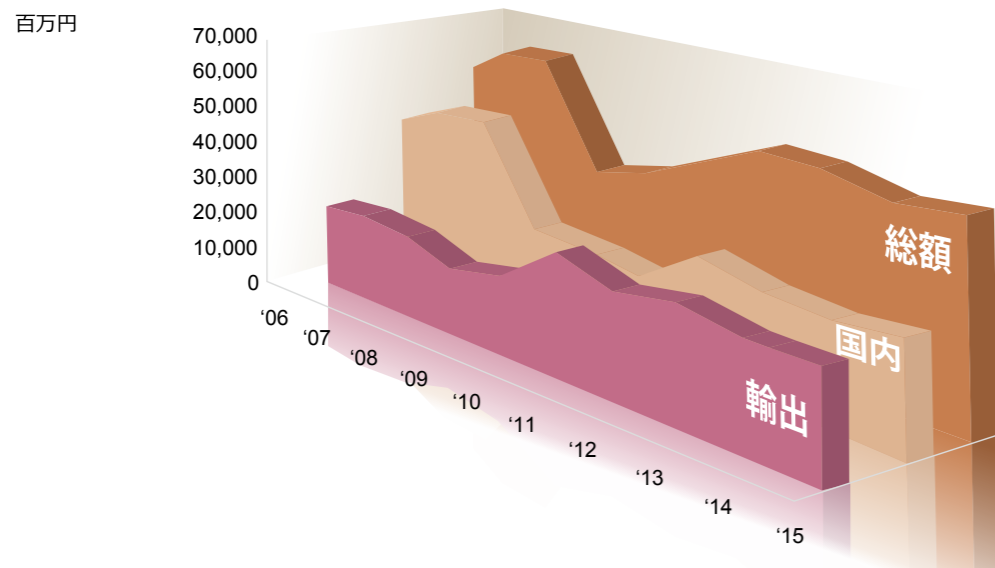
塗装機器出荷金額



< 参考 > 投票社数

'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15
10	10	10	10	9	9	9	9	9	9

塗装設備出荷金額

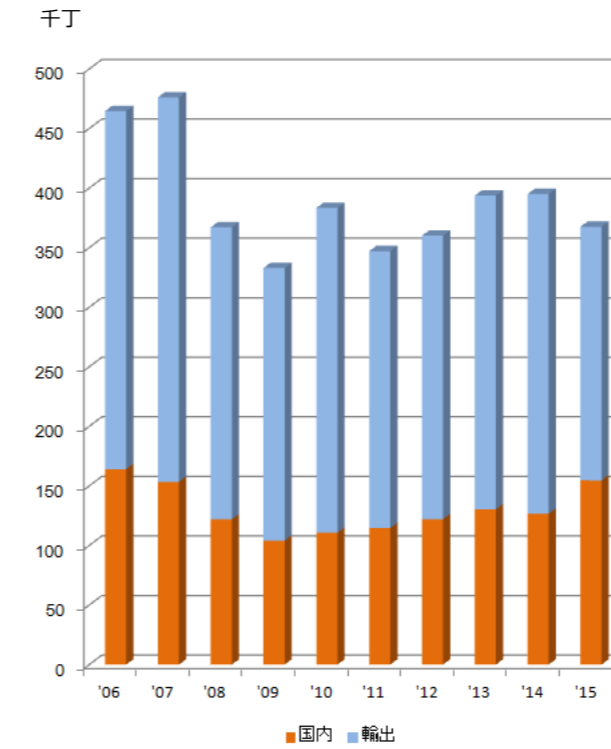


< 参考 > 投票社数

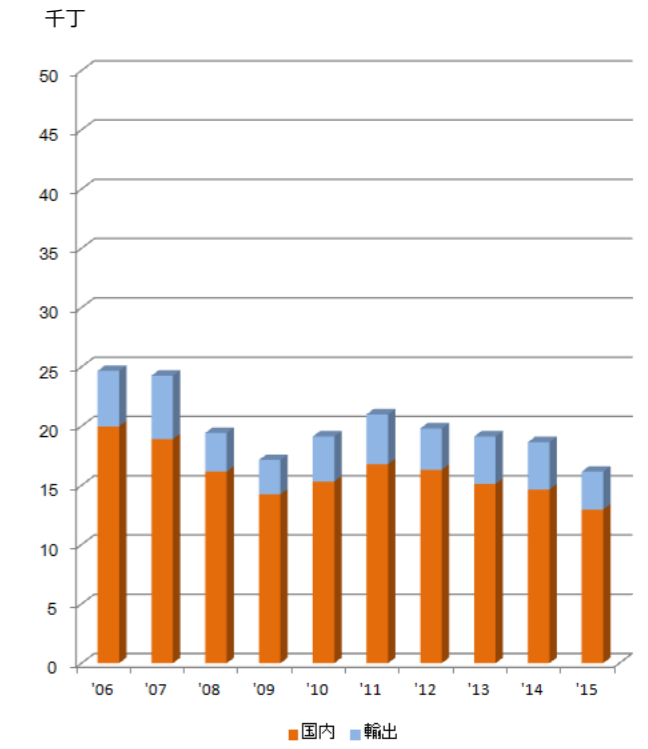
'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15
10	10	10	10	9	9	9	12	13	13

塗装機器出荷台数

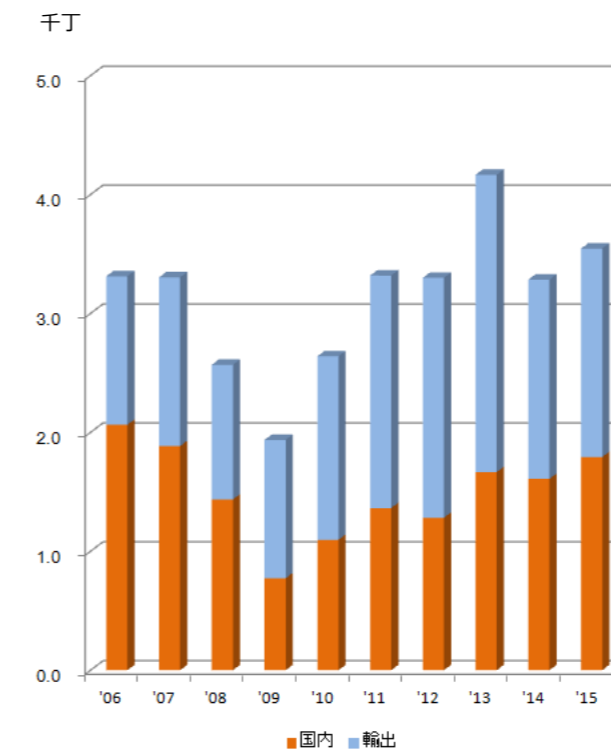
スプレーガン出荷台数



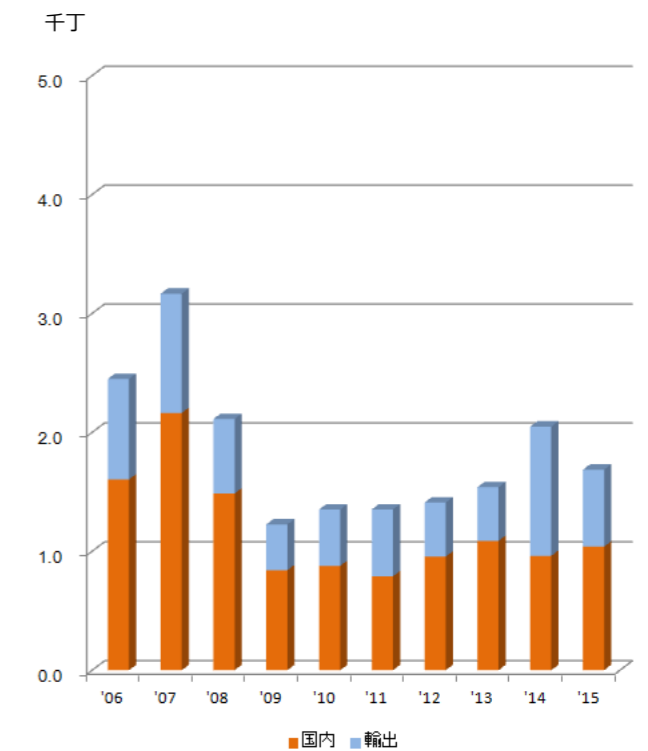
エアレスガン出荷台数



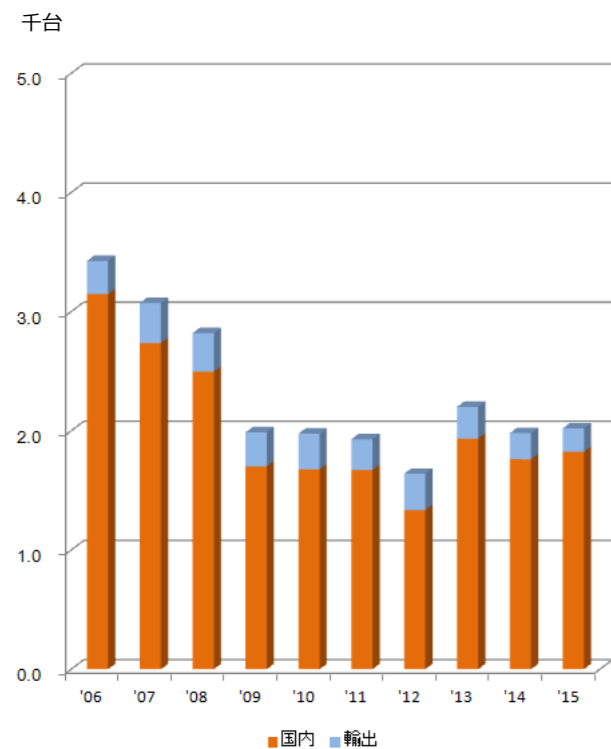
液体静電ガン出荷台数



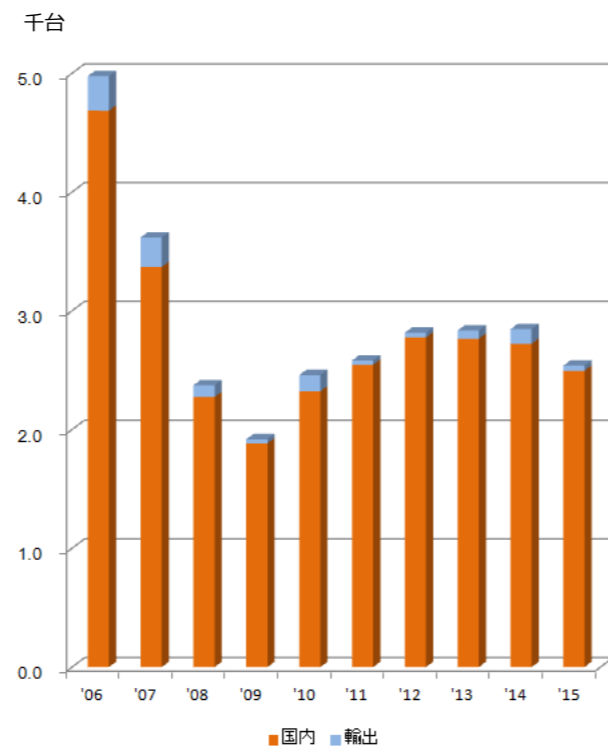
粉体静電ガン出荷台数



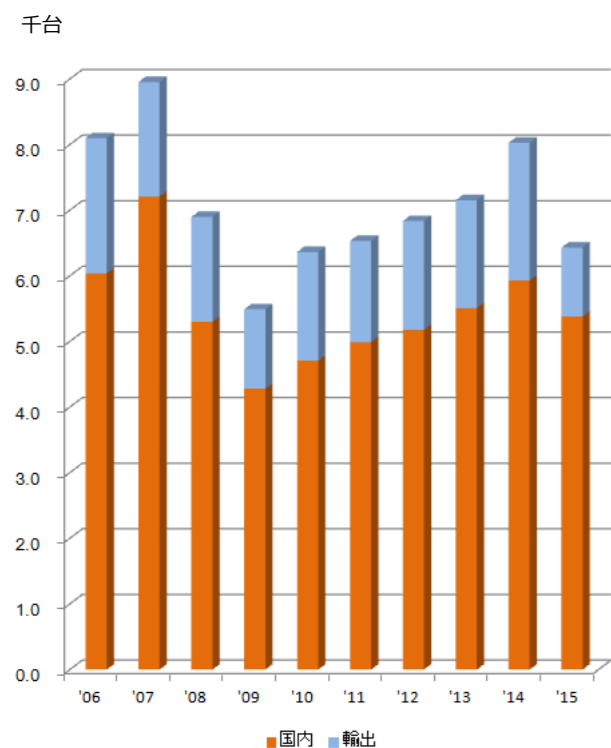
エアレス空気動ポンプ出荷台数



エアレス電動ポンプ出荷台数



ダイヤフラムポンプ出荷台数



編集後記

CEMA40年の歴史の記念としての本誌の発刊に際し、どのような構成にするかが問題であったが、幸い、20年誌、30年誌と10年単位で記念誌が発行されており、その流れでの40年誌とすることにした。従って、30年から40年までの10年間の歴史と現在から未来への発信という形でまとめることにした。

論語には40にして迷わずという「不惑」の言葉があり、40年経てばその後は、その継続で十分という意味だが、工業会は産業、経済、世界情勢などによりさまざまに臨機応変に対応することも求められる。ただ、対応するときには、判断、行動の原点は必要になる。本誌がCEMAの未来の原点の礎になれば幸いである。

本誌は短期間で3回の編集委員会を経ての作成であったが、編集に携わって頂いた、アネスト岩田(株)の武田、三好氏、ランズバーグ・インダストリー(株)の江口、久間氏の尽力に感謝する。また、表紙を始めとしたデザインを無償で提供されたタクボエンジニアリング(株)の小野氏に謝意を表す。デザインの趣旨は「CEMAが産業発展の推進役として未来へ貢献する」というコンセプトであり、CEMAの今後に期待する。

40年誌編集委員長 平野克己



2016.3.24 CEMA40周年記念誌
第一回打合せの様子





日本塗装機械工業会

<http://www.cema-net.com/>

事務局：〒162-0805 東京都新宿区矢来町3番地 塗料報知新聞社内
TEL：03-5579-2511



CEMA 40th Anniversary